

⑮ 病院医師における後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等

【後発医薬品メーカーの対応不備等】

- ・ 後発医薬品の中には包装や本体への識別コードについて記載不備のものがある。患者は一包化した薬を持参することもあるので、最低でも分かりやすい識別コード表示が望ましい。
- ・ 後発医薬品メーカーからの品質、効能、副作用、臨床データ等に関する情報提供が全くないのが不安である。
- ・ 後発医薬品メーカーに質問をしても何も答えは返ってこない。MRの顔さえもほとんど見ない。インターネットからも情報提供が得られない。
- ・ 後発医薬品を使用しているも、突然廃止になることがあるので、詳しい情報を提供してほしい。
- ・ 知らない会社の医薬品を使用しなければならないことに疑問を覚える。

【後発医薬品の品質等】

- ・ 降圧薬、抗不整脈薬、抗凝固薬、抗血小板薬の一部には品質、薬効、副作用に問題があり、患者が安心して受け入れることができないものが多い。
- ・ 後発医薬品の中で、時々、薬効不十分を感じることもある。後発医薬品は品質保証チェックがきちんと行われているのかどうか不安である。
- ・ 厚生労働省で後発医薬品製造許可メーカーを絞り込み、きちんとした品質で安定供給できるようにしてほしい。
- ・ 後発医薬品に変更されたことによる治療効果の減弱等の経験があり、一概に変更していくことへの不安を拭いきれない。薬効成分以外の薬剤の問題や溶解性の問題等、明らかにすべき点がある。
- ・ 一部の後発医薬品に関しては、明らかに薬効が劣る製品がある。この事実を、厚生労働省としてしっかり把握する必要があると考える。
- ・ 実際に後発医薬品へ変更した場合、血圧コントロールや、高脂血症、尿酸値など、コントロール不良となる症例が存在する。
- ・ 同成分・同効果というだけで、添加成分に差がある場合もあると聞く。小児に使用する際、アレルギーの問題は大きい。それにもかかわらず、添加成分のデータなどが十分に開示されていない。
- ・ 効能は保証されても安全性は全く同一ではないと感じる。
- ・ 効果や安全性に対する国としての評価の確立が必要である。
- ・ 副作用等に関する情報が皆無に近い。
- ・ 副作用の記載を先発医薬品の場合と全く同じでなく、独自の内容にしてはどうか。
- ・ 後発医薬品の人への投与の血中濃度や副作用などを、薬品会社が提示することを義務付

けるべきである。

【後発医薬品の商品名表示等】

- ・ 後発医薬品の名前を覚えきれず、また、後発医薬品がある薬剤かどうか不明であり、処方せんに後発医薬品の薬剤名を記入するのが大変である。
- ・ 調剤薬局のほうで変更調剤される後発医薬品について、時に名称が難しい印象を受ける。そのためカルテに転記する際などに、煩わしさを感じる。
- ・ 後発医薬品の商品名を覚えるのは無駄な労力を医師に要求している。後発医薬品の商品名はすべて「一般名＋メーカー名」とすべきである。
- ・ 後発医薬品の名称が「成分名＋会社名」など、分かりやすい方が患者にも抵抗なく変更してもらえる。また、誤りが起こりにくいのではないか。

【後発医薬品の適応】

- ・ 先発医薬品に比べて、適応疾患が少ないことがあり、レセプトで削られる可能性がある。そのため、適応症を的確に覚えておく必要があるが、実際には大変である。
- ・ 先発医薬品では適応疾患となっているが、後発医薬品では適応外となることがある。適応疾患を統一してほしい。

【後発医薬品使用促進のための環境整備】

- ・ 大学や総合病院（特に公的病院）の医師に、後発医薬品の効果・安全性を理解させる必要がある。
- ・ 患者が希望すればジェネリックを処方するようにしているものの、ジェネリックを希望する患者がまだとても少ない。
- ・ 後発医薬品の薬効に対しては特に疑問を持ったことがなく、患者の理解度が最も大切と思われる。患者側にある不安を払拭する必要がある。
- ・ 後発医薬品を使用すれば医療機関にも利益が多くなるようなシステムが、普及のポイントになると思う。
- ・ 医師、薬剤師（病院、薬局）双方に対して、もっと診療報酬上のメリットがないと、後発医薬品は普及しないと思う。

【後発医薬品処方における薬局との関係】

- ・ 当院では、近隣の保険薬局が処方する後発医薬品のメーカーがほぼ決まっている（約2社）のが現状で、非常に疑問を感じる。こちらは、いろいろなメーカーの、優れていると思われる薬剤をチョイスしているのに、実際に患者の手に渡るのは、後発医薬品の約2社の製品だと思いとやる気がなくなる。
- ・ 医療機関からの処方せんで、薬局が薬剤を後発医薬品としたが、適応がない薬剤に変更した。そのため保険者から、処方せん発行元の医療機関に査定減額が回った。こんな理

不十分な事があってよいのか。責任は変更した薬局にあると考えるのが妥当である。厚生労働省は「適応に差のある後発医薬品がある薬剤は変更不可にすればいい」と言うが、現実的に不可能であることは明らかだ。

- ・ 調剤薬局によって扱っている後発医薬品が異なり、患者から不満を言われることが多い。
- ・ 複数の施設から患者が処方を受けると、同成分なのに医薬品名が異なる薬剤が重なって処方される危険がある。間違っ重なって服用してしまわないためのシステムが必要だ。
- ・ 信頼できる後発医薬品を使用するのは問題ないが、どんな後発医薬品も自由に調剤薬局で薬剤変更できることに問題がある。
- ・ 後発医薬品になると適応が変わるものがあるため、機械的な変更をしないよう、薬局を指導してほしい。

【後発医薬品使用に当たっての責任の所在】

- ・ 後発医薬品に変更した際のトラブル（副作用、効果不十分等によるデメリット）に対する保証を明確にしてほしい。
- ・ 自分の知らないメーカーの後発医薬品が患者に処方され、副作用等で重大な事故が起こった場合の責任はどこにあるのか。
- ・ 副作用等の責任は医師にあると考えているため、ほとんどを変更不可にしている。
- ・ 病院や処方医は薬品名の記載とし、薬局はそこから製品を選ぶ。その際、副作用や障害が起きた場合の責任を病院に負わせない、というようにしてほしい。

【その他】

- ・ 不当な価格競争に伴う品質低下にならないようにしてほしい。
- ・ ライセンスが切れた段階で、先発メーカーが直ちに薬価を下げられないのは、逆に平等な競争の原則に反するのではないかと思う。
- ・ 外来で服用中の薬と、入院後の薬が変わってしまうので混乱を生じることがある。意図として推奨するのは当然のことと思うが、国民に対する情報が、コスト安や先発⇄後発など、あまりにも一側面に偏りすぎていると思う。国として、欠点も開示する責任があると思う。

(4) 患者調査の結果概要

【調査対象等】

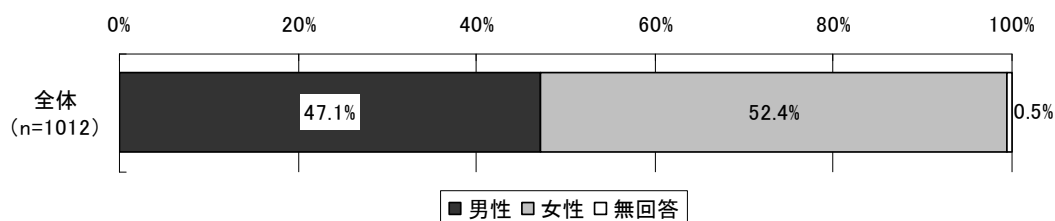
- 調査対象：「保険薬局調査」の対象施設に調査日に処方せんを持って来局した患者。
ただし、1施設につき最大4名の患者を対象とした（4名の内訳は、65歳以上の男性・女性各1名、65歳未満の男性・女性各1名）。
- 回答数：1,012人
- 回答者：患者本人または家族
- 調査方法：調査対象薬局を通じて配布。回収は各患者から調査事務局宛の返信用封筒にて直接回収

① 回答者の属性

1) 性別

回答者の性別についてみると、「男性」が47.1%、「女性」が52.4%であった。

図表 126 性別

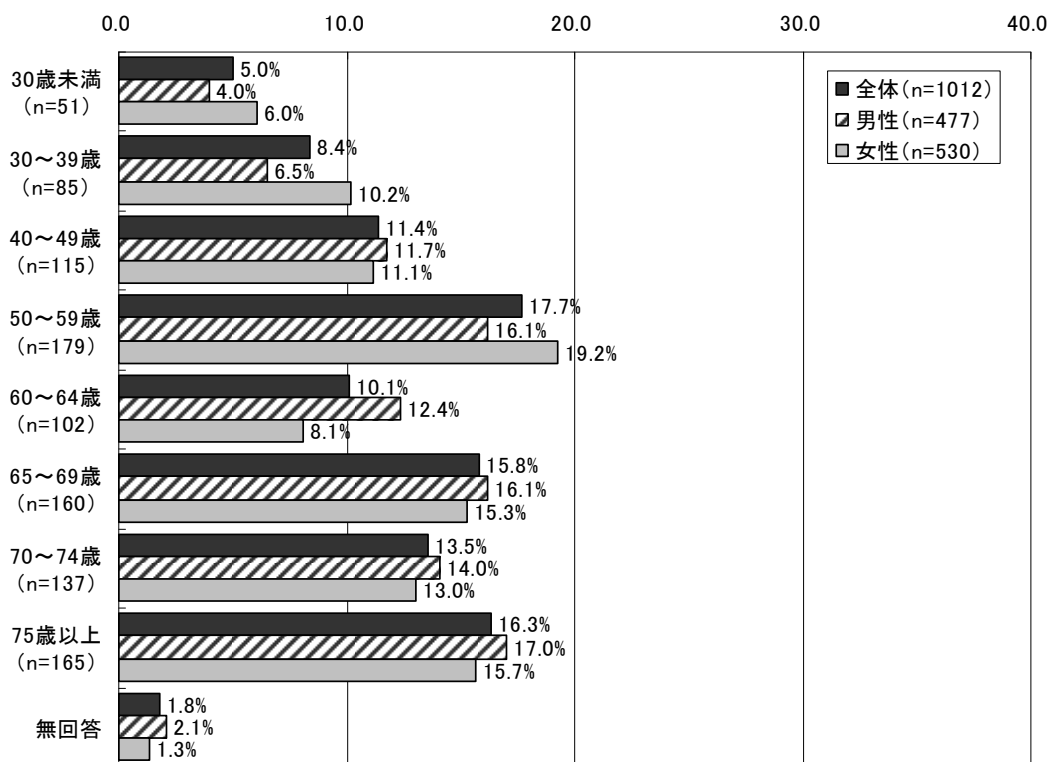


2) 年齢

回答者の年齢についてみると、全体では「50～59歳」（17.7%）が最も多く、次いで「75歳以上」（16.3%）、「65～69歳」（15.8%）となった。

年齢の平均は 59.5 歳（標準偏差 17.6、中央値 63.0）であった。

図表 127 男女別 年齢分布



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の5人を含む。

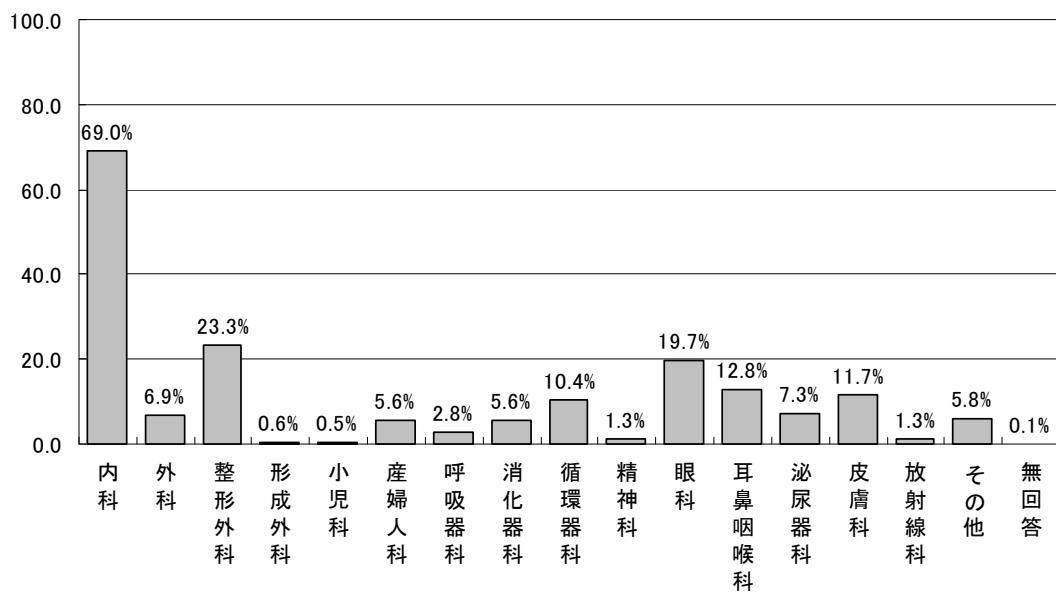
図表 128 平均年齢

	平均値	標準偏差	中央値
年齢 (歳)	59.5	17.6	63.0

3) 受診した診療科

受診した診療科についてみると、「内科」(69.0%)が最も多く、次いで、「整形外科」(23.3%)、「眼科」(19.7%)、「耳鼻咽喉科」(12.8%)、「皮膚科」(11.7%)、「循環器科」(10.4%)であった。

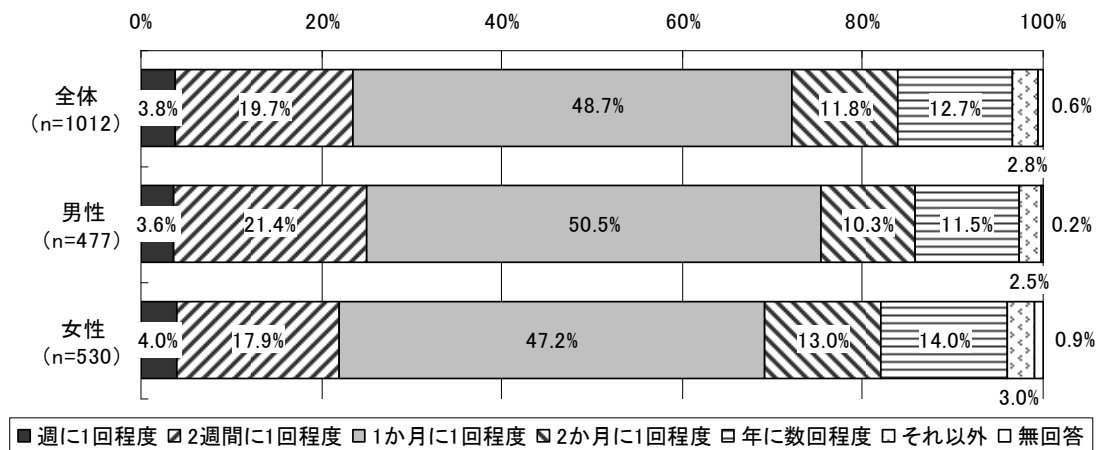
図表 129 受診した診療科（複数回答、n=1012）



4) 薬局への来局頻度

薬局への来局頻度についてみると、全体では「1か月に1回程度」(48.7%)が最も多く、次いで、「2週間に1回程度」(19.7%)、「年に数回程度」(12.7%)、「2か月に1回程度」(11.8%)であった。男女別にはあまり大きな差はみられなかった。

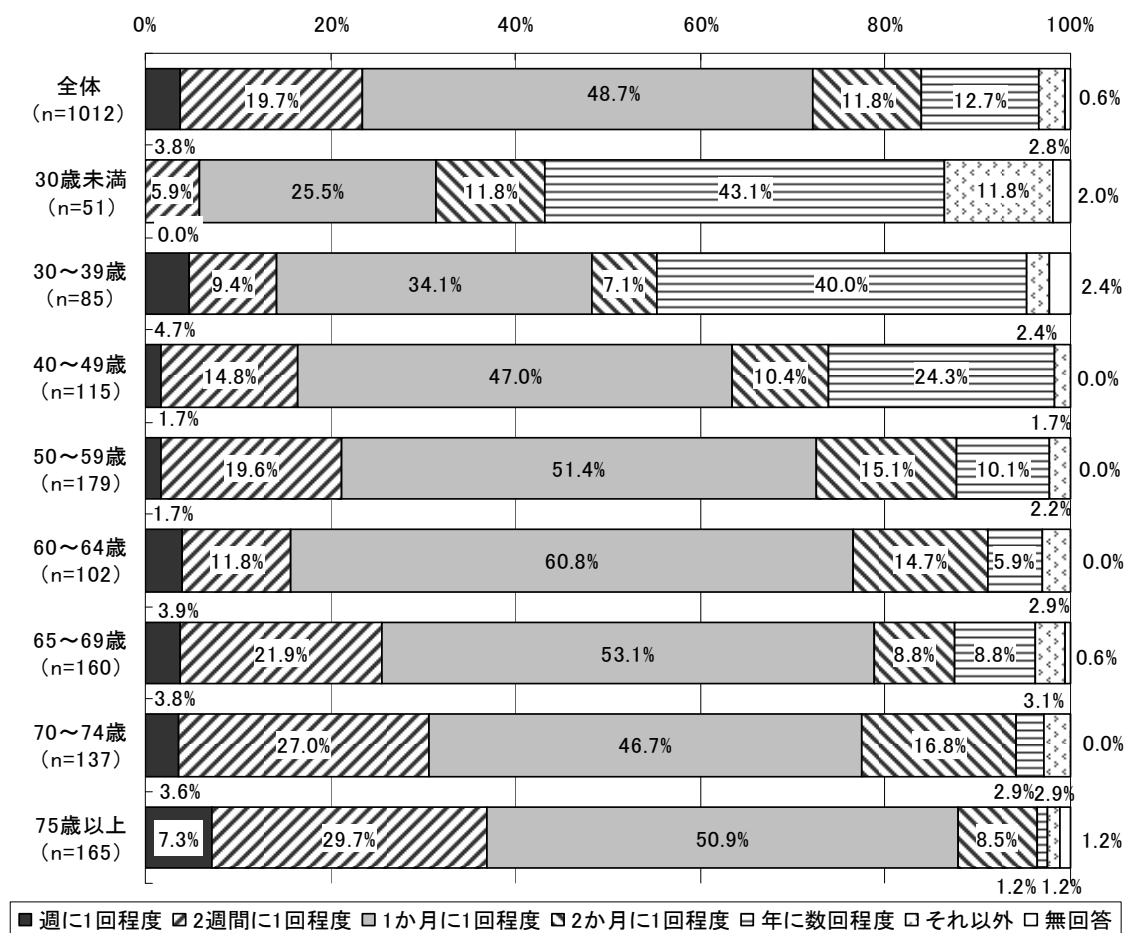
図表 130 薬局への来局頻度 (男女別)



(注) 「全体」には、「性別」について無回答の5人を含む。

年齢階級別に、薬局への来局頻度をみると、40歳以上ではどの年齢階級においても「1か月に1回程度」が最も多かった。また、65歳以上では年齢階級が高くなるほど「2週間に1回程度」の回答割合が高くなる傾向がみられた。「週に1回程度」、「2週間に1回程度」および「1か月に1回程度」を合わせた割合は、「65～69歳」では78.8%、「70～74歳」では77.3%、「75歳以上」では87.9%であった。

図表 131 薬局への来局頻度（年齢階級別）

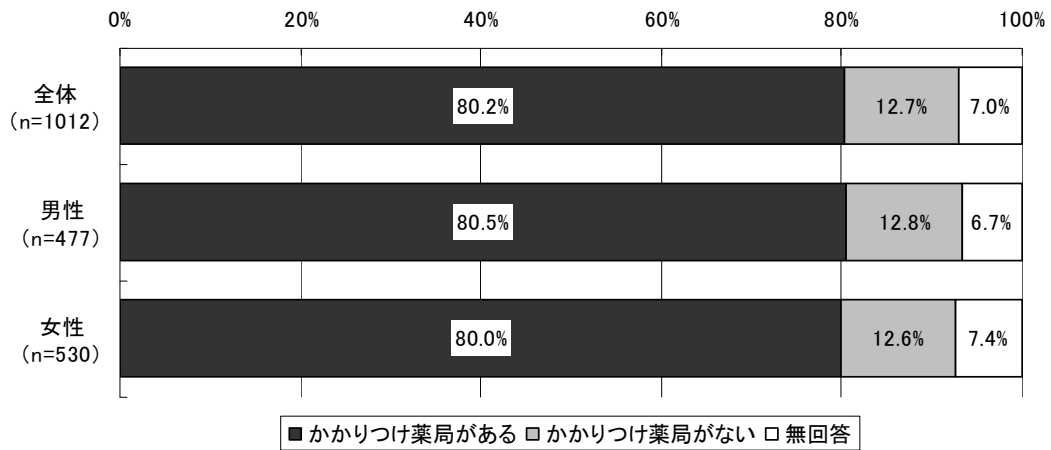


(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の18人を含む。

5) かかりつけ薬局の有無

かかりつけ薬局の有無についてみると、全体では、かかりつけ薬局が「ある」が80.2%、かかりつけ薬局が「ない」が12.7%となった。また、男女別にみても、男女ともに「ある」という回答が8割近くとなった。

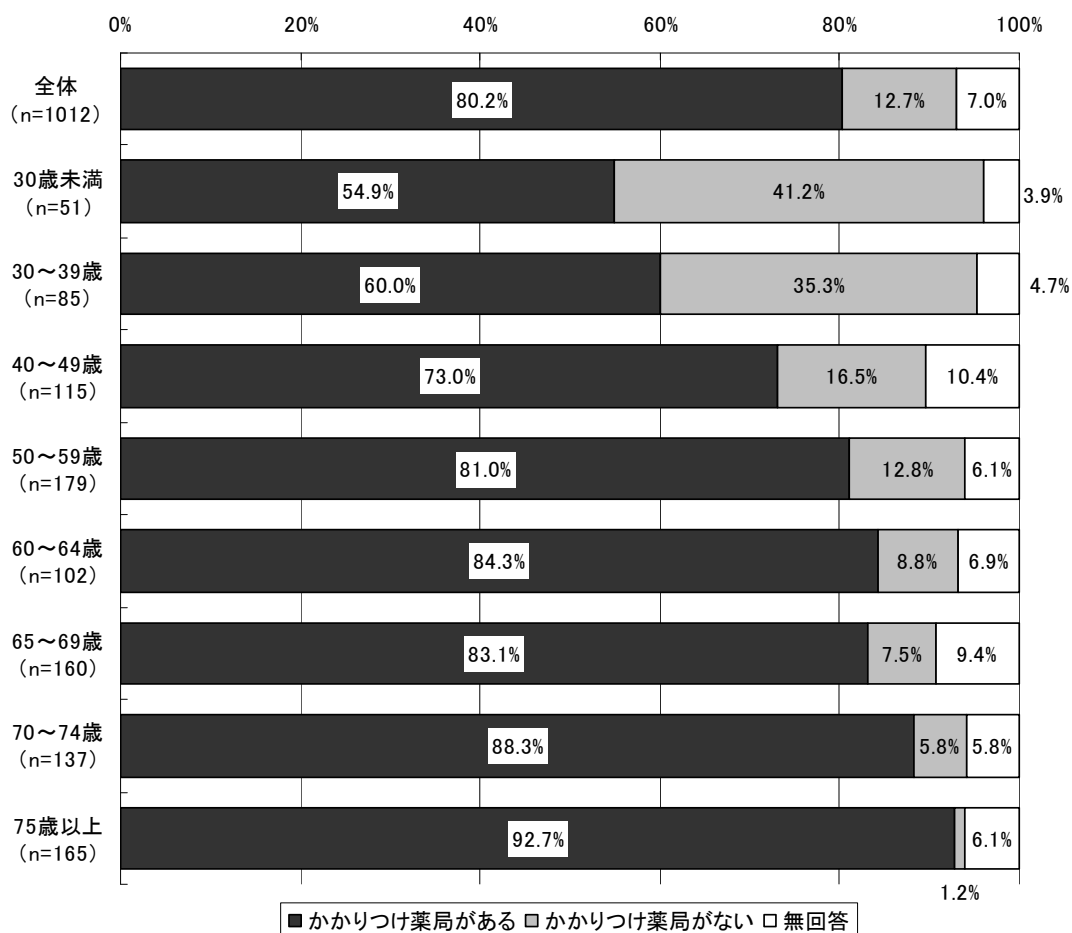
図表 132 かかりつけの薬局の有無（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の5人を含む。

年齢階級別に、かかりつけ薬局の有無をみると、40歳未満では「ある」という回答は6割以下であるが、40歳以上の各年齢階級においては、「ある」という回答が7割を超えている。特に「75歳以上」では、「ある」(92.7%)が9割を超えた。

図表 133 かかりつけの薬局の有無（年齢階級別）



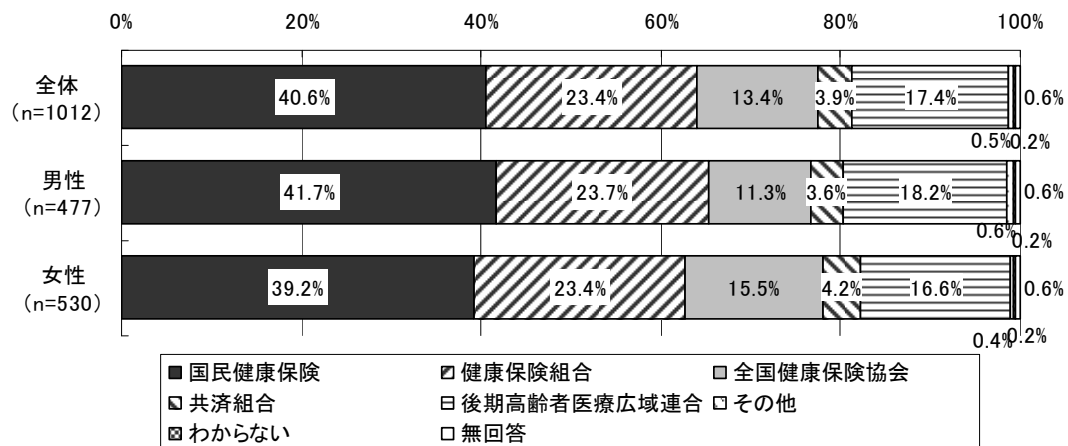
(注) 「全体」には、「年齢」について無回答の18人を含む。

6) 医療保険の種類

医療保険の種類をみると、全体では、「国民健康保険」(40.6%)が最も多く、次いで、「健康保険組合」(23.4%)、「後期高齢者医療広域連合」(17.4%)、「全国健康保険協会」(13.4%)、「共済組合」(3.9%)となった。

男女別にみると、女性では男性に比べて「全国健康保険協会」の割合が相対的にやや高い結果となったが、大きな相違はみられなかった。

図表 134 医療保険の種類（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答の5人を含む。

年齢階級別に、医療保険の種類をみると、60歳未満では「健康保険組合」が最も多いが、60歳以上75歳未満では「国民健康保険」が最も多い結果となった。なお、75歳以上ではすべて「後期高齢者医療広域連合」であった。

図表 135 医療保険の種類（年齢階級別）

（単位：上段「人」／下段「%」）

	総数	国民健康保険	健康保険組合	全国健康保険協会	共済組合	後期高齢者医療広域連合	その他	わからない	無回答
全体	1,012 100.0	411 40.6	237 23.4	136 13.4	39 3.9	176 17.4	5 0.5	2 0.2	6 0.6
30歳未満	51 100.0	12 23.5	20 39.2	15 29.4	2 3.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 3.9
30～39歳	85 100.0	20 23.5	33 38.8	29 34.1	3 3.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40～49歳	115 100.0	27 23.5	46 40.0	34 29.6	6 5.2	0 0.0	0 0.0	1 0.9	1 0.9
50～59歳	179 100.0	47 26.3	78 43.6	32 17.9	20 11.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.1
60～64歳	102 100.0	62 60.8	23 22.5	12 11.8	3 2.9	0 0.0	1 1.0	0 0.0	1 1.0
65～69歳	160 100.0	126 78.8	22 13.8	8 5.0	3 1.9	0 0.0	1 0.6	0 0.0	0 0.0
70～74歳	137 100.0	107 78.1	13 9.5	5 3.6	1 0.7	7 5.1	3 2.2	1 0.7	0 0.0
75歳以上	165 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	165 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

（注）「全体」には、「年齢」について無回答であった18人が含まれる。

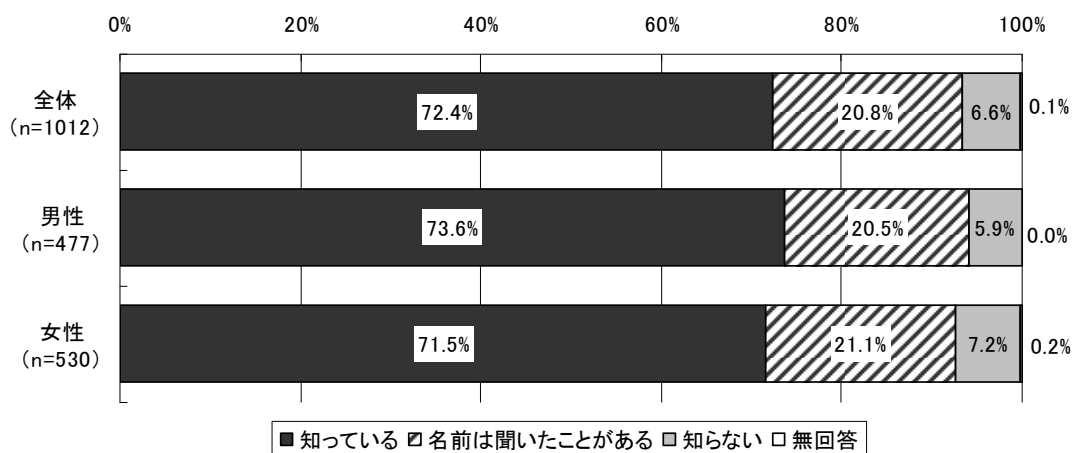
② 後発医薬品の使用状況

1) 後発医薬品の認知度

後発医薬品の認知状況についてみると、全体では、「知っている」が 72.4%、「名前は聞いたことがある」が 20.8%、「知らない」が 6.6%であった。

男女別にみても大きな差はみられなかった。

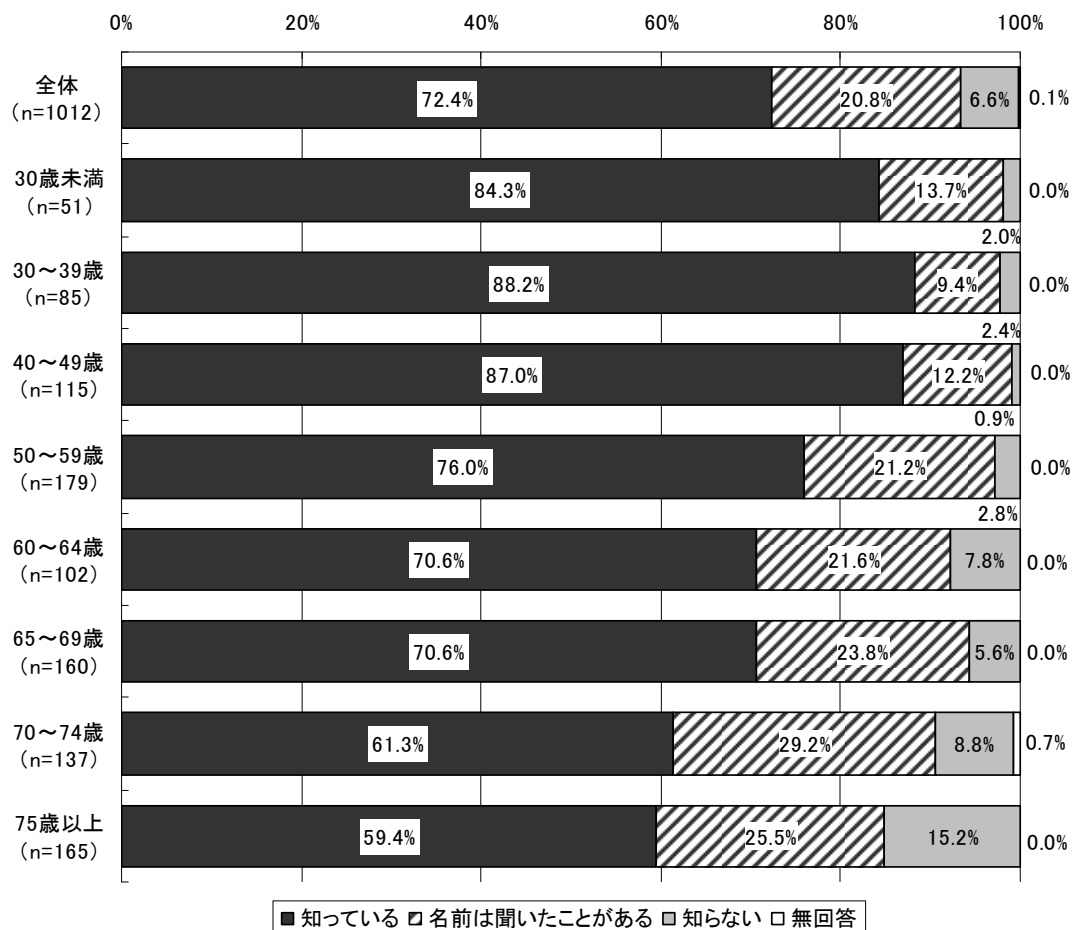
図表 136 後発医薬品の認知状況（男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答であった 5 人が含まれる。

後発医薬品の認知状況について年齢階級別にみると、年齢が高くなるにしたがって認知度が低くなる傾向がみられた。75歳以上では、後発医薬品を「知っている」が59.4%と約6割にとどまった。また、後発医薬品を「知らない」が15.2%となり、全体と比較して2倍以上の高さになった。

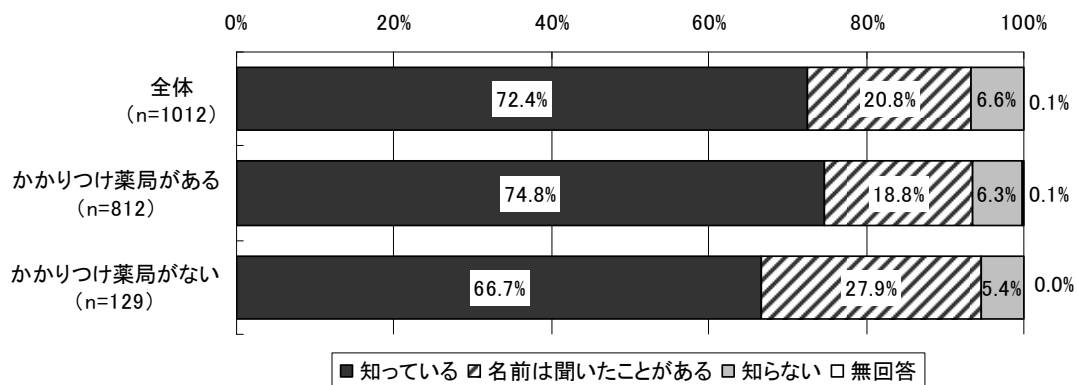
図表 137 後発医薬品の認知状況（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった18人が含まれる。

かかりつけ薬局の有無別に、後発医薬品の認知状況をみると、後発医薬品を「知っている」という回答は、「かかりつけ薬局がある」患者では 74.8%、「かかりつけ薬局がない」患者では 66.7%となり、8.1 ポイントの差があった。

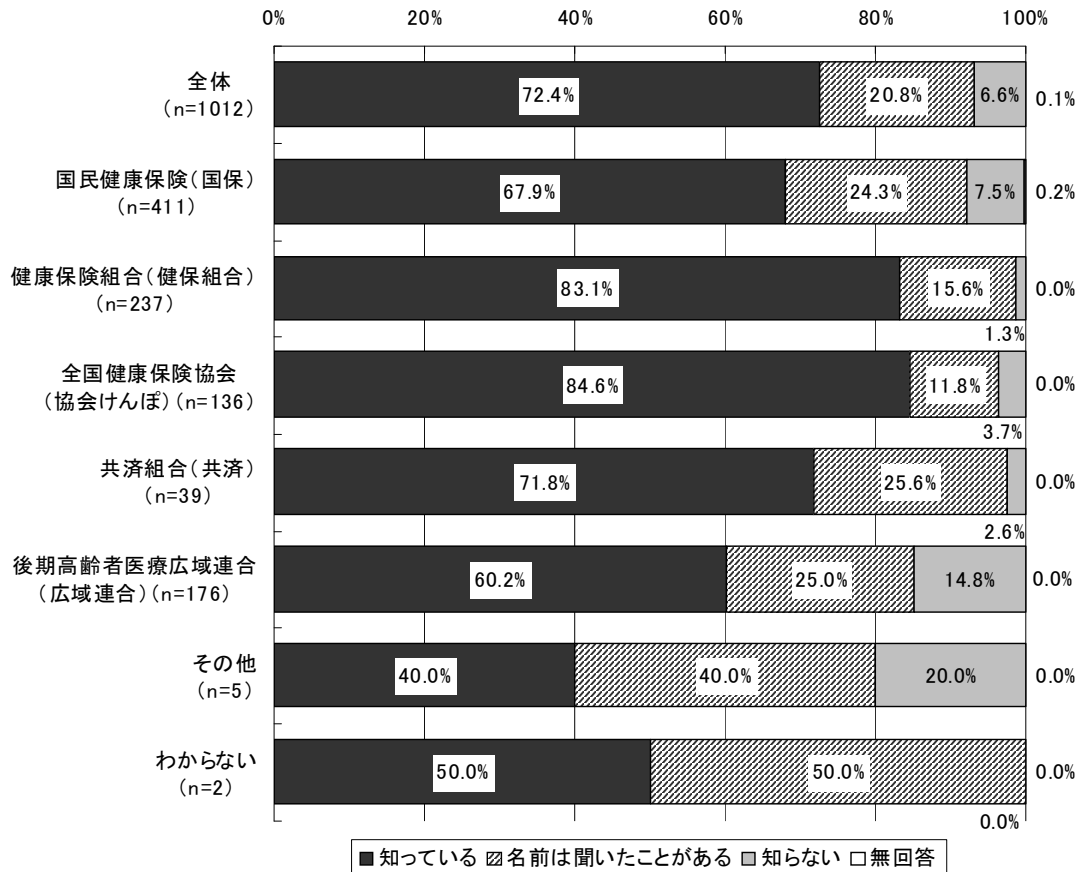
図表 138 後発医薬品の認知状況（かかりつけ薬局の有無別）



(注)「全体」には、「かかりつけ薬局の有無」について無回答であった 71 人が含まれる。

医療保険の種類別に、後発医薬品の認知状況をみると、「全国健康保険協会」と「健康保険組合」では、後発医薬品を「知っている」と回答した割合が 8 割を超えており、他の医療保険に比べ相対的に高い結果となった。

図表 139 後発医薬品の認知状況（医療保険の種類別）



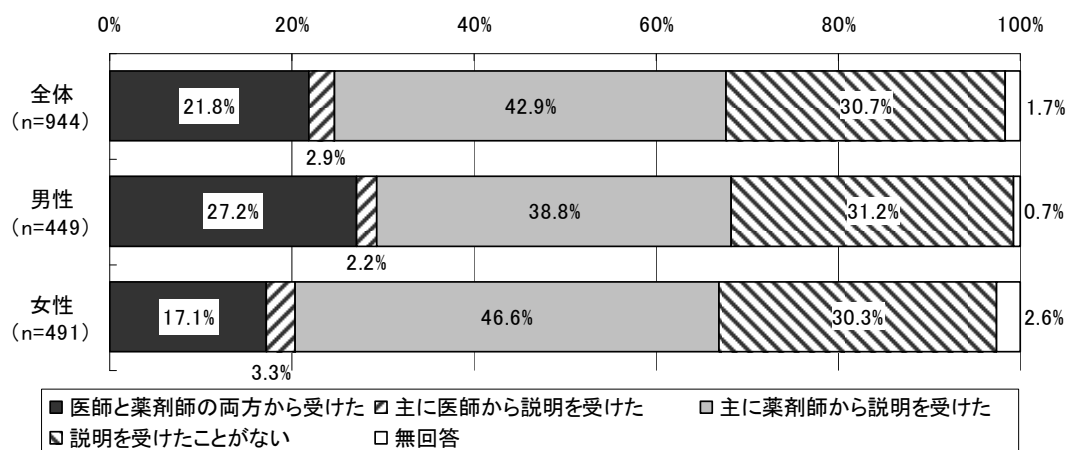
(注)「全体」には、「医療保険の種類」について無回答であった 6 人が含まれる。

2) 後発医薬品の主な説明者

後発医薬品を知っている人に対して後発医薬品の主な説明者を尋ねたところ、「主に薬剤師から」(42.9%)が最も多く、次いで「説明を受けたことがない」が30.7%、「医師と薬剤師の両方から受けた」が21.8%、「主に医師から説明を受けた」が2.9%であった。

男女別にみると、男女とも「主に薬剤師から説明を受けた」(それぞれ38.8%、46.6%)が最も多く、特に女性は男性に比べて7.8ポイント高い結果となった。男性は女性に比べて「医師と薬剤師の両方から受けた」(それぞれ27.2%、17.1%)が10.1ポイント高い結果となった。

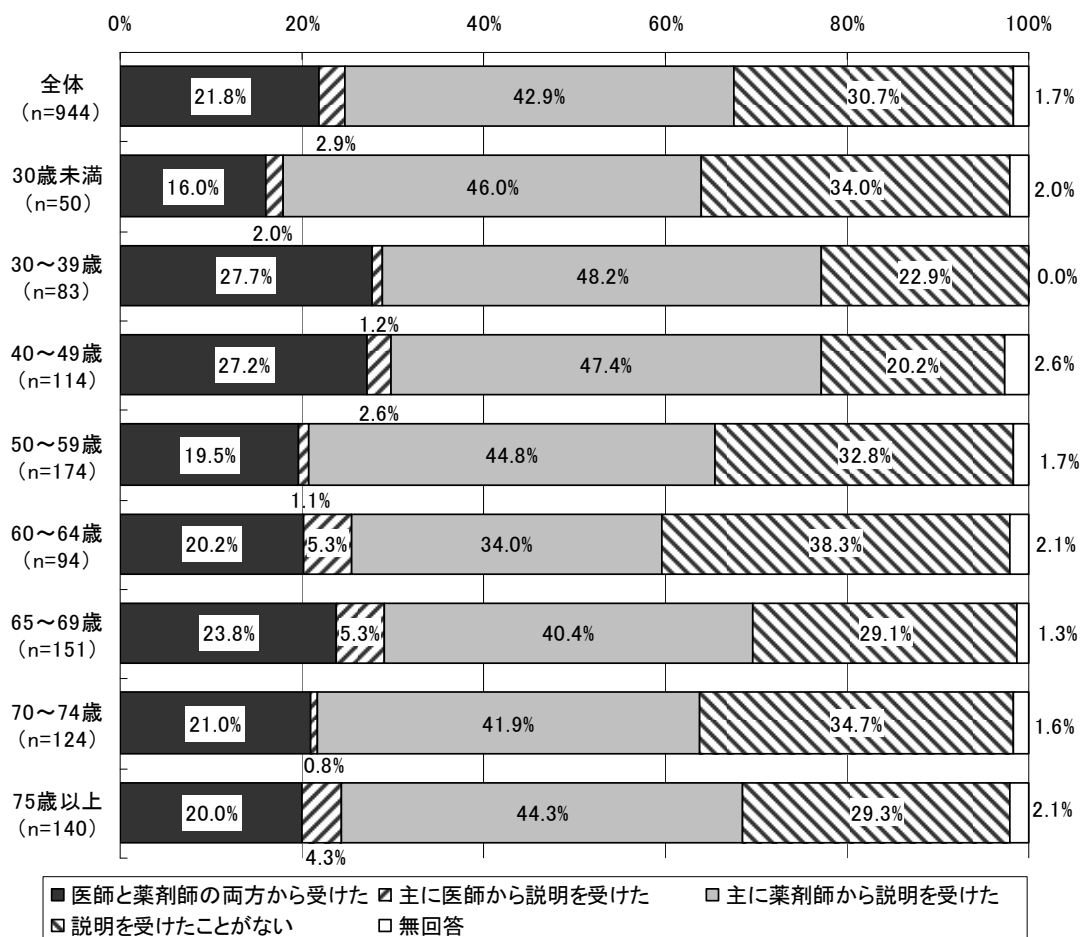
図表 140 後発医薬品の主な説明者（後発医薬品を知っている人、男女別）



(注)「全体」には、「性別」について無回答であった4人が含まれる。

後発医薬品を知っている人について年齢階級別に、後発医薬品の主な説明者をみると、「30～39歳」「40～49歳」で、「医師と薬剤師の両方から受けた」（それぞれ27.7%、27.2%）が約3割となり、他の年齢階級や全体と比べて相対的に高い結果となった。

図表 141 後発医薬品の主な説明者（後発医薬品を知っている人、年齢階級別）



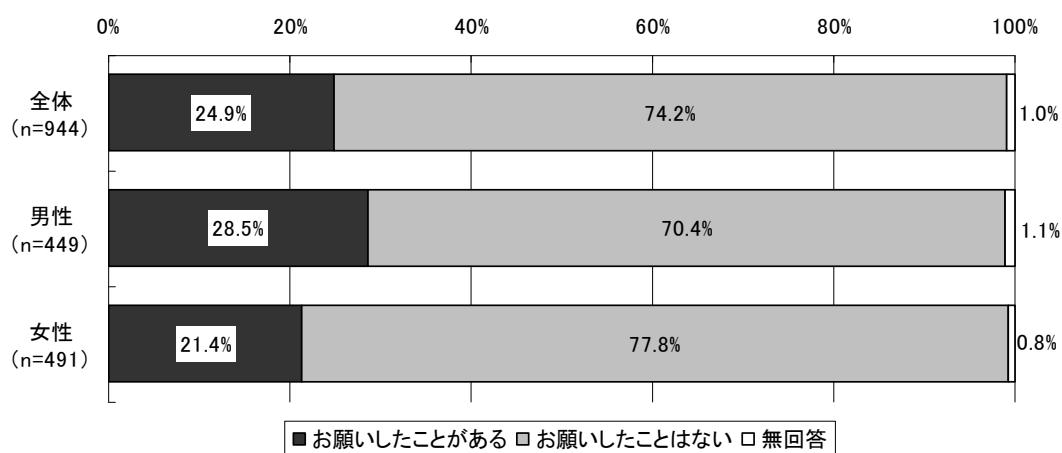
(注) 「全体」には、「年齢」について無回答であった14人が含まれる。

3) 後発医薬品の処方や調剤の依頼経験の有無

後発医薬品を知っている人に対して、後発医薬品の処方や調剤の依頼経験の有無を尋ねたところ、全体では、後発医薬品の処方や調剤を「お願いしたことがある」が24.9%、「お願いしたことはない」が74.2%であった。

男女別にみると、男性では「お願いしたことがある」が28.5%となり、女性（21.4%）より7.1ポイント高い結果となった。

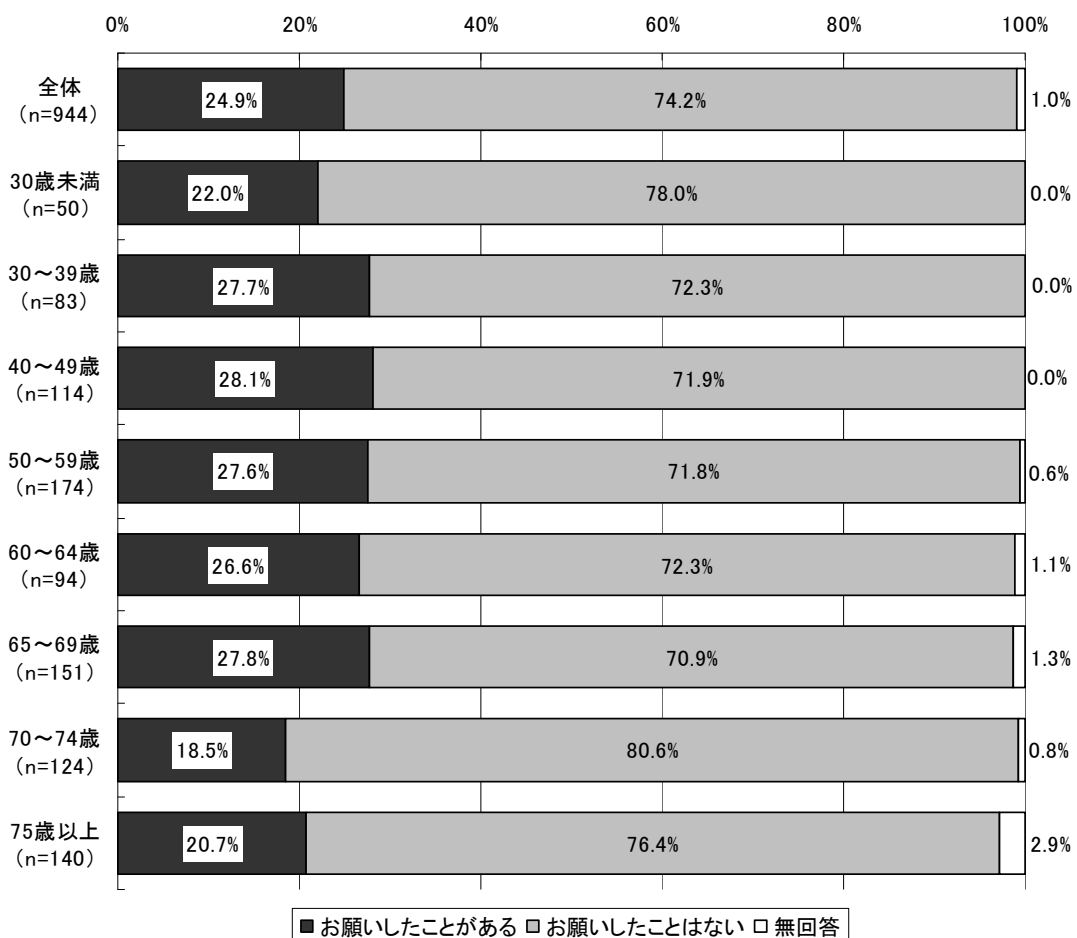
図表 142 後発医薬品の処方や調剤の依頼経験の有無
(後発医薬品を知っている人、男女別)



(注)「全体」には、「性別」について無回答であった4人が含まれる。

後発医薬品を知っている人について、年齢階級別に後発医薬品の処方や調剤の依頼経験の有無をみると、30歳以上70歳未満の各年齢階級では、「お願いしたことがある」という回答が約3割となったが、「30歳未満」(22.0%)、「70～74歳」(18.5%)、「75歳以上」(20.7%)では、全体と比較して相対的に低い結果となった。

図表 143 後発医薬品の処方や調剤の依頼経験の有無
(後発医薬品を知っている人、年齢階級別)



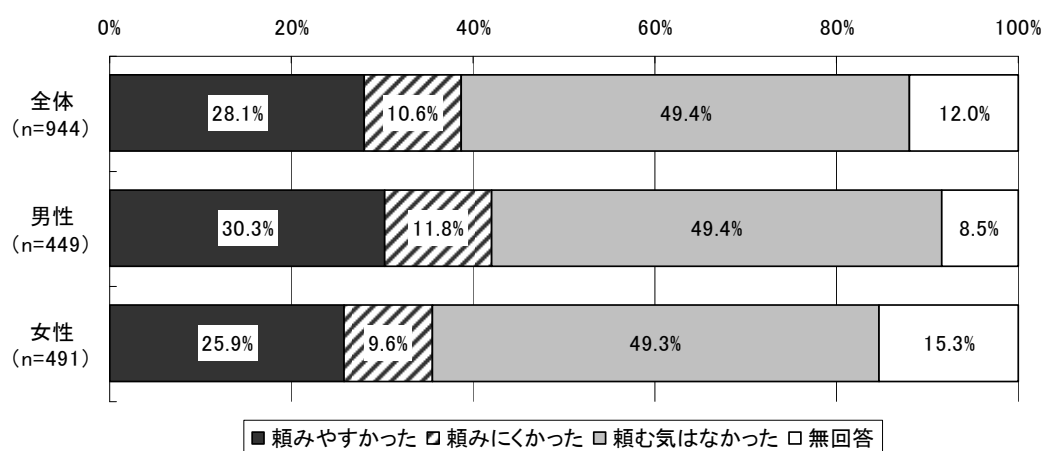
(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった14人が含まれる。

4) 医師や薬剤師に対する後発医薬品の頼みやすさ

後発医薬品を知っている人に対して、医師や薬剤師に対する後発医薬品の頼みやすさを尋ねたところ、「頼みやすかった」が28.1%、「頼みにくかった」が10.6%、「頼む気はなかった」が49.4%となった。

男女別にみると、男性は女性と比べて「頼みやすかった」（それぞれ30.3%、25.9%）が4.4ポイント高かった。

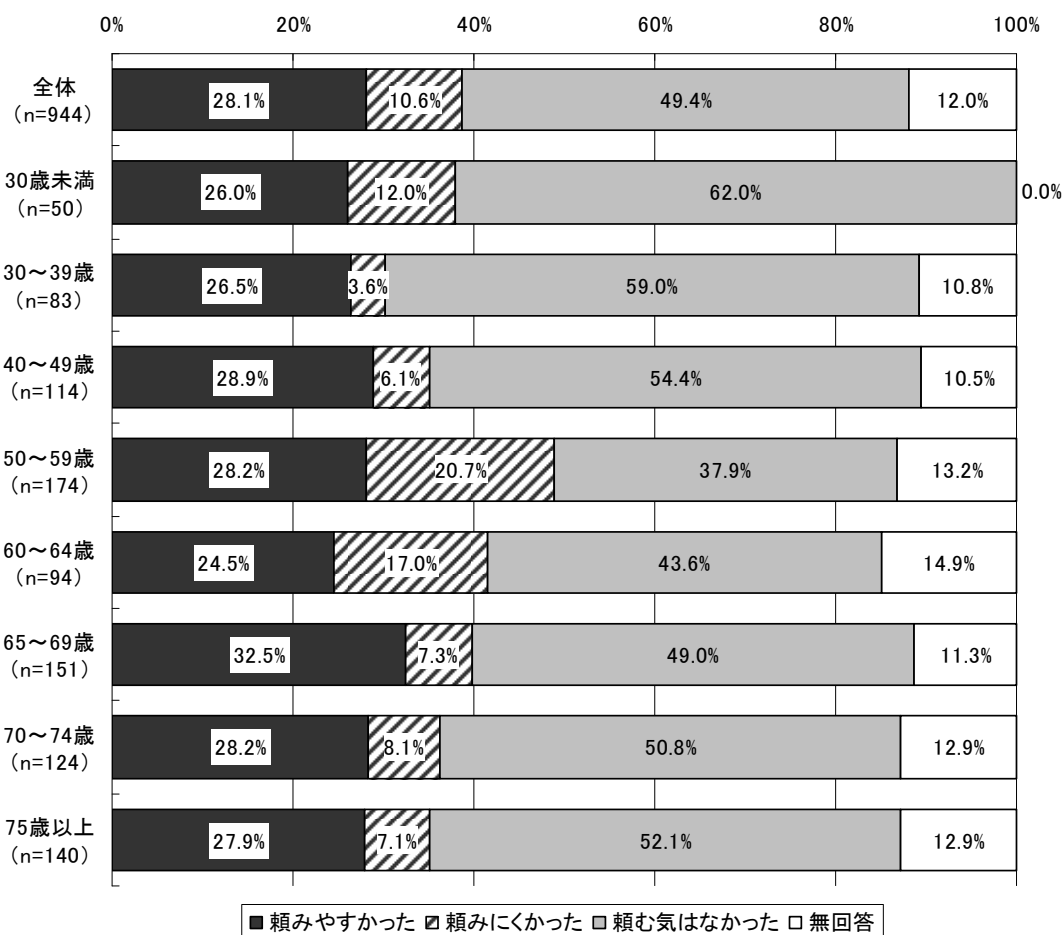
図表 144 医師や薬剤師に対する後発医薬品の頼みやすさ
(後発医薬品を知っている人、男女別)



(注) 「全体」には「性別」について無回答であった4人が含まれる。

後発医薬品を知っている人について、年齢階級別に医師や薬剤師に対する後発医薬品の頼みやすさをみると、「30歳未満」「50～59歳」「60～64歳」では「頼みにくかった」と回答した割合が全体と比べると相対的に高かった。また、「30歳未満」「30～39歳」「40～49歳」「70～74歳」「75歳以上」では「頼む気はなかった」と回答した割合が5割を超え、全体と比べても相対的に高い結果となった。

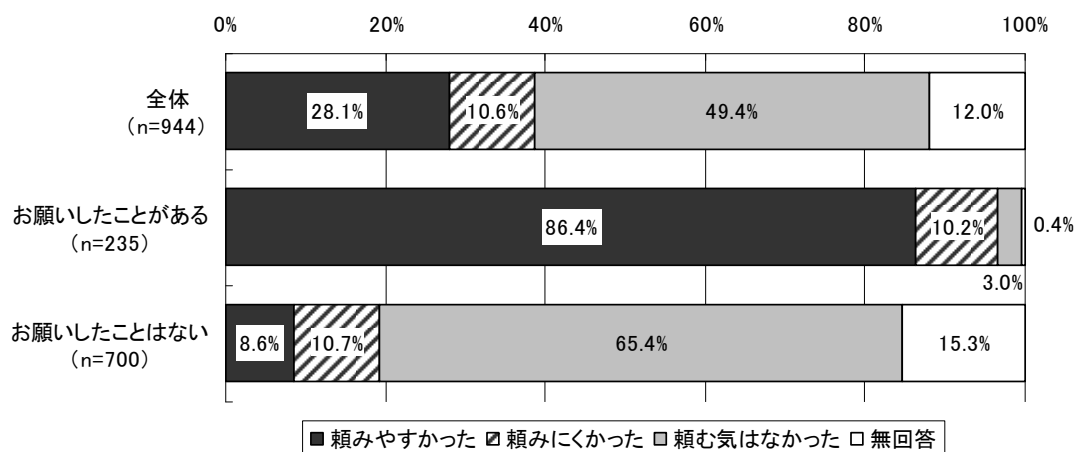
図表 145 医師や薬剤師に対する後発医薬品の頼みやすさ
(後発医薬品を知っている人、年齢階級別)



(注) 「全体」には、「年齢」について無回答であった14人が含まれる。

後発医薬品を知っている人について、後発医薬品の依頼経験の有無別に医師や薬剤師に対する後発医薬品の頼みやすさをみると、後発医薬品の処方や調剤を「お願いしたことがある」患者では「頼みやすかった」が 86.4%となった。一方、後発医薬品の処方や調剤を「お願いしたことはない」患者では「頼む気はなかった」が 65.4%で最も多く、次いで、「頼みにくかった」が 10.7%となった。

図表 146 医師や薬剤師に対する後発医薬品の頼みやすさ
(後発医薬品を知っている人、後発医薬品の依頼経験の有無別)

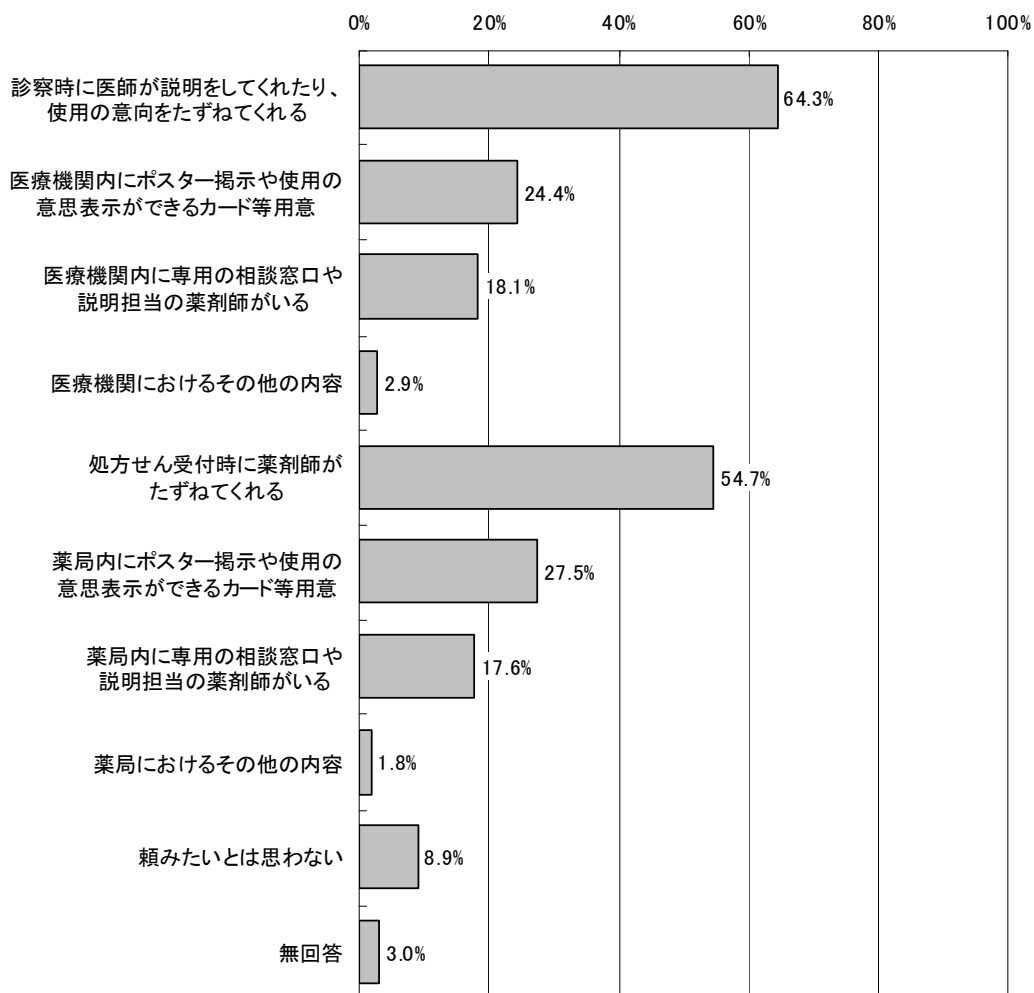


(注) 「全体」には、「後発医薬品依頼経験の有無」について無回答であった9人が含まれる。

5) 後発医薬品の処方や調剤を頼みやすくするために求める対応

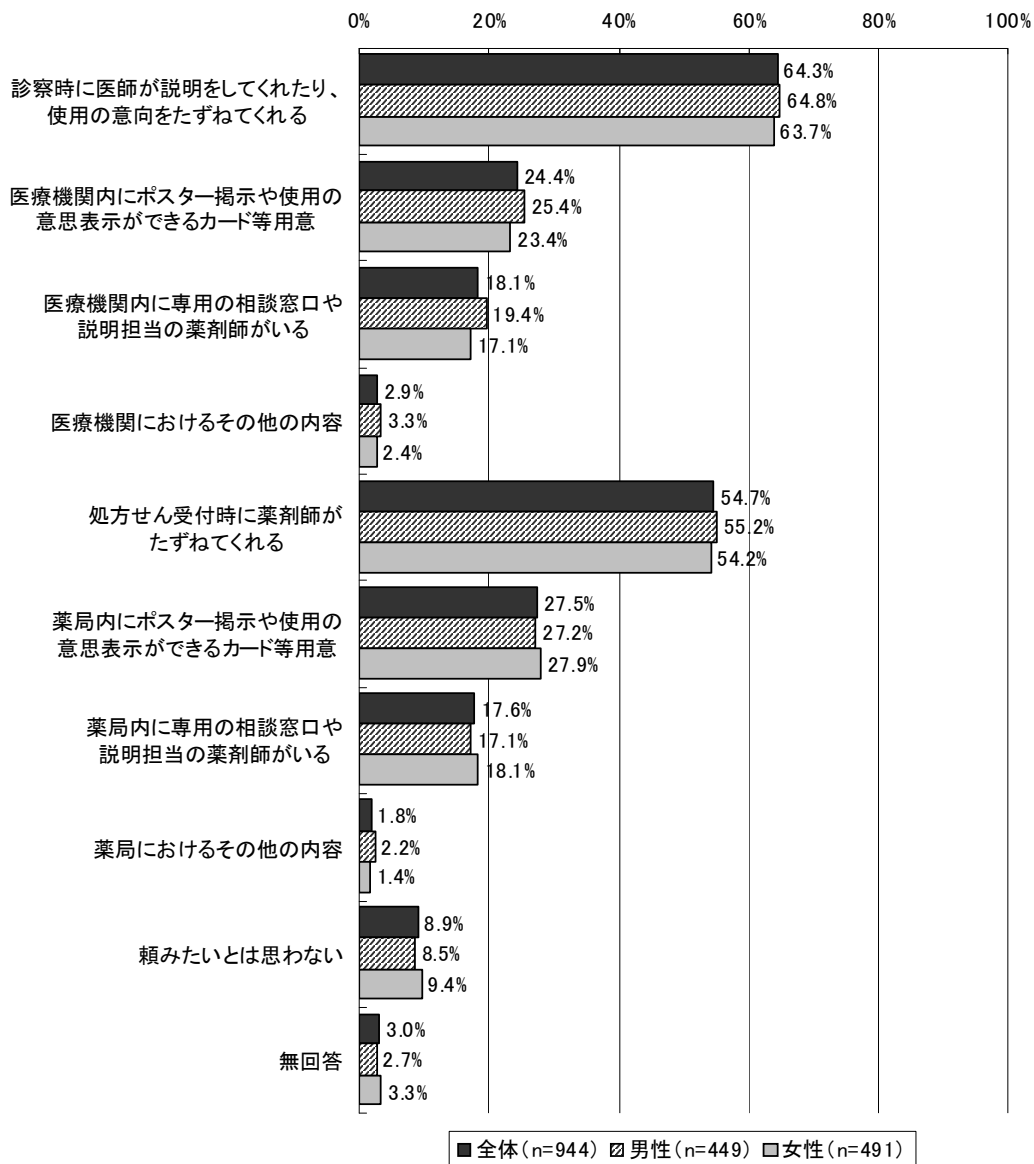
後発医薬品を知っている人について、後発医薬品の処方や調剤を頼みやすくするために求める対応をみると、「診察時に医師が説明をしてくれたり、使用の意向をたずねてくれる」(64.3%)が最も多く、次いで「処方せん受付時に薬剤師がたずねてくれる」(54.7%)、「薬局内にポスター掲示や使用の意思表示ができるカード等用意」(27.5%)、「医療機関内にポスター掲示や使用の意思表示ができるカード等用意」(24.4%)、「医療機関内に専用の相談窓口や説明担当の薬剤師がいる」(18.1%)、「薬局内に専用の相談窓口や説明担当の薬剤師がいる」(17.6%)となった。

図表 147 後発医薬品の処方や調剤を頼みやすくするために求める対応
(後発医薬品を知っている人、複数回答、n=944)



後発医薬品を知っている人について、男女別に後発医薬品の処方や調剤を頼みやすくするために求める対応をみると、男女による大きな差異はみられなかった。

図表 148 後発医薬品の処方や調剤を頼みやすくするために求める対応
(後発医薬品を知っている人、男女別)



(注)「全体」には「性別」について無回答であった4人が含まれる。

後発医薬品を知っている人について、年齢階級別に後発医薬品の処方や調剤を頼みやすくするために求める対応をみると、65歳未満では「診察時に医師が説明をしてくれたり、使用の意向をたずねてくれる」が66%以上を占め、全体と比較しても高い回答割合となった。

図表 149 後発医薬品の処方や調剤を頼みやすくするために求める対応
(後発医薬品を知っている人、年齢階級別)

(単位：上段「人」／下段「%」)

	総数	診察時に医師が説明をしてくれたり、使用の意向をたずねてくれる	医療機関内にポスター掲示や使用の意思表示ができるカード等用意	説明担当の薬剤師がいる	医療機関内に専用の相談窓口や	医療機関におけるその他の対応	処方せん受付時に薬剤師がたずねてくれる	薬局内にポスター掲示や使用の意思表示ができるカード等用意	説明担当の薬剤師がいる	薬局内に専用の相談窓口や	薬局におけるその他の対応	頼みたいとは思わない	無回答
全体	944 100.0	607 64.3	230 24.4	171 18.1	27 2.9	516 54.7	260 27.5	166 17.6	17 1.8	84 8.9	28 3.0		
30歳未満	50 100.0	33 66.0	15 30.0	5 10.0	1 2.0	28 56.0	15 30.0	8 16.0	1 2.0	3 6.0	0 0.0		
30～39歳	83 100.0	60 72.3	22 26.5	11 13.3	3 3.6	48 57.8	24 28.9	14 16.9	1 1.2	10 12.0	0 0.0		
40～49歳	114 100.0	76 66.7	28 24.6	19 16.7	2 1.8	66 57.9	32 28.1	22 19.3	2 1.8	11 9.6	2 1.8		
50～59歳	174 100.0	115 66.1	44 25.3	34 19.5	5 2.9	95 54.6	50 28.7	33 19.0	1 0.6	12 6.9	3 1.7		
60～64歳	94 100.0	71 75.5	15 16.0	14 14.9	2 2.1	55 58.5	24 25.5	18 19.1	1 1.1	6 6.4	3 3.2		
65～69歳	151 100.0	86 57.0	41 27.2	25 16.6	3 2.0	75 49.7	43 28.5	25 16.6	2 1.3	17 11.3	5 3.3		
70～74歳	124 100.0	74 59.7	33 26.6	31 25.0	3 2.4	71 57.3	36 29.0	22 17.7	4 3.2	11 8.9	5 4.0		
75歳以上	140 100.0	82 58.6	31 22.1	30 21.4	7 5.0	69 49.3	33 23.6	23 16.4	5 3.6	13 9.3	9 6.4		

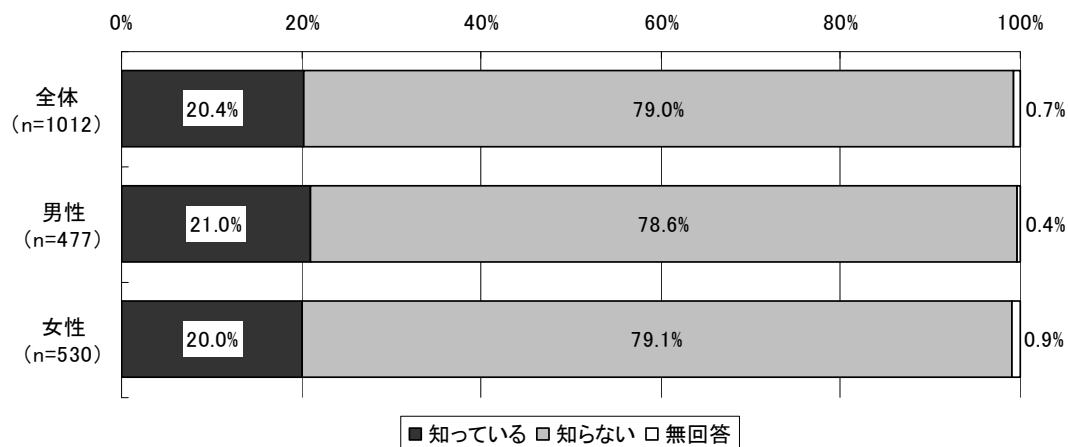
(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった14人が含まれる。

6) 「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度

「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度についてみると、「知っている」が 20.4%、「知らない」が 79.0%となった。

男女別にみると、男女による差異はみられなかった。

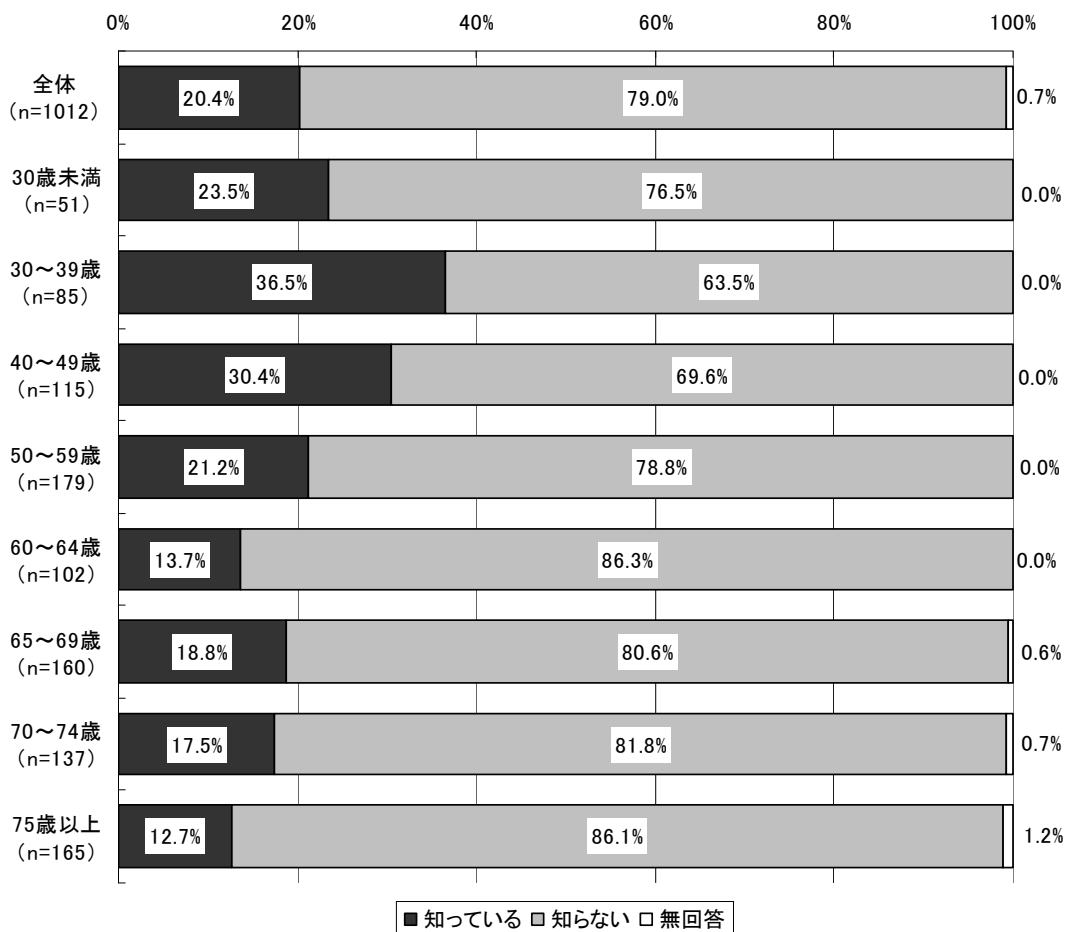
図表 150 「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度（男女別）



(注) 「全体」には「性別」について無回答であった 5 人が含まれる。

年齢階級別に、「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度をみると、「30～39歳」、「40～49歳」では、「知っている」の回答割合が3割以上となっており、全体や他の年齢階級と比較して相対的に高かった。一方、60歳以上では、「知らない」が8割を超える結果となった。

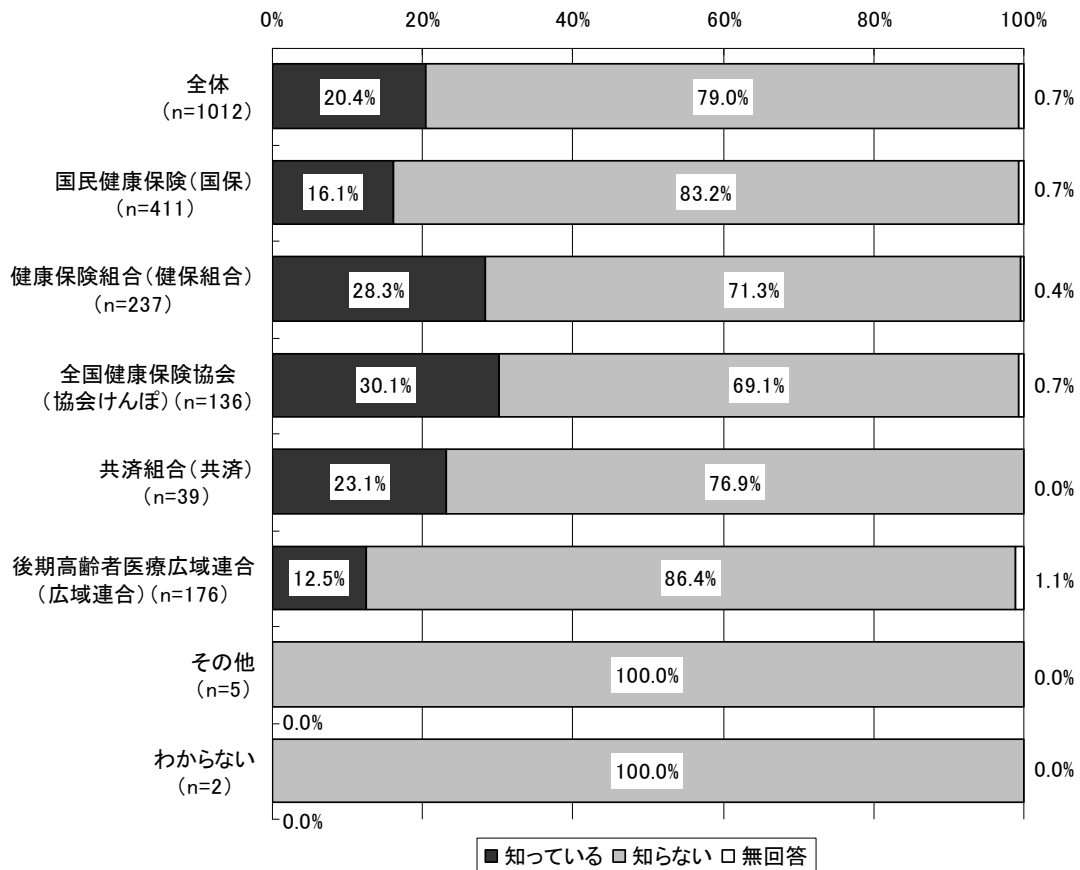
図表 151 「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった18人が含まれる。

医療保険の種類別に、「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度をみると、「全国健康保険協会（協会けんぽ）」「健康保険組合（健保組合）」「共済組合（共済）」では、「知っている」という回答が全体と比較して相対的に高い割合となった。一方、「後期高齢者医療広域連合（広域連合）」や「国民健康保険（国保）」では、「知らない」が8割を超える結果となった。

図表 152 「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度（医療保険の種類別）



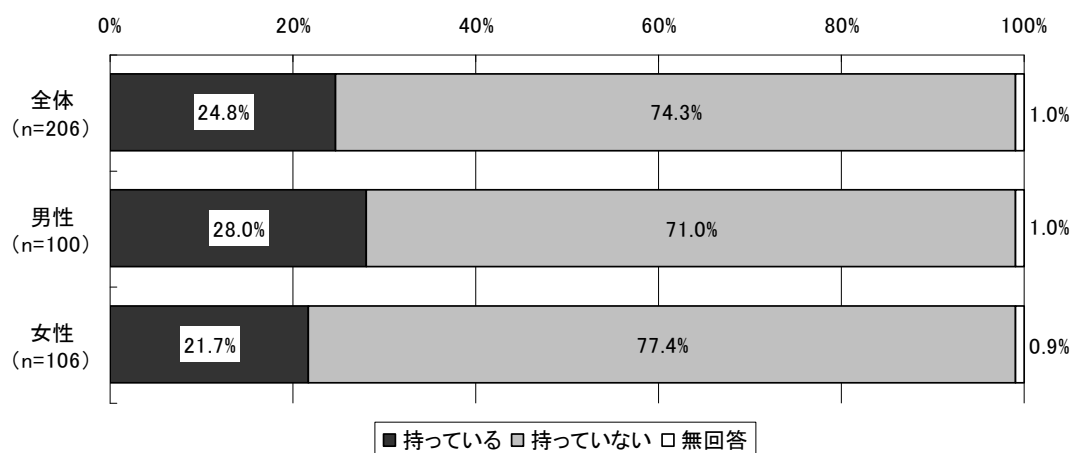
(注)「全体」には「医療保険の種類」について無回答であった6人が含まれる。

7) 「ジェネリック医薬品希望カード」の所有状況

「ジェネリック医薬品希望カード」を「知っている」と回答した人に対して、「ジェネリック医薬品希望カード」の所有状況を尋ねたところ、「持っている」が 24.8%、「持っていない」が 74.3%となった。

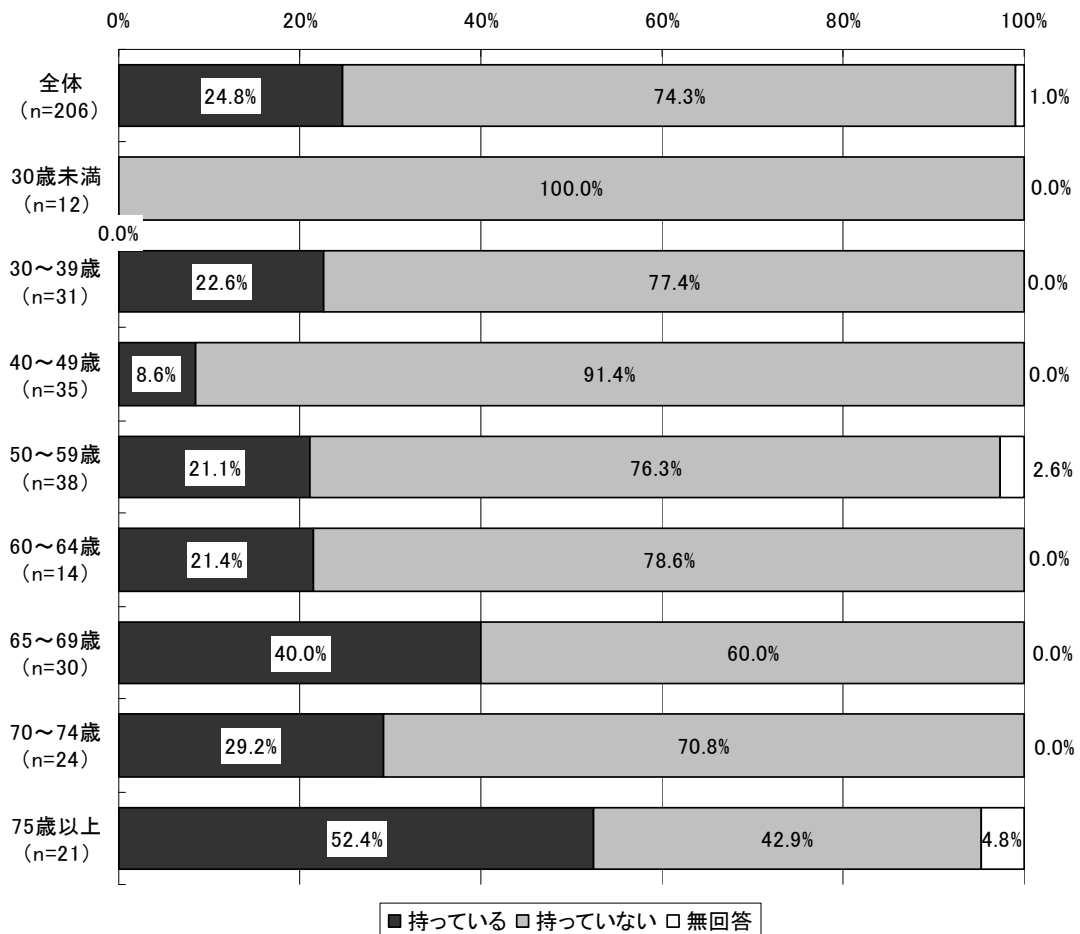
男女別にみると、男性では「持っている」が 28.0%となり、女性（21.7%）と比べると 6.3 ポイント高かった。

図表 153 「ジェネリック医薬品希望カード」の所有状況
（「ジェネリック医薬品カード」を知っている人、男女別）



「ジェネリック医薬品希望カード」を知っている人について、年齢階級別に「ジェネリック医薬品希望カード」の所有状況をみると、「65～69歳」と「75歳以上」で「持っている」と回答した割合が4割以上となり、全体と比べて相対的に高い結果となった。

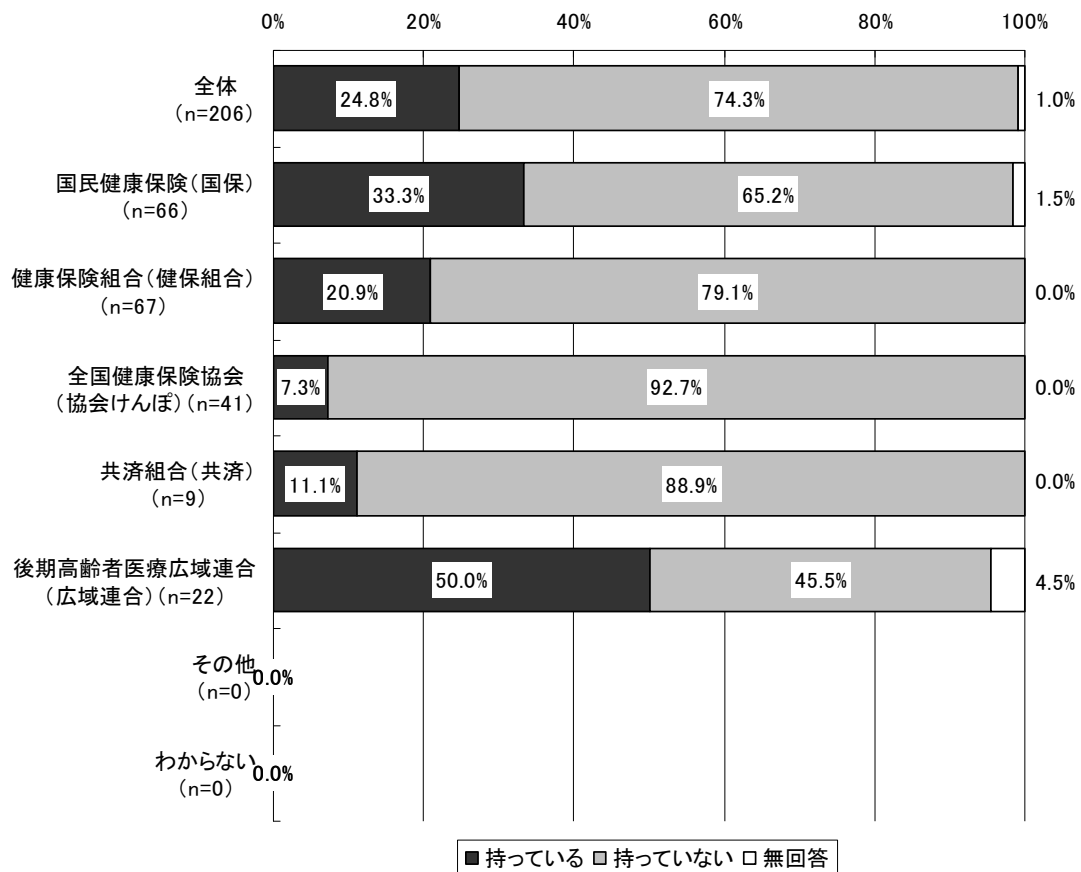
図表 154 「ジェネリック医薬品希望カード」の所有状況
 (「ジェネリック医薬品希望カード」を知っている人、年齢階級別)



(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった1人が含まれる。

「ジェネリック医薬品希望カード」を知っている人について、医療保険の種類別に「ジェネリック医薬品希望カード」の所有状況をみると、「国民健康保険（国保）」、「後期高齢者医療広域連合（広域連合）」では「持っている」という回答割合が全体と比べ相対的に高かった。

図表 155 「ジェネリック医薬品希望カード」の所有状況
 （「ジェネリック医薬品カード」を知っている人、医療保険の種類別）



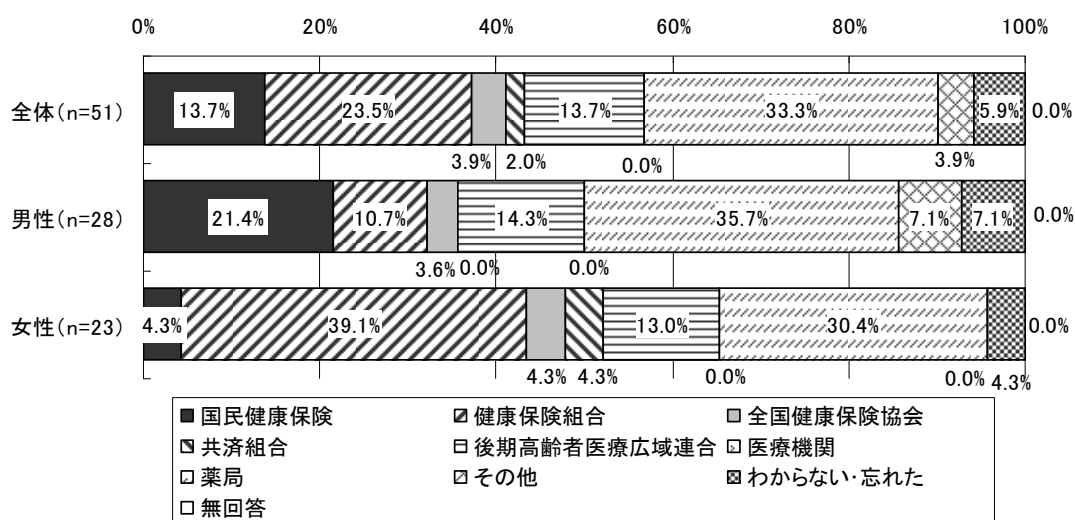
(注) 「全体」には「医療保険の種類」について無回答であった1人が含まれる。

8) 「ジェネリック医薬品希望カード」の配布元

「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人について「ジェネリック医薬品希望カード」の配布元をみると、全体では、「医療機関」(33.3%)が最も多く、次いで「健康保険組合」(23.5%)、「国民健康保険」、「後期高齢者医療広域連合」(ともに13.7%)となった。

男女別にみると、男性では、「医療機関」(35.7%)が最も多く、次いで「国民健康保険」(21.4%)、「後期高齢者医療広域連合」(14.3%)となった。女性では、「健康保険組合」(39.1%)が最も多く、次いで「医療機関」(30.4%)、「後期高齢者医療広域連合」(13.0%)となった。

図表 156 「ジェネリック医薬品希望カード」の配布元
(「ジェネリック医薬品カード」を持っている人、男女別)

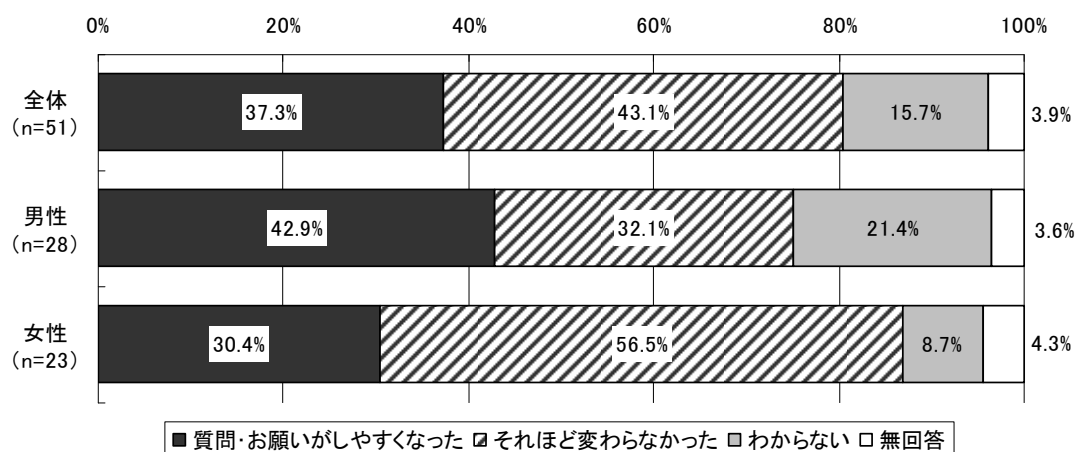


9) 「ジェネリック医薬品希望カード」による医師や薬剤師への依頼のしやすさ

「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人に対して、「ジェネリック医薬品希望カード」によって医師や薬剤師に後発医薬品について質問やお願いがしやすくなったかどうかを尋ねたところ、「質問・お願いがしやすくなった」が 37.3%、「それほど変わらなかった」が 43.1%、「わからない」が 15.7%となった。

男女別にみると、男性では、「質問・お願いがしやすくなった」が 42.9%となり、女性（30.4%）よりも 12.5 ポイント高かった。また、女性では「それほど変わらなかった」が 56.5%となり、男性（32.1%）より 24.4 ポイント高かった。

図表 157 「ジェネリック医薬品希望カード」による医師や薬剤師への依頼のしやすさ
（「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人、男女別）

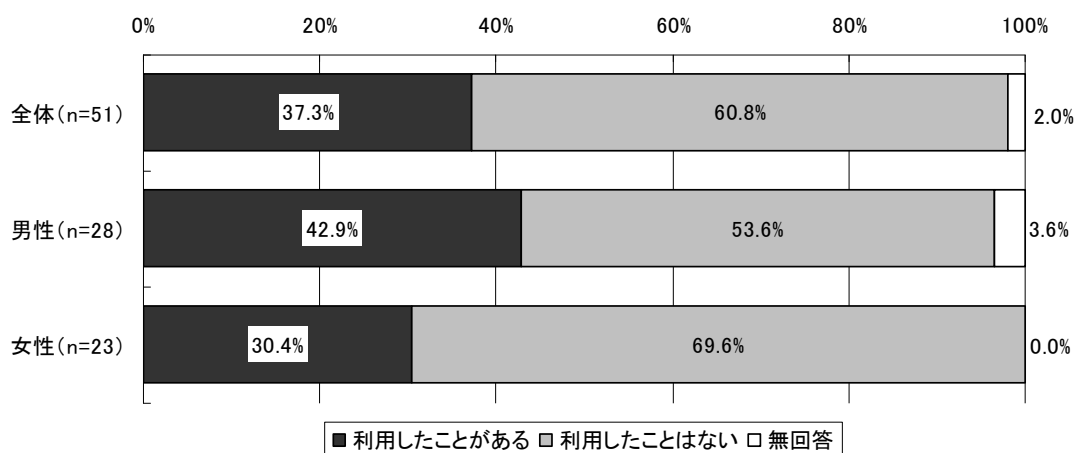


10) 「ジェネリック医薬品希望カード」の利用の有無

「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人に対して、「ジェネリック医薬品希望カード」の利用の有無を尋ねたところ、「利用したことがある」が 37.3%、「利用したことはない」が 60.8%となった。

男女別にみると、男性では、「利用したことがある」が 42.9%となり、女性（30.4%）よりも 12.5 ポイント高かった。

図表 158 「ジェネリック医薬品希望カード」の利用の有無
（「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人、男女別）

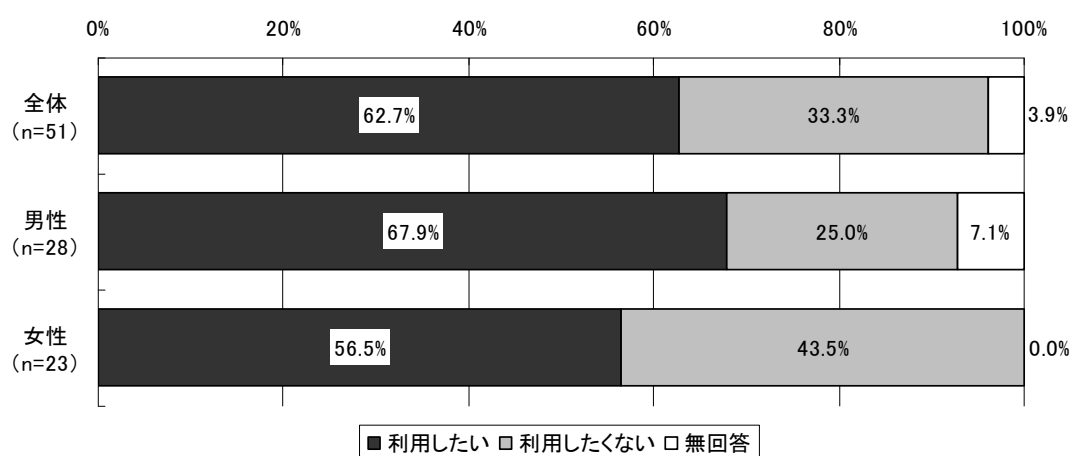


11) 「ジェネリック医薬品希望カード」の利用意向

「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人に対して、「ジェネリック医薬品希望カード」の利用意向を尋ねたところ、「利用したい」が62.7%、「利用したくない」が33.3%となった。

男女別にみると、男性では、「利用したい」が67.9%となり、女性（56.5%）よりも11.4ポイント高かった。

図表 159 「ジェネリック医薬品希望カード」の利用意向
（「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人、男女別）

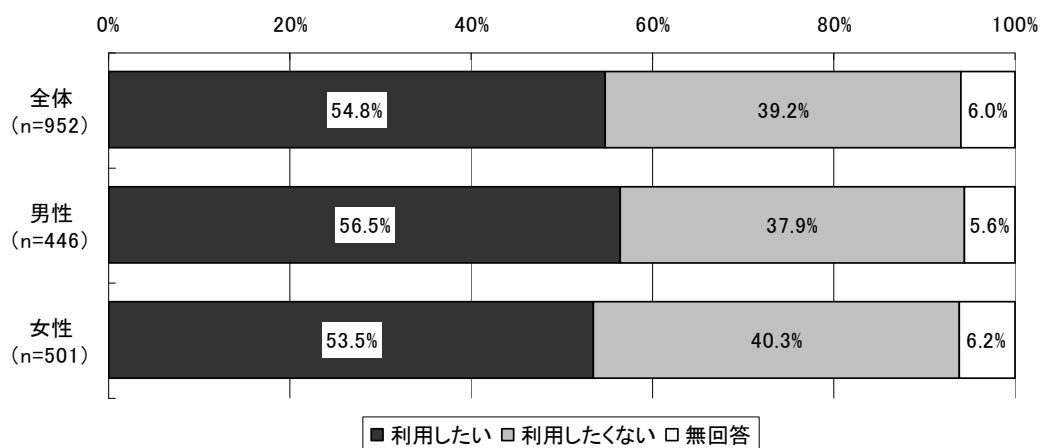


12) 「ジェネリック医薬品希望カード」を知らない人の今後の利用意向

「ジェネリック医薬品希望カード」を「知らない」と回答した人に対して、「ジェネリック医薬品希望カード」を今後利用したいかどうかを尋ねたところ、「利用したい」が54.8%、「利用したくない」が39.2%となった。

性別による大きな差異はみられなかった。

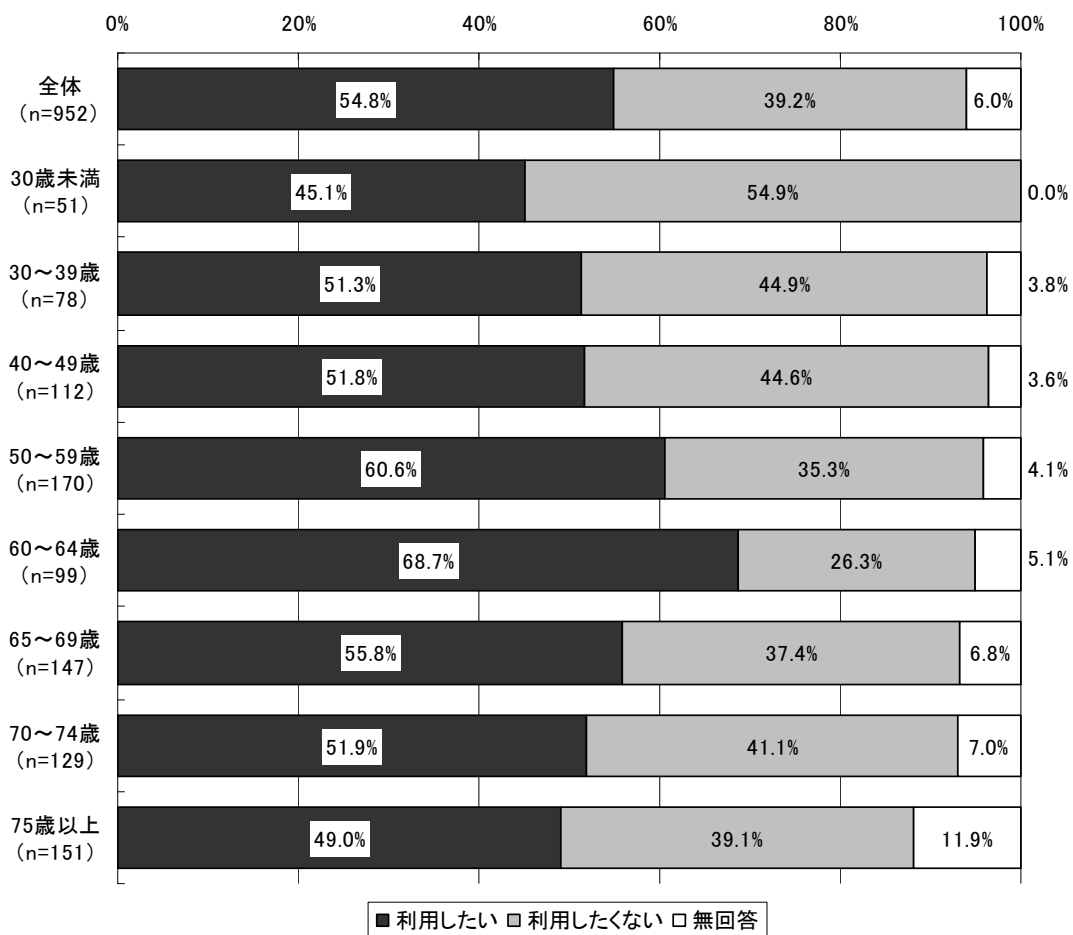
図表 160 「ジェネリック医薬品希望カード」の今後の利用意向
(「ジェネリック医薬品希望カード」を知らない人、男女別)



(注)「全体」には「性別」について無回答であった5人が含まれる。

「ジェネリック医薬品希望カード」を知らない人について、年齢階級別に「ジェネリック医薬品希望カード」の今後の利用意向をみると、「50～59歳」、「60～64歳」では「利用したい」と回答した割合が6割を超え、全体や他の年齢階級と比較して相対的に高い結果となった。

図表 161 「ジェネリック医薬品希望カード」の今後の利用意向
 (「ジェネリック医薬品希望カード」を知らない人、年齢階級別)



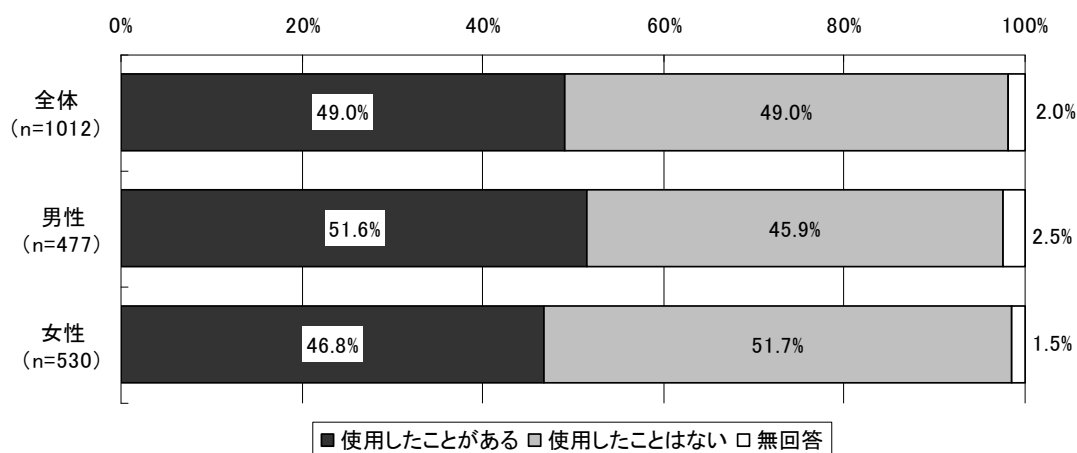
(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった15人が含まれる。

13) 後発医薬品の使用経験

後発医薬品の使用経験の有無についてみると、後発医薬品の使用経験が「ある」という回答が49.0%、「ない」が49.0%で同じ割合であった。

男女別にみると、男性（51.6%）は女性（46.8%）と比較して「ある」という回答が4.8ポイント高い結果となった。

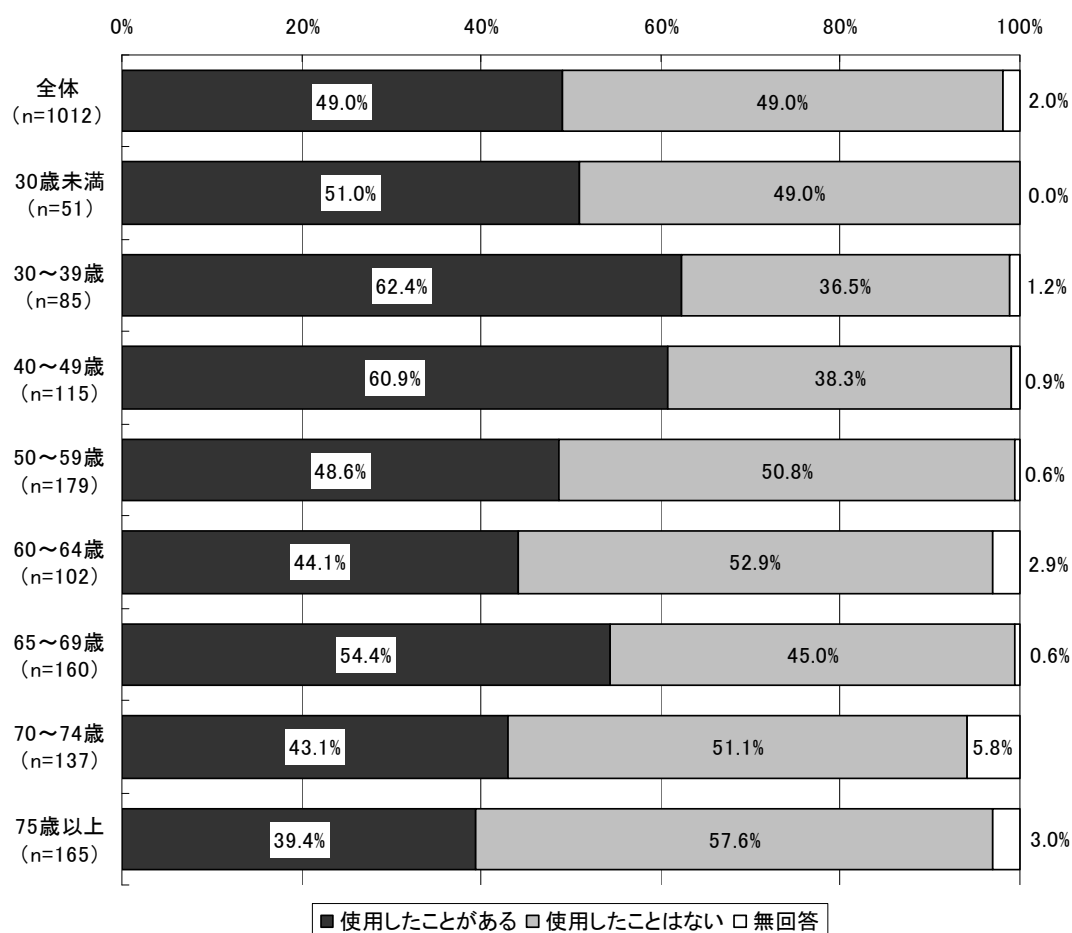
図表 162 後発医薬品の使用経験（男女別）



(注)「全体」には「性別」について無回答であった5人が含まれる。

年齢階級別に、後発医薬品の使用経験の有無をみると、「30～39 歳」「40～49 歳」では、「使用したことがある」という回答が 6 割を超え、全体や他の年齢階級と比較して相対的に高い結果となった。一方、「50～59 歳」「60～64 歳」「70～74 歳」「75 歳以上」では、「使用したことがない」という回答が「使用したことがある」という回答を上回った。特に「75 歳以上」では「使用したことがある」(39.4%) が 4 割に届かず、他の年齢階級と比べて最も低い結果となった。

図表 163 後発医薬品の使用経験（年齢階級別）



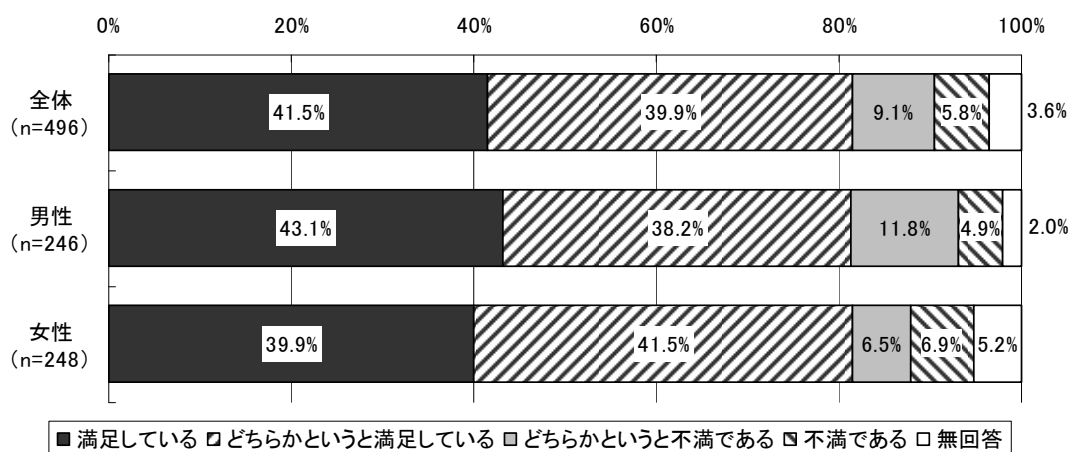
(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった 18 人が含まれる。

14) 後発医薬品の満足度

後発医薬品を使用した経験がある人に対して、後発医薬品を使用した満足度を尋ねたところ、「満足している」が 41.5%、「どちらかという満足している」が 39.9%となり、両者を合わせると 8 割を超えた。また、「どちらかという不満である」が 9.1%、「不満である」が 5.8%であった。

男女別にみると、満足とする回答（「満足している」と「どちらかという満足している」を合計した割合）は男女ともに 8 割を超え、不満とする回答（「どちらかという不満である」と「不満である」を合計した割合）は 2 割弱となった。男性は女性と比べて「満足している」という回答が 3.2 ポイント高かった。

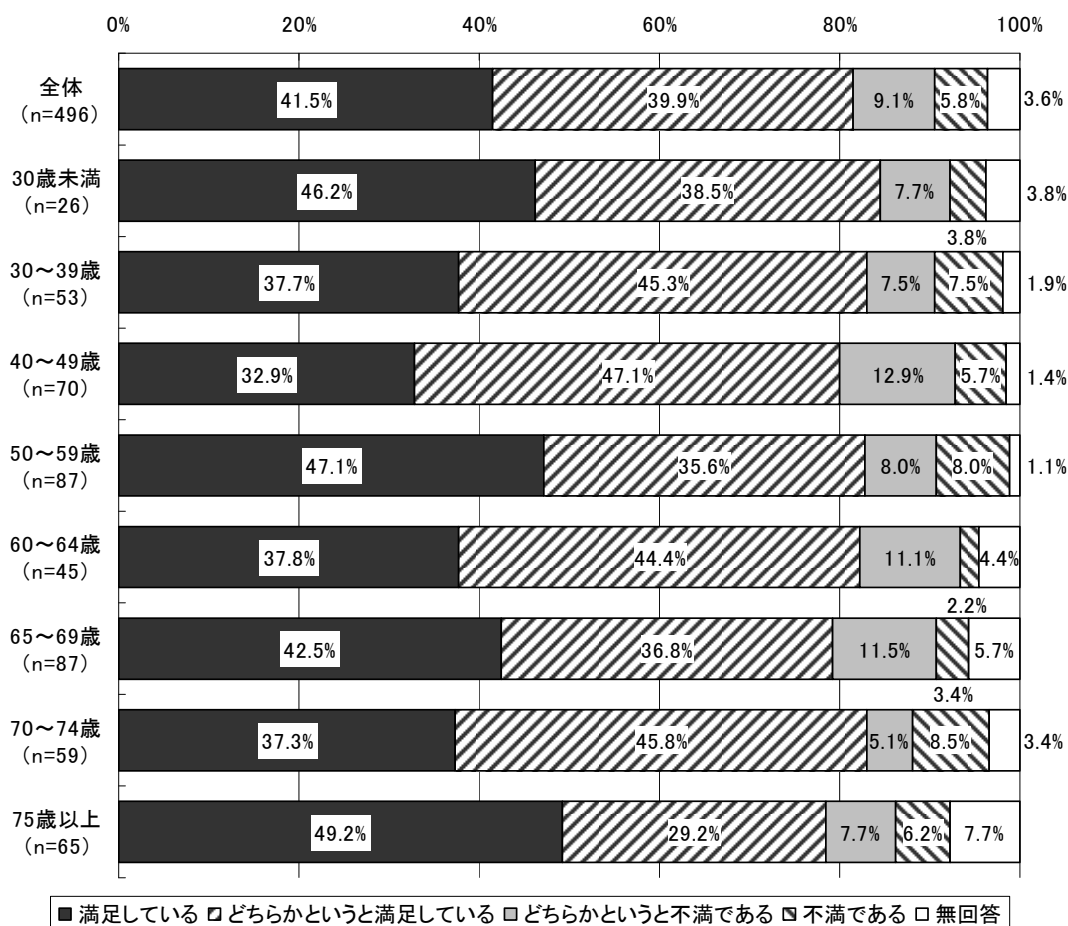
図表 164 後発医薬品の満足度（後発医薬品を使用した経験がある人、男女別）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答であった 2 人が含まれる。

後発医薬品を使用した経験がある人において年齢階級別に、後発医薬品を使用した満足度についてみると、満足とする回答（「満足している」と「どちらかという満足している」を合計した割合）は、「65～69歳」で79.3%、「75歳以上」で78.4%とやや低くなっているものの、他の年齢層では8割以上となった。

図表 165 後発医薬品の満足度（後発医薬品を使用した経験がある人、年齢階級別）



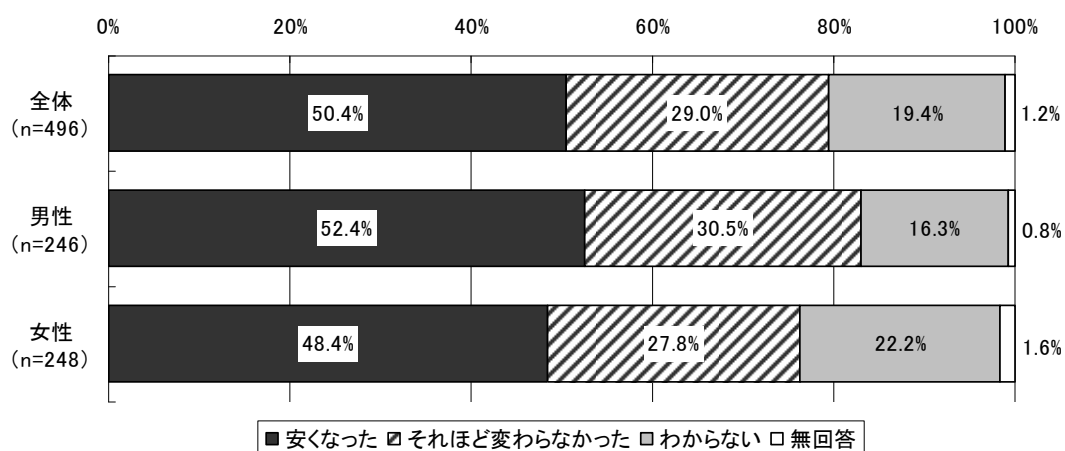
(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった4人が含まれる。

15) 窓口での薬代の負担感

後発医薬品を使用した経験がある人に対して、医療機関や薬局窓口での薬代の負担感について尋ねたところ、「安くなった」が50.4%、「それほど変わらなかった」が29.0%、「わからない」が19.4%であった。

男女別にみると、男性では「安くなった」が52.4%となり、女性（48.4%）よりも4.0ポイント高い結果となった。

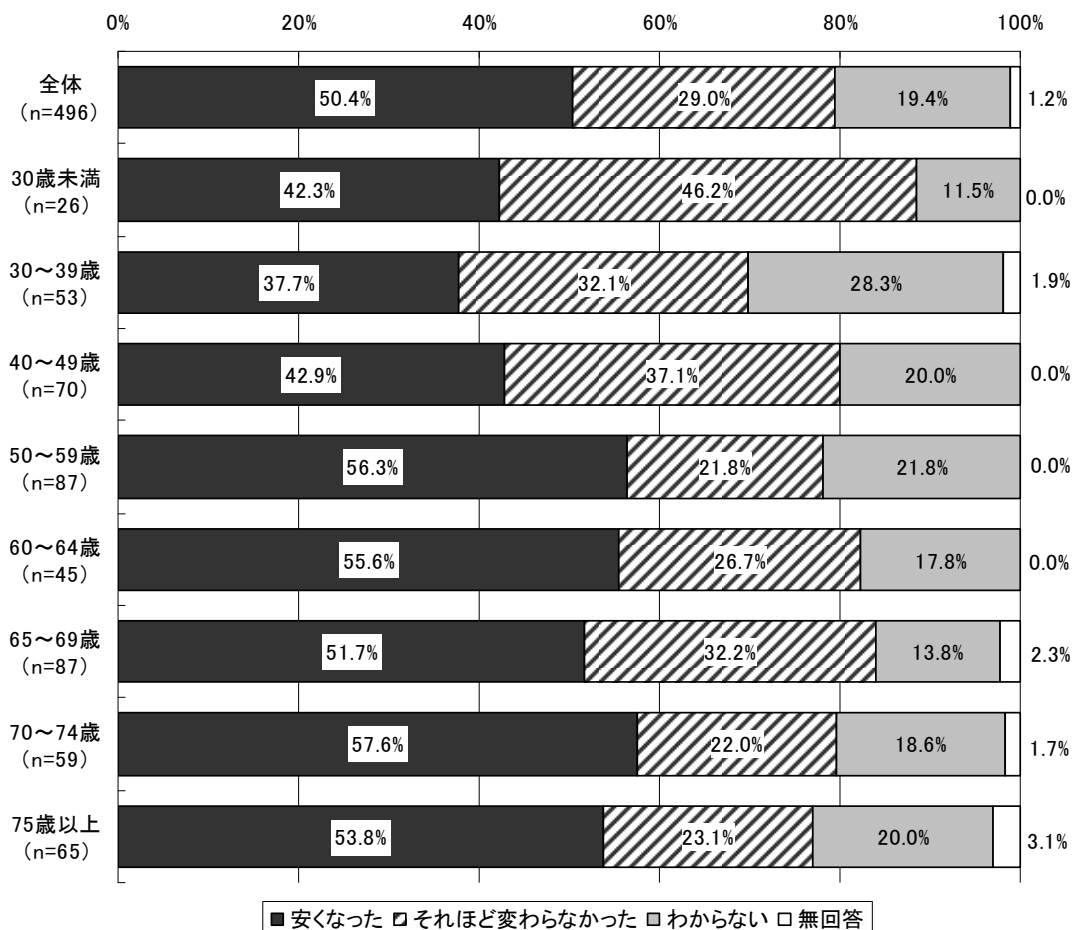
図表 166 窓口での薬代の負担感
(後発医薬品を使用した経験がある人、男女別)



(注) 「全体」には「性別」について無回答であった2人が含まれる。

後発医薬品を使用した経験がある人について、年齢階級別に窓口での薬代の負担感をみると、50歳以上の各年齢階級では「安くなった」という回答割合が5割を超えたが、50歳未満の各年齢階級では4割程度となり、全体と比べても相対的に低い結果となった。

図表 167 窓口での薬代の負担感
(後発医薬品を使用した経験がある人、年齢階級別)



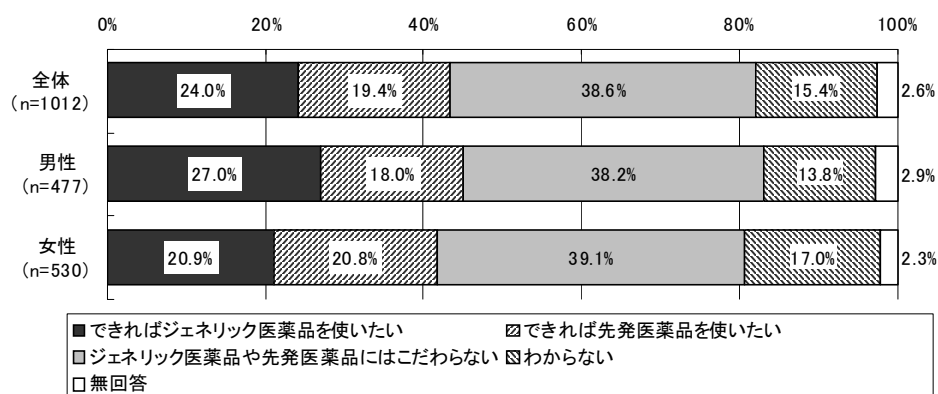
(注) 「全体」には、「年齢」について無回答であった4人が含まれる。

16) 後発医薬品使用に対する考え方

今後の後発医薬品使用に対する考え方についてみると、「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」が 38.6%で最も多く、次いで「できればジェネリック医薬品を使いたい」が 24.0%、「できれば先発医薬品を使いたい」が 19.4%、「わからない」が 15.4%となった。

男女別にみると、男性では「できればジェネリック医薬品を使いたい」が 27.0%となり、女性（20.9%）と比較して、6.1ポイント高い結果となった。

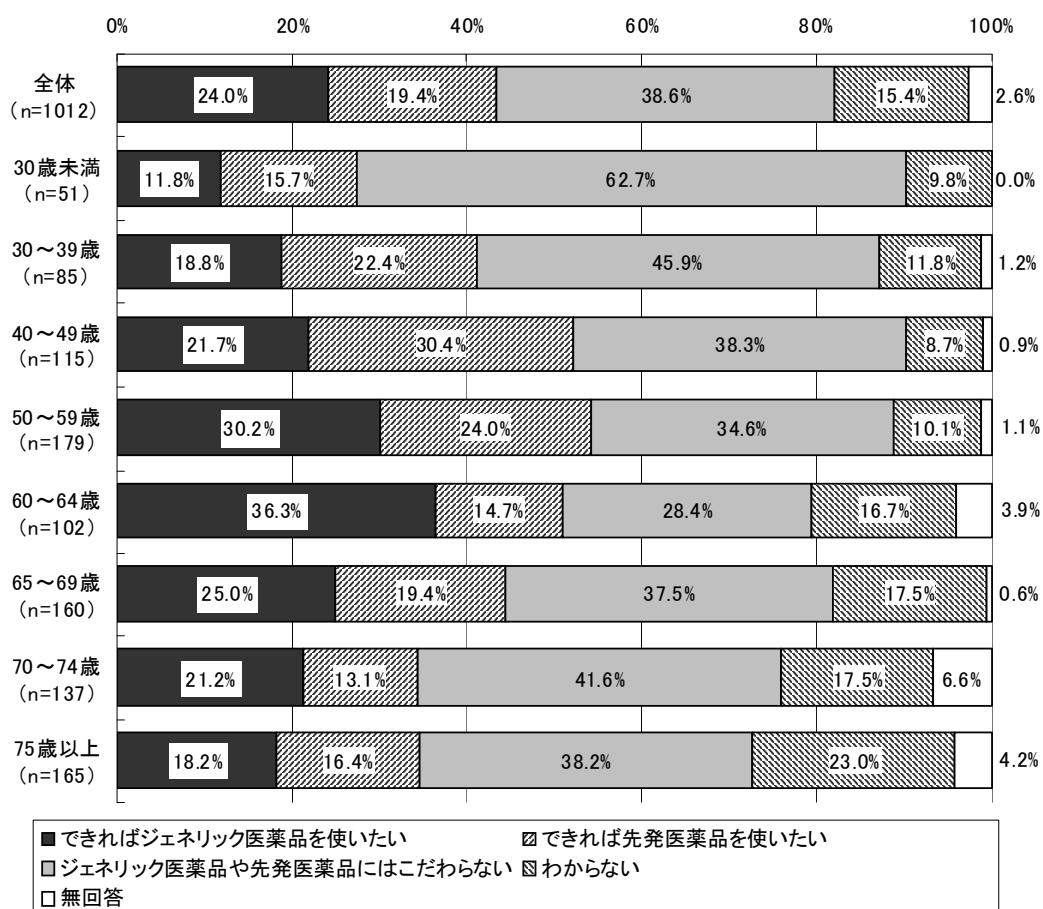
図表 168 後発医薬品使用に対する考え方（男女別）



(注) 「全体」には、「性別」について無回答であった 5 人が含まれる。

年齢階級別に、後発医薬品使用に対する考え方をみると、「60～64歳」を除く各年齢階級で「ジェネリック医薬品や先発医薬品にこだわらない」という回答が最も多かった。特に「30歳未満」では、この回答が62.7%と全体や他の年齢階級と比較して高い結果となった。また、50歳未満の各年齢階級では、「できればジェネリック医薬品を使いたい」に比べ「できれば先発医薬品を使いたい」の割合が高いが、50歳以上の年齢階級では逆転しており、「できればジェネリック医薬品を使いたい」が「できれば先発医薬品を使いたい」を上回る結果となった。特に「60～64歳」では、「できればジェネリック医薬品を使いたい」(36.3%)が「できれば先発医薬品を使いたい」(14.7%)を21.6ポイント上回った。

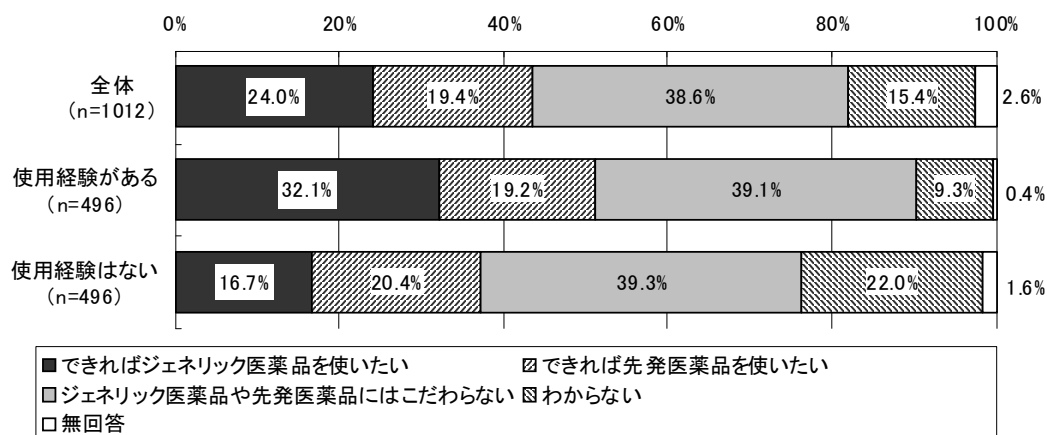
図表 169 後発医薬品使用に対する考え方（年齢階級別）



(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった18人が含まれる。

後発医薬品の使用経験別に、後発医薬品使用に対する考え方をみると、「使用経験がある」患者では「できればジェネリック医薬品を使いたい」が32.1%となり、「使用経験はない」患者の回答（16.7%）と比較して15.4ポイント高い結果となった。

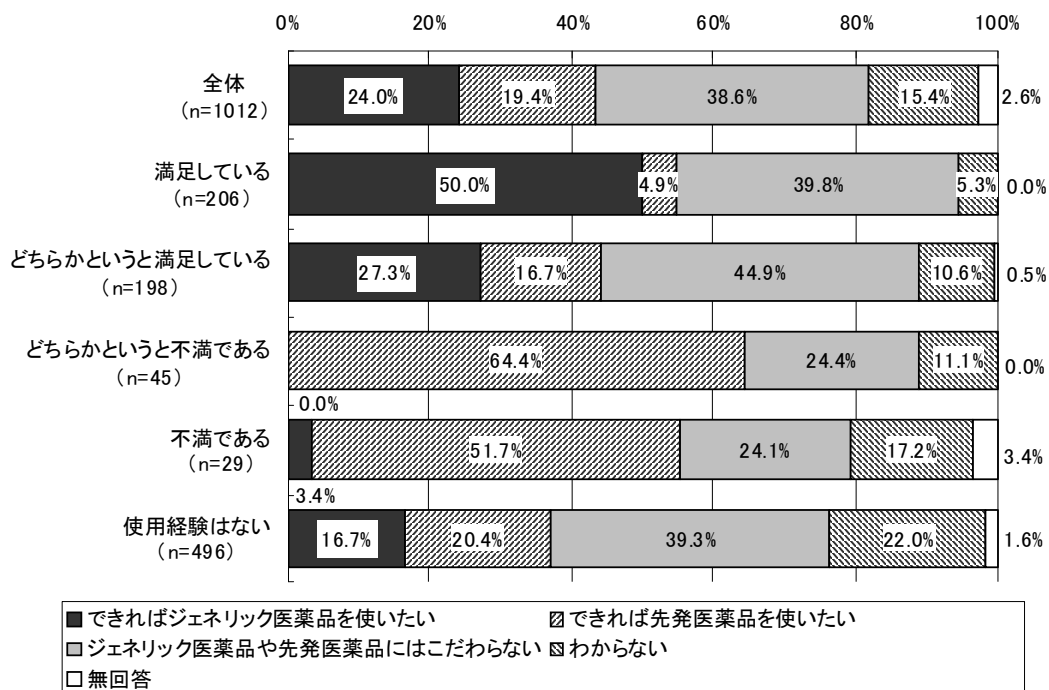
図表 170 後発医薬品使用に対する考え方（後発医薬品の使用経験別）



(注)「全体」には、「後発医薬品使用経験」について無回答であった20人が含まれる。

後発医薬品に対する満足度別に、後発医薬品使用に対する考え方をみると、「後発医薬品に満足している」患者では「できればジェネリック医薬品を使いたい」(50.0%)が最も多く、次いで「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」(39.8%)、「できれば先発医薬品を使いたい」(4.9%)の順となった。また、「どちらかという満足している」患者では「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」(44.9%)が最も多く、次いで「できればジェネリック医薬品を使いたい」(27.3%)、「できれば先発医薬品を使いたい」(16.7%)の順となった。「どちらかという不満である」患者では「できれば先発医薬品を使いたい」(64.4%)が最も多く、次いで「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」(24.4%)の順となった。「不満である」患者では「できれば先発医薬品を使いたい」(51.7%)が最も多く、次いで「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」(24.1%)の順となった。「不満である」患者では「できれば先発医薬品を使いたい」(51.7%)が最も多く、次いで「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」(24.1%)の順となった。

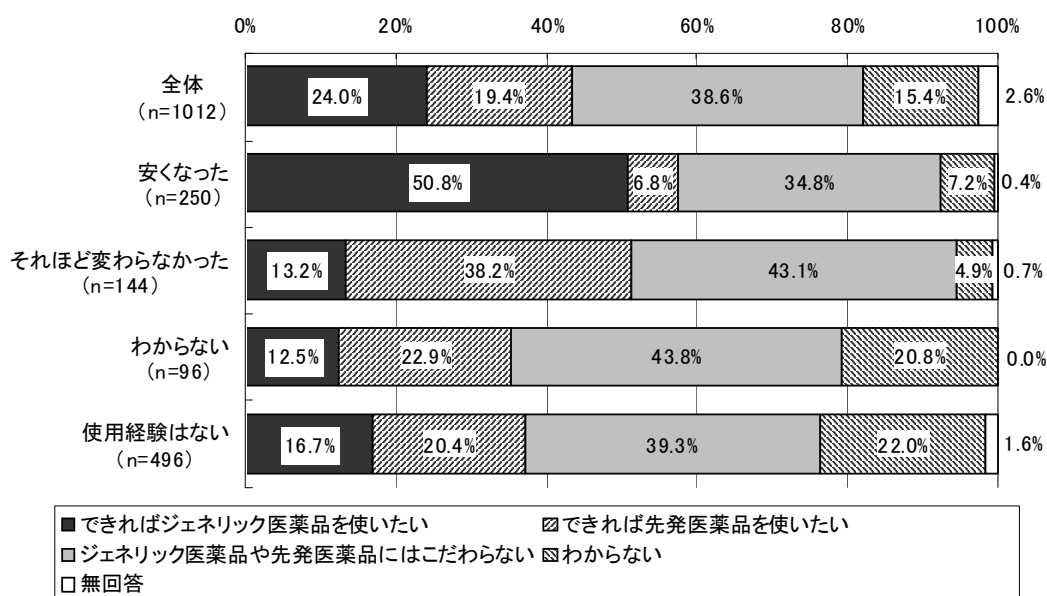
図表 171 後発医薬品使用に対する考え方（後発医薬品の満足度別）



(注)「全体」には、「後発医薬品の満足度」について無回答であった38人が含まれる。

窓口での薬代の負担感別に、後発医薬品使用に対する考え方をみると、「安くなった」という患者では「できればジェネリック医薬品を使いたい」(50.8%)が最も多く、次いで「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」(34.8%)、「できれば先発医薬品を使いたい」(6.8%)となった。また、窓口の負担が「それほど変わらなかった」という患者では「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」(43.1%)が最も多く、次いで「できれば先発医薬品を使いたい」(38.2%)、「できればジェネリック医薬品を使いたい」(13.2%)となった。

図表 172 後発医薬品使用に対する考え方（窓口の負担感別）

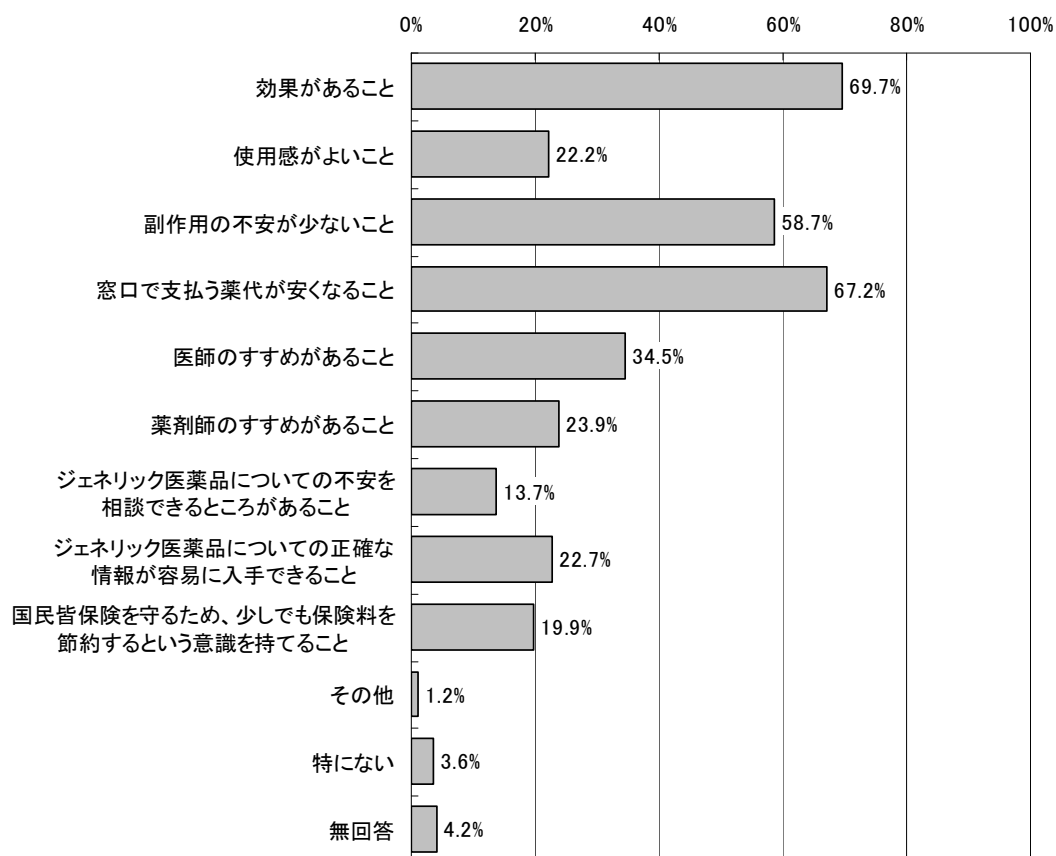


(注)「全体」には、「窓口の負担感」について無回答であった 26 人が含まれる。

17) 後発医薬品の使用の際に必要なこと

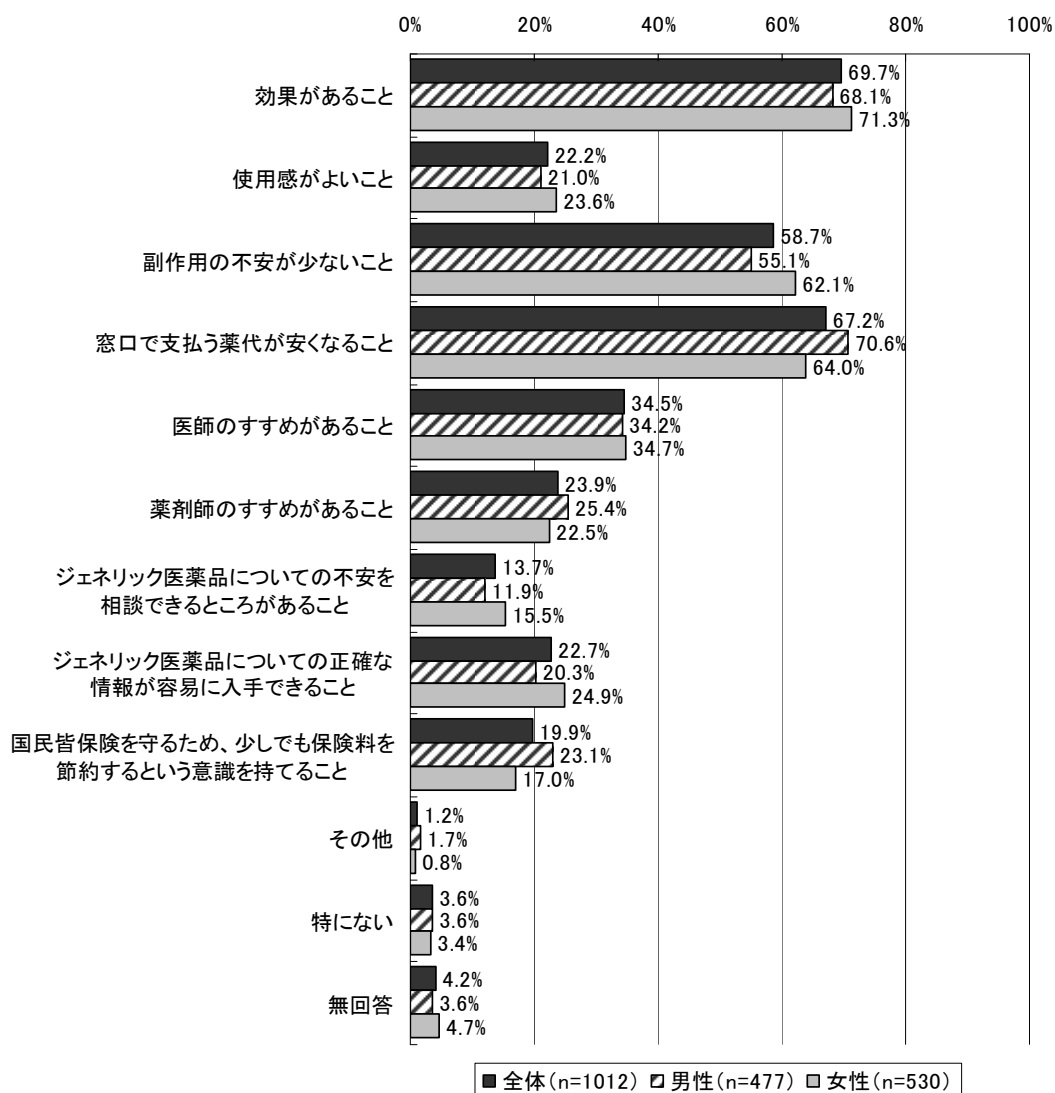
後発医薬品を使用するにあたって必要なことを尋ねたところ、「効果があること」(69.7%)最も多く、次いで「窓口で支払う薬代が安くなること」(67.2%)、「副作用の不安が少ないこと」(58.7%)、「医師のすすめがあること」(34.5%)、「薬剤師のすすめがあること」(23.9%)、「ジェネリック医薬品についての正確な情報が容易に入手できること」(22.7%)、「使用感がよいこと」(22.2%)となった。

図表 173 後発医薬品の使用の際に必要なこと（複数回答、n=1012）



男女別に、後発医薬品を使用するにあたって必要なことをみると、男性では、「窓口で支払う薬代が安くなること」が70.6%で最も多く、女性（64.0%）と比べても6.6ポイント高かった。次いで「効果があること」（68.1%）、「副作用の不安が少ないこと」（55.1%）となった。女性では、「効果があること」（71.3%）が最も多く、次いで「窓口で支払う薬代が安くなること」（64.0%）、「副作用の不安が少ないこと」（62.1%）となった。女性では「副作用の不安が少ないこと」が男性（55.1%）より7.0ポイント高かった。

図表 174 後発医薬品の使用の際に必要なこと（男女別）



(注) 「全体」には「性別」について無回答であった5人が含まれる。

年齢階級別に、後発医薬品を使用するにあたって必要なことをみると、どの年齢層においても「効果があること」、「副作用の不安が少ないこと」、「窓口で支払う薬代が安くなること」が上位を占めた。50歳以上の各年齢階級では、50歳未満の各年齢階級と比べて、「医師のすすめがあること」の割合が高かった。

図表 175 後発医薬品の使用の際に必要なこと（年齢階級別）

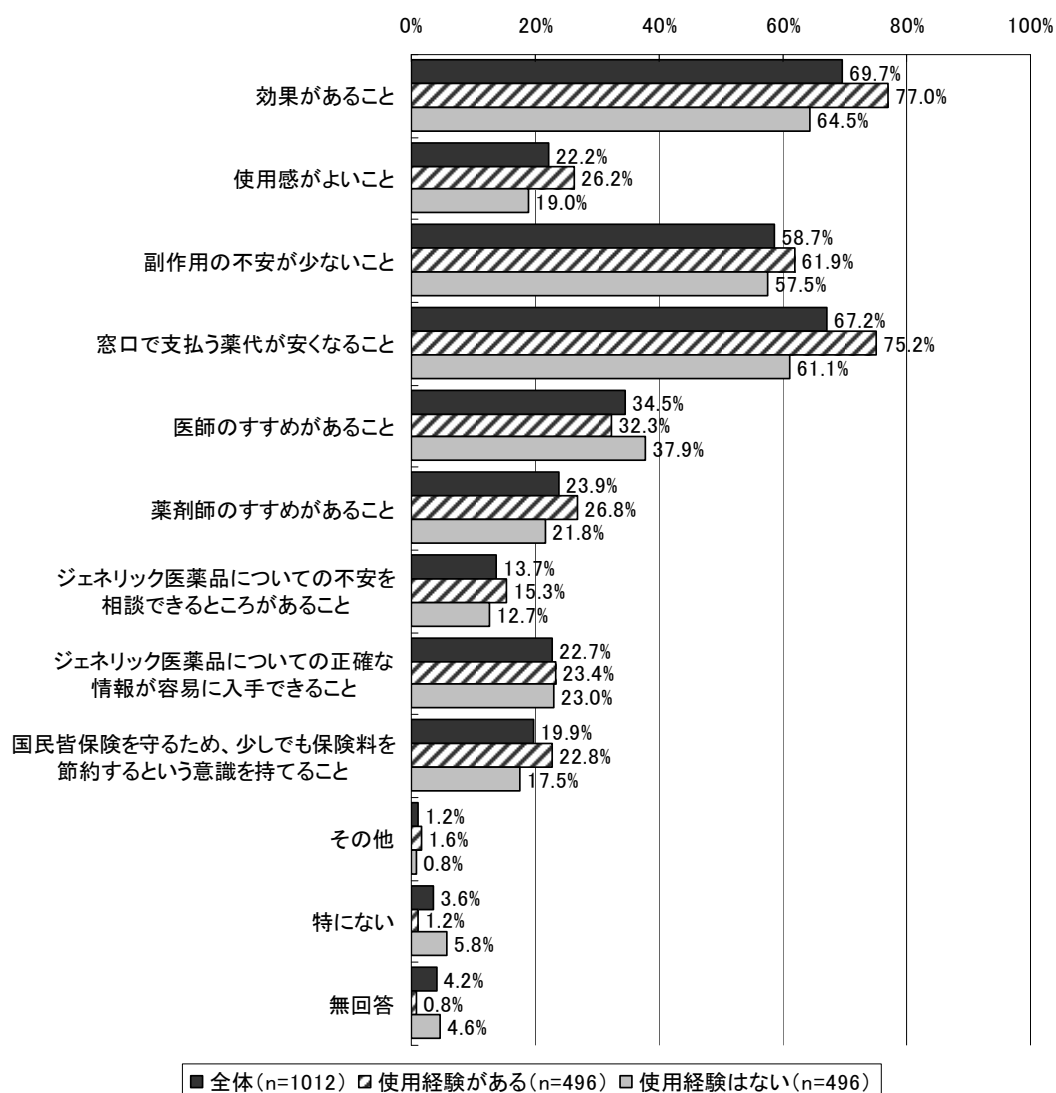
（単位：上段「人」／下段「%」）

	総数	効果があること	使用感がよいこと	副作用の不安が少ないこと	窓口で支払う薬代が安くなること	医師のすすめがあること	薬剤師のすすめがあること	ジエネリック医薬品についての不安を相談できることがあること	ジエネリック医薬品についての正確な情報が容易に入手できること	国民皆保険を守るため、少しでも保険料を節約するという意識を持てること	その他	特になし	無回答
全体	1,012 100.0	705 69.7	225 22.2	594 58.7	680 67.2	349 34.5	242 23.9	139 13.7	230 22.7	201 19.9	12 1.2	36 3.6	42 4.2
30歳未満	51 100.0	42 82.4	17 33.3	33 64.7	38 74.5	10 19.6	11 21.6	8 15.7	11 21.6	6 11.8	3 5.9	1 2.0	0 0.0
30～39歳	85 100.0	67 78.8	26 30.6	60 70.6	62 72.9	21 24.7	16 18.8	10 11.8	23 27.1	15 17.6	3 3.5	0 0.0	1 1.2
40～49歳	115 100.0	89 77.4	29 25.2	77 67.0	76 66.1	29 25.2	20 17.4	15 13.0	29 25.2	8 7.0	1 0.9	6 5.2	0 0.0
50～59歳	179 100.0	146 81.6	42 23.5	110 61.5	135 75.4	79 44.1	51 28.5	23 12.8	46 25.7	35 19.6	2 1.1	1 0.6	7 3.9
60～64歳	102 100.0	64 62.7	13 12.7	55 53.9	67 65.7	36 35.3	20 19.6	13 12.7	22 21.6	26 25.5	0 0.0	5 4.9	5 4.9
65～69歳	160 100.0	104 65.0	30 18.8	87 54.4	106 66.3	57 35.6	38 23.8	21 13.1	29 18.1	30 18.8	2 1.3	6 3.8	9 5.6
70～74歳	137 100.0	78 56.9	29 21.2	72 52.6	86 62.8	51 37.2	35 25.5	22 16.1	34 24.8	32 23.4	1 0.7	6 4.4	8 5.8
75歳以上	165 100.0	106 64.2	37 22.4	91 55.2	98 59.4	62 37.6	48 29.1	25 15.2	35 21.2	47 28.5	0 0.0	9 5.5	11 6.7

（注）「全体」には、「年齢」について無回答であった18人が含まれる。

後発医薬品の使用経験の有無別に、後発医薬品の使用の際に必要なことをみると、使用経験の有無にかかわらず「効果があること」（「使用経験がある」77.0%、「使用経験はない」64.5%）が最も高く、次いで「窓口で支払う薬代が安くなること」（同75.2%、61.1%）、「副作用の不安が少ないこと」（同61.9%、57.5%）となった。これらの項目については、いずれも「使用経験がある」患者のほうが「使用経験はない」患者よりも回答割合が高かった。「使用経験はない」患者のほうが「使用経験がある」患者よりも回答割合が高かったのは、「医師のすすめがあること」（「使用経験がある」32.3%、「使用経験はない」37.9%）であった。

図表 176 後発医薬品の使用の際に必要なこと（後発医薬品使用経験の有無別）



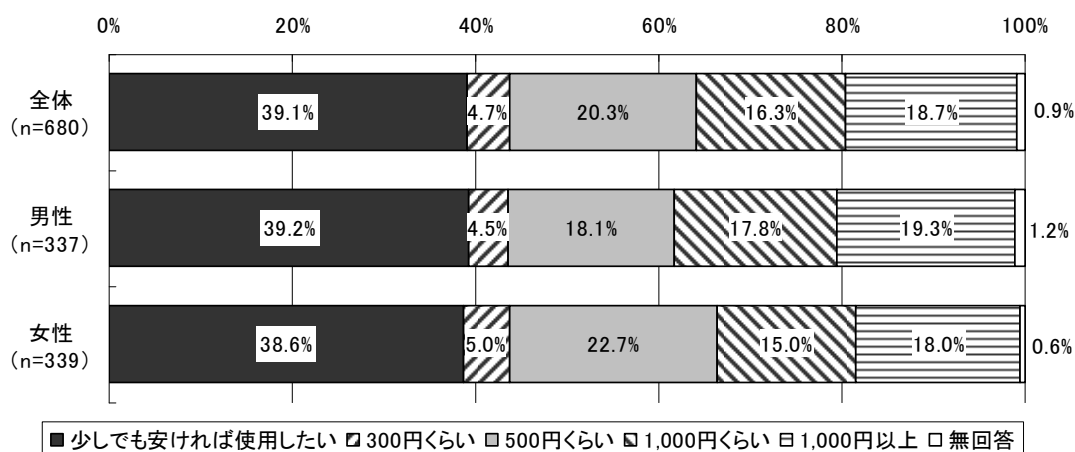
(注) 「全体」には、「後発医薬品使用経験の有無」について無回答であった20人が含まれる。

18) 1回に支払う金額がいくら安くなれば後発医薬品を使用したいか

後発医薬品を使用するにあたって「窓口で薬代が安くなること」が必要と回答した人に対して、1回に支払う金額がいくら安くなれば後発医薬品を使用したいかを尋ねたところ、「少しでも安ければ使用したい」(39.1%)が最も多く、次いで「500円くらい」(20.3%)、「1,000円以上」(18.7%)、「1,000円くらい」(16.3%)となった。

男女別にみると、男女ともに「少しでも安ければ使用したい」(それぞれ39.2%、38.6%)が最も多かった。次いで多かったのが、男性では「1,000円以上」(19.3%)、女性では「500円くらい」(22.7%)であった。

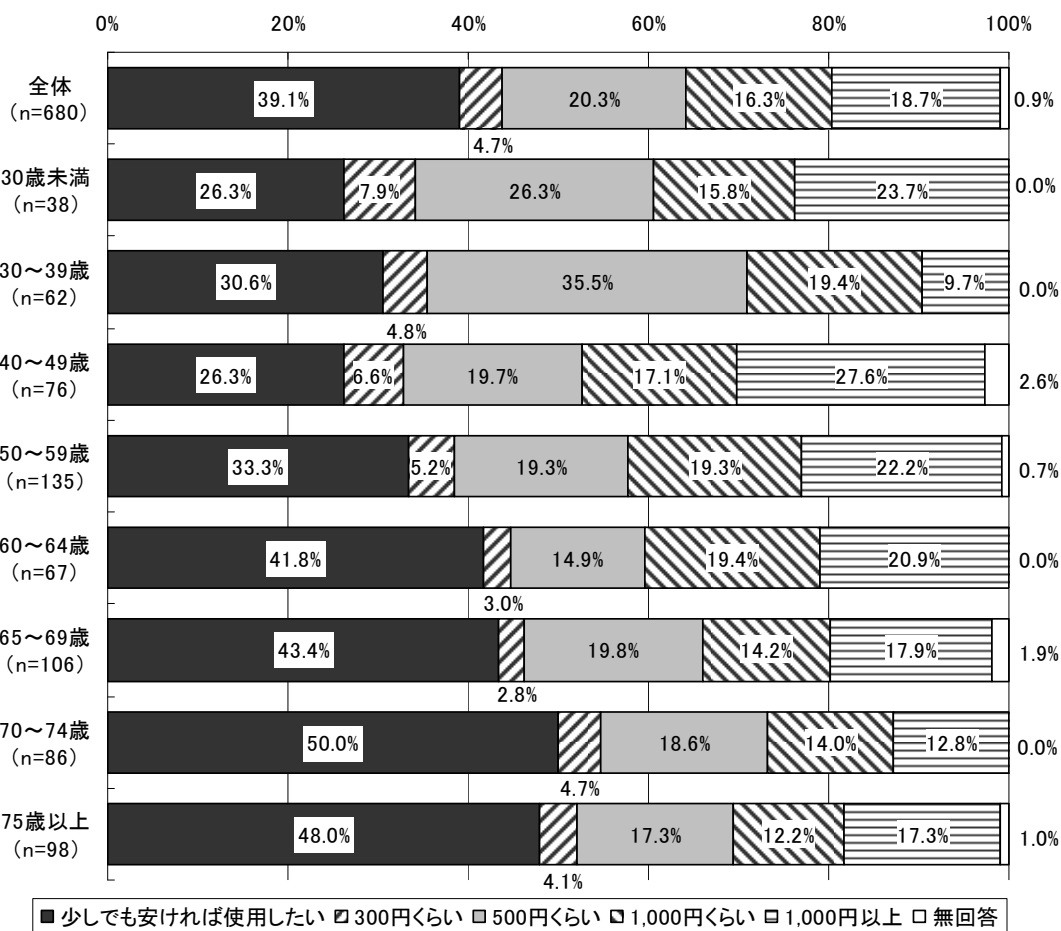
図表 177 1回に支払う金額がいくら安くなれば後発医薬品を使用したいか
(窓口で支払う薬代が安くなることが使用する際に必要な人、男女別)



(注)「全体」には「性別」について無回答であった4人が含まれる。

窓口で支払う薬代が安くなることが後発医薬品を使用する際に必要とした人について、年齢階級別に、1回に支払う金額がいくら安くなれば後発医薬品を使用したいかをみると、年齢階級が高くなるほど「少しでも安ければ使用したい」と回答している割合が高くなる傾向がみられた。

図表 178 1回に支払う金額がいくら安くなれば後発医薬品を使用したいか
(窓口で支払う薬代が安くなることが使用する際に必要な人、年齢階級別)



(注)「全体」には、「年齢」について無回答であった12人が含まれる。

③ 患者が後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等

【後発医薬品を使用した感想】

- ・ 1か月に1回、皮膚科を受診している。内服薬が高価なためジェネリックを服用したが、先発医薬品と同等の効果があり満足している。しかし、普段常用している鎮痛剤などは先発医薬品を服用したい。
- ・ 薬代で毎月3,500円ほどかかったのが、後発医薬品の使用により3,200円ほどになった。しかし、もう少し(2,500円くらいに)安くなってほしいと思う。
- ・ 後発医薬品を服用したが、錠剤がとても大きく飲みづらい感じがありやめた。
- ・ 後発医薬品で一度じんま疹が出たことがある。その恐さが今もあり、後発医薬品を使用できない。
- ・ 血圧の薬を後発医薬品に変えたが、血圧が上がり、薬が2~3種類増えた。以前の先発医薬品だと1種類でよかったので、結果的に薬代が高くなったという矛盾があった。
- ・ 製薬会社よりダイレクトメールが来て、ジェネリックがあることを知り、それから医師や薬局に効果や副作用等について聞き、使用するようになった。

【後発医薬品を使用できなかったケース】

- ・ 後発医薬品のポスターを表示してある薬局で、後発医薬品を指定したが在庫がなく、薬局からは「取り寄せに時間がかかり、差額はそんなにない」との回答であった。
- ・ 何の薬にジェネリックがあるのか分からない。病院でジェネリックの処方せんをもらっても、近所の薬局に在庫がなかったことがあり、すぐにもらえなかった。
- ・ 後発医薬品を希望し、医師に処方されたが、薬局で「取り扱いがない」と言われた。スムーズに処方してもらえるような方法はないのか。

【後発医薬品使用の条件】

- ・ 後発医薬品の使用条件としては、効果が第1、値段が第2である。安くて効果があれば、なお良い。
- ・ 先発医薬品と後発医薬品の成分が同じで、副作用の心配がなければ使用したい。
- ・ 先発医薬品と同じ成分、同じ効果であることが証明されたデータを、処方する薬と一緒に渡してほしい。
- ・ 先発医薬品と同じ成分、同じ効果であることが証明されたデータがあれば処方されても良い。インターネット等で調べてみると、成分だけが同じで、効果を人で検査していない薬があることが分かる。そのような薬は飲みたくない。
- ・ 効果があり、副作用の不安が少なく、金額が安くなるのであれば、使用者として大変ありがたい。ずっと薬を使用しなければ健康維持できない者として、金銭的なことは非常に大きな問題である。

- ・ 医師からの薦めがあれば使用したい。
- ・ こちらから願ひする、しないではなく、「あなたの症状にはこの薬が一番合っているの」と、納得のいく説明を受け、かかりつけの医師が処方した薬であれば、先発医薬品か後発医薬品かにかかわらず信頼して使用できると思う。
- ・ 医者が処方時にジェネリックを勧めれば反対する患者はいないだろう。保険を節約するという意識は患者も当然持つべきだが、それ以上に医師・薬剤師が持てば飛躍的に改善すると思う。
- ・ 先発医薬品とジェネリックの内容に変わりがなければ、ジェネリックを使いたい。薬剤師に聞いたときに、自信を持って「変わりはない」と言われたらジェネリックにする。
- ・ 薬局のビデオでジェネリックを勧めていたのでジェネリックにしたが、薬局の方に「先生（医師）が何か言っていないでしたか」と問いかけられたので、医師と薬局との間の溝を少し感じた。ジェネリックの正確な情報を多くの皆さんに理解して頂くことと、医師の協力、どちらも必要だと思った。
- ・ 処方せんに「後発医薬品への変更不可」をなくし、患者に選ばせることが必要である。
- ・ 大きな病院で、受診の時に先生にジェネリックの話をゆっくりと聞く時間がなく、また病院によってはジェネリックを使えないところもあるので、病院自体がもっとジェネリックを使うことに前向きになってほしい。
- ・ 「ジェネリック医薬品希望カード」があれば後発医薬品を頼みやすくなると思う。

【医師に対する要望・不安】

- ・ 担当医師に自分から「ジェネリック医薬品を希望する」と話すのは非常にやりづらいのが現状である。なかなか診察室では言い出せない。
- ・ 長年の信頼関係で医師から処方された薬を服用してきた患者としては、後発医薬品に変えることによって、何らかの不都合が生じた場合、スムーズに問題解決ができるのか不安である。
- ・ 薬局で後発医薬品に変えると、次回病院で医師に相談した時にトラブルにならないか不安である。
- ・ 自分自身と扶養家族の薬代を合わせると大変な負担である。しかし、処方せんにはジェネリックへの変更不可欄に印が押印されている。薬剤師には聞けるが医者には聞きづらい。特に、成分は同じでも効き方にばらつきがあり、ジェネリックを嫌いな医者もいると思う。結局、医者が納得しなければジェネリックは浸透しないのではないかと思う。
- ・ 医師からわかりやすい説明がほしい。金額もはっきりと教えてほしい。
- ・ 後発医薬品について薬剤師は頑張って宣伝しているようだが、医師はあまりしていないように思う。診察の際に、医師からの一言があれば、変わってくるところはあると思う。
- ・ ジェネリックが多すぎて、患者側が選ぶのは大変である。医師の処方の段階でジェネリックを処方してもらおうと、不安が減り安心である。
- ・ 自分が服用している薬にジェネリックがあるのかわからないので、医師が処方するとき

に説明してほしい。初診時の問診票などに、希望するかどうかの質問項目があったらよいのではないか。売薬（ビタミン剤等）の購入では、ジェネリックらしいものがあれば成分を確認して安いものを買っているが、医療機関ではこの情報がないので、医師の書いた処方せん通りに薬を服用することになる。

【後発医薬品メーカーに対する要望】

- 医師がなかなかジェネリック使用をしないのは、ジェネリックに対する「効かない」「情報がない」「副作用などの調査をしていない」という考えがあるからで、それを取り除くことが必要ではないか。ジェネリック医薬品メーカーも先発医薬品メーカーと同じ安心感を医師に与える活動をしたらどうか。
- ジェネリック医薬品を製造・販売しているメーカーは、いまひとつ聞き覚えのないメーカーであることが、普及を抑えてしまっている原因ではないか。もっと製薬会社全体がジェネリック医薬品に力を入れていけば、医療保険制度を守っていけるのではないか。
- 薬剤師と相談したが、ジェネリックの会社が多すぎてどれにするのか迷った。なぜメーカーがこんなに多いのか。

【後発医薬品情報】

- ジェネリック医薬品についての情報が少ないため、個人では検討することもできない。どの程度価格が安くなるのか、効果は同じなのか、理解していない。
- 患者が理解できる後発医薬品の効果のデータを薬局で教えてほしい。
- どの薬品が後発医薬品への変更が可能なのかわかるような方法がほしい。
- 自分が服用しているのが先発医薬品なのかジェネリックなのか、それさえもわからない。ジェネリックの名称には「先発医薬品の名称+ジェネリック」と補記されていればよいと思う。
- もっとわかりやすくすることが第一である。ジェネリックの良い点ばかりを聞かされるが、「皆が使用しないということは、良くない点（マイナス面）があるからでは」と誰しも不安になる。だから、普及させるには皆を啓蒙することが一番だと思う。
- ジェネリックに変えることによって何らかの不都合が生じた場合、スムーズに問題解決ができるのか、やはりその点が一番の不安としてある。安さだけを前面に打ち出すのではなく、そういう問題が生じた場合の詳しい説明を、理解しやすい情報として明確に公表してもらうことが必要だ。
- 錠剤などにきちんと刻印してほしい。何の薬かを調べたい時に調べられない。
- 薬のことがわからない患者が提案して後発医薬品を頼むというのは無理がある。
- ジェネリックというものはテレビ等で見るとあまりよく知らない。具体的な説明を高齢者にも分かりやすくしてほしい。高額な先発医薬品のジェネリックを作してほしい。3割負担だときつい。
- ジェネリック医薬品についての仕組みがよくわからない。

【その他】

- 安全で効果があつて、医療費が個人でも全体でも安くなればよいと思う。
- いつも使っているジェネリックを風邪のついでに別の病院で処方してもらったところ、同成分の別会社のジェネリックを処方された。先発医薬品よりは安いですが、いつものジェネリックより 1錠当たりの値段が高かった。「先発医薬品からジェネリック」だけではなく、「ジェネリックからジェネリック」「ジェネリックから先発医薬品」の選択肢もほしい。
- 年金生活者にとって、一番大切なことは健康である。しかし高齢と共に身体の悪いところが多くなり、医師や薬に頼らざるを得ない。その薬代が少しでも安くなることは、大変ありがたいことだ。
- 持病の薬には後発医薬品がないので、負担が軽くなるという実感はない。
- 薬価の高価なものに代わるジェネリック医薬品の掘り出しをお願いしたい。許されるなら海外のものにも目を向けてもらいたい。
- 他の患者（同じ場所にいる人）に、ジェネリックを使用していることをあまり知られたくない。
- 今回のアンケートによって、自分がジェネリック医薬品を使用していたことを知った。使用時に医師からの説明がなかった。

6. まとめ

本調査より明らかになった点は、以下のとおりである。

【保険薬局調査】

- ・ 薬局の組織形態は、「法人」が 86.6%、「個人」が 12.9%であった（図表 2）。法人の種類は、「有限会社」が法人薬局の 51.4%、「株式会社」が 45.3%であった（図表 3）。
- ・ 算定している調剤基本料は、「調剤基本料（40 点）」が 97.7%、「調剤基本料（18 点）」が 1.8%であった（図表 6）。また、基準調剤加算は、「基準調剤加算 1（10 点）」が 46.1%、「基準調剤加算 2（30 点）」が 14.1%、「算定していない」が 38.5%であった（図表 7）。
- ・ 後発医薬品調剤体制加算を「算定している」が 80.6%、「算定していない」が 18.6%であった（図表 8）。
- ・ 平成 21 年 1 月から 7 月までの各月の後発医薬品調剤率については、1 月の平均値は 44.2%、中央値が 42.5%であったのが、7 月の平均値は 42.6%、中央値は 40.3%となった。また、平成 21 年と平成 20 年の同月の後発医薬品調剤率を比べてみると、平均値、中央値とも、いずれの月においても平成 21 年の割合が高かった（図表 9）。
- ・ 平成 21 年 7 月に薬局で受け付けた処方せんの発行医療機関数の、1 薬局当たりの平均は 40.72 件であった。このうち「後発医薬品への変更不可」欄に処方医の署名等が 9 割以上ある医療機関数は平均 6.53 件であり、処方せん発行医療機関全体に占める割合は 16.0%となった（図表 11）。
- ・ 特定の保険医療機関に係る処方せんの割合（最も多いもの）が「70%超」と回答した薬局が 61.5%で最も多かった（図表 13）。
- ・ 平成 21 年 7 月 21 日から 7 月 27 日までの 1 週間のすべての取り扱い処方せん 132,045 枚における「後発医薬品への変更不可」欄への処方医の署名等の有無は、「署名なし」が 68.5%（90,511 枚）、「署名あり」が 31.5%（41,534 枚）であった（図表 18）。また、「署名等なし」の処方せん 90,511 枚のうち、実際に「1 品目でも先発医薬品を後発医薬品に変更した」処方せんは 5.5%、「以前に後発医薬品に変更し、処方医が後発医薬品の銘柄処方に切り替えた」処方せんは 2.4%、「後発医薬品のみが記載された」処方せんは 4.1%であった。一方、「後発医薬品に変更しなかった」処方せんは 66.2%、「処方せんに記載されたすべての銘柄について後発医薬品が薬価収載されていないために後発医薬品に変更しなかった」処方せんは 11.2%、「患者が希望しなかったためにすべて後発医薬品に変更しなかった」処方せんは 10.7%であった（図表 19）。
- ・ 平成 21 年 7 月 21 日から 7 月 27 日までの 1 週間の処方せんで「後発医薬品への変更不可」欄に処方医の署名等がある処方せん 41,534 枚のうち、「後発医薬品の銘柄指定あり」は 44.0%、「後発医薬品の銘柄指定なし」は 56.0%であった（図表 20）。
- ・ 「後発医薬品への変更不可」欄に処方医の署名等がない処方せんを 1 枚以上取り扱っ

た薬局のうち「それらの処方せんを1枚以上、実際に1品目でも先発医薬品から後発医薬品に変更した薬局」は70.6%であった(図表22)。

- 平成21年7月21日から7月27日までの1週間に調剤したすべての医薬品に占める後発医薬品の割合(数量ベース)は、「10%以上20%未満」が24.7%で最も多く、次いで「20%以上30%未満」が16.4%、「10%未満」が12.0%、「30%以上40%未満」が10.6%となった(図表24)。また、平均値は24.4%、中央値は20.1%であった(図表25)。
- 後発医薬品の説明・調剤では「薬効によっては後発医薬品を患者に説明して、調剤するように取り組んでいる」が43.1%と最も多かった。次いで「後発医薬品の説明・調剤にはあまり積極的に取り組んでいない」が33.2%となった(図表26)。その理由としては、「後発医薬品の備蓄増に伴う不良在庫の拡大など、在庫管理の負担が大きいため」が68.1%と最も多く、次いで「近隣の医療機関が後発医薬品の使用に消極的なため」が43.1%、「後発医薬品の説明に時間がかかるため」が28.7%、「後発医薬品の効果に疑問があるため」が27.7%であった(図表27)。
- 後発医薬品の品質保証方法について「十分に理解している」が11.7%、「ある程度理解している」が66.4%、「あまり理解していない」が18.7%であった(図表28)。
- 後発医薬品への変更が可能な処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品についての説明を行った患者の割合は、「10%未満」の薬局が37.6%と最も多かった。次いで「10%以上~30%未満」が25.3%となった(図表29)。
- 後発医薬品への変更が可能な処方せんを持参した患者に後発医薬品についての説明をしなかった理由は、「患者が急いでおり、説明不要と言われたから」(49.5%)が最も多く、次いで「待っている患者が多く、説明する時間的余裕がなかったから」(48.8%)、「後発医薬品の備蓄品目数が少ないから」(33.2%)であった。また、説明をしなかった「最大」の理由は「待っている患者が多く、説明する時間的余裕がなかったから」(25.6%)が最も多く、次いで「患者が急いでおり、説明不要と言われたから」(16.4%)、「後発医薬品の備蓄品目数が少ないから」(16.1%)であった(図表30)。
- 後発医薬品への変更が可能な処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品について簡潔な説明だけを行った患者の割合は、「10%未満」が40.6%と最も多く、次いで「10%以上~30%未満」が24.0%、「30%以上~50%未満」が12.5%となった(図表33)。
- 後発医薬品への変更が可能な処方せんを持参した患者のうち、後発医薬品への変更をすすめた患者の割合については、「10%未満」が45.1%と最も多く、次いで「10%以上~30%未満」が24.4%、「30%以上~50%未満」が10.4%となった(図表34)。
- 後発医薬品への変更が可能な処方せんを持参し、薬局において後発医薬品についての説明を行った患者のうち、後発医薬品の使用を希望しなかった患者の割合は、「30%以上~50%未満」が20.3%で最も多かった。(図表35)。患者が後発医薬品の使用を希望しなかった理由としては、「薬剤料等(患者自己負担額)の差額が小さいから」(36.2%)、「後発医薬品に対する不安があるから」(31.6%)であった(図表36)。
- 後発医薬品への変更調剤を行った患者のうち、2回目以降に後発医薬品の使用を希望し

なかった患者の割合は、「0%超～10%未満」が53.0%で最も多くなった（図表39）。使用を希望しなかった理由については、「使用した後発医薬品の効果に疑問があったため」（32.6%）が最も多く、次いで「使用した後発医薬品の使用感が合わなかったため」（26.4%）、「使用した後発医薬品により体調不良となったため」（22.0%）であった（図表40）。

- 患者1人に要する「後発医薬品説明＋一般的服薬指導時間」（後発医薬品についての説明と一般的な服薬指導の両方を行う場合）の平均は、初回が10.8分、2回目以降が5.7分であった。「一般的な服薬指導時間」の平均が5.8分であることから、2回目以降の患者の場合、一般的な服薬指導時間と大きくは変わらなかった（図表42）。
- 平成21年4月以前に後発医薬品への変更調剤を行った患者のうち、医療機関が、薬局で変更した当該後発医薬品の銘柄処方に切り替えた患者数の割合については、「0%」が30.0%と最も多く、次いで「10%未満」が18.2%となった。一方、「90%以上」と回答した薬局も9.4%あった（図表43）。
- 後発医薬品への変更が可能な処方せんを持参した患者のうち、当該後発医薬品の在庫がなく後発医薬品に変更できなかった患者の割合が、「10%未満」という薬局が42.2%で最も多かった。一方で、50%以上という薬局を合計すると16.0%となった（図表44）。
- 後発医薬品の備蓄品目数は、平成20年7月時点では平均117.4品目であったが、平成21年7月時点では平均145.0品目となり、増加率は23.5%となった。また、備蓄医薬品全品目に占める後発医薬品の備蓄品目数の割合は、平成20年7月時点では14.0%であったが、平成21年7月時点では16.3%とシェアが増加した（図表45）。
- 先発医薬品と同じ剤形の後発医薬品が薬価収載されていない先発医薬品の備蓄品目数は、先発医薬品がOD錠のものについては平均3.7品目、OD錠以外のものについては平均87.5品目となった（図表46）。
- 在庫がなく後発医薬品に変更できないケースをないようにするために必要な後発医薬品の備蓄品目数は、平均が309.9品目、中央値が200.0品目であった（図表47）。
- 処方せん受付時に患者に対して「後発医薬品についての説明」及び「薬剤服用歴を踏まえた服薬状況・副作用発現状況等の確認」の両方を「行っている」薬局が36.6%、「行っていない」薬局は61.7%であった（図表48）。処方せん受付時に説明・確認を「行っていない」薬局において、いつ説明・確認を「行っているか」を尋ねたところ、「説明・確認を調剤室での薬の取り揃えの後に行っている」が38.7%、「説明は、調剤室での薬の取り揃えの前に行っている」が37.5%となった（図表49）
- 採用している後発医薬品を選択した理由については、「迅速かつ安定的に製造販売業者や卸業者から入手できる」が79.3%と最も多く、次いで「後発医薬品メーカーによる品質に関する情報開示の程度」が53.9%、「近隣の保険医療機関・保険薬局への納入実績の程度」が44.0%となった（図表50）。
- 後発医薬品への変更が可能な処方せんを受け付けたが、後発医薬品に変更しなかった場合について、今後、薬局の立場で後発医薬品への変更を進めてもよいと思う場合を

尋ねたところ、「後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保」が 65.2%と最も多く、次いで「後発医薬品に対する患者の理解」が 54.9%、「医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底」が 53.7%、「剤形・規格の違いに関わらず銘柄変更調剤ができる環境の整備」が 51.8%、「後発医薬品に関する説明の手間や後発医薬品の調剤による薬剤料の減などを考慮した調剤報酬上の一層の評価」が 50.0%となった（図表 51）。

- ・ 「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度は、「知っている」が 81.4%、「知らない」が 17.3%であった（図表 52）。
- ・ 「ジェネリック医薬品希望カード」を患者から提示された経験については、「提示されたことがある」が 36.6%、「提示されたことはない」が 62.5%となった（図表 53）。提示した患者のうち、先発医薬品から後発医薬品に変更調剤を行った患者の割合をみると、「8割超〜」が 30.4%で最も多かった（図表 54）。
- ・ 「ジェネリック医薬品希望カード」配布開始後における後発医薬品希望の患者数の変化については、「変わらない」が 73.1%、「増えた」が 23.9%であった（図表 55）。
- ・ 患者が後発医薬品を頼みやすくなるような工夫としては、「薬局内に後発医薬品に関するポスターや案内板等を掲示している」が 85.3%で最も多く、次いで「薬局内に後発医薬品の普及啓発に関するリーフレット等を用意し、患者が入手できるようにしている」が 52.3%となった（図表 56）。
- ・ 調査票の様式 2 に記載のあった処方せん 5,964 枚の薬剤料の状況についてみると、記載銘柄により調剤した場合の薬剤料は平均 985.9 点であった。一方、実際に調剤した薬剤料は平均 790.9 点で、記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に対する、実際に調剤した薬剤料の割合は、平均 80.2%であった（図表 58）。
- ・ 患者一部負担金割合別に薬剤料の変化をみると、記載銘柄により調剤した場合の薬剤料に対する、実際に調剤した薬剤料の割合は、1割負担で 81.5%、3割負担で 77.9%であった（図表 59）。

【診療所・病院・医師調査】

- ・ 診療所・病院における「医薬品備蓄品目数」（それぞれ平均値は 121.7 品目、813.6 品目）のうち「後発医薬品の備蓄品目数」（同 26.3 品目、99.8 品目）の占める割合は、診療所が 21.6%、病院が 12.3%であった（図表 77）。
- ・ 後発医薬品の備蓄状況は、診療所では「1〜50 品目未満」が 54.6%で最も多かった。また、「0 品目」が 26.9%であった。病院では「100〜200 品目未満」が 32.7%で最も多く、次いで「50〜100 品目未満」が 31.9%、「1〜50 品目未満」が 24.8%となった（図表 78）。
- ・ 病院での入院患者に対する後発医薬品の使用状況別に、後発医薬品の備蓄状況をみると、後発医薬品があるものは積極的に使用している病院では、他の病院と比較して、後発医薬品の備蓄品目数が「250 品目以上」（10.4%）をはじめ、備蓄品目数の多いカテゴリの割合が相対的に高い結果となった（図表 79）。また、同様に医薬品備蓄品目数

に占める後発医薬品の備蓄品目数の割合においても「45%以上」が 16.0%と全体や他の病院と比較して相対的に高い割合となった（図表 80）。

- 1 年前と比較した入院患者に対する後発医薬品の供給体制についてみると、有床診療所・病院ともに、「変化はない」（それぞれ 73.1%、65.9%）が最も多かった。また、「改善した」は有床診療所が 24.1%、病院が 29.6%であり、「悪化した」は少なかった（それぞれ 0.9%、3.6%）（図表 81）。
- 医療機関が使用している後発医薬品リストの薬局等への提供状況については、診療所では「提供していない」（78.3%）が最も多く、次いで「近隣の薬局に提供している」（12.3%）となった。病院では、「提供していない」（57.7%）が最も多く、次いで「近隣の薬局に提供している」（19.6%）、「近隣薬局や地域の薬剤師会に提供している」（9.9%）であった（図表 82）。
- 入院患者に対する後発医薬品の使用状況についてみると、有床診療所、病院ともに「後発医薬品のあるものの一部を使用」（それぞれ 45.2%、44.8%）が最も多かった。「後発医薬品があるものは積極的に使用」という割合は有床診療所が 21.0%、病院が 37.3%であった（図表 84）。
- 入院患者に対して後発医薬品を積極的に使用しない理由としては、診療所では、「処方銘柄を長く使用し信頼」が 50.0%と最も多く、病院では、「施設として使用する医薬品の銘柄を指定している」が 42.8%で最も多くなった（図表 88）。
- DPC 対応別に、病院における入院患者に対する後発医薬品の使用状況をみると、DPC 対象病院では、DPC 準備病院や DPC に対応していない病院と比べて、「後発医薬品があるものは積極的に使用」（40.7%）、「後発医薬品のあるものの一部を使用」（49.4%）の割合が相対的に高い結果となった（図表 89）。
- 入院患者に対して後発医薬品を使用して問題が生じた経験の有無についてみると、有床診療所・病院ともに「経験はない」（それぞれ 71.3%、85.6%）が大半を占めた（図表 90）。一方で、「経験がある」と回答した 47 病院における、生じた問題の内容についてみると、「後発医薬品の供給体制上の問題」（「経験がある」と回答した病院の 38.3%）、「後発医薬品の品質上の問題」（同 31.9%）、「後発医薬品メーカーの情報提供体制上の問題」（同 25.5%）であった（図表 91）。
- 今後どのような対応が進めば施設として入院患者に対して後発医薬品の使用を進めてもよいと思うかを尋ねたところ、診療所では、「医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底」（51.3%）が最も多く、次いで「後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保」（41.3%）、「後発医薬品に対する患者の理解」（25.0%）であった。病院では、「後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保」（73.2%）が最も多く、次いで「医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底」（69.3%）、「後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価」（47.2%）であった（図表 92）。
- 今後どのような対応が進めば施設として入院患者に対して後発医薬品の使用を進めて

もよいと思うか、最も重要な要件を尋ねたところ、診療所、病院ともに「医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底」（それぞれ 26.3%、31.2%）、「後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保」（それぞれ 16.3%、23.8%）となった（図表 93）。

- 診療所 724 施設における院外処方せんの発行状況は、院外処方せんを「発行している」が 70.3%（509 施設）であった（図表 94）。
- 病院における後発医薬品の使用について、外来患者に院内投薬する場合の施設としての対応方針についてみると、「個々の医師の判断による」が 48.1%と最も多く、次いで「後発医薬品を積極的に使用」が 20.2%、「後発医薬品をほとんど使用しない」が 15.2%であった（図表 96）。
- オーダリングシステム導入別に、病院における後発医薬品の使用について、外来患者に院内投薬する場合の施設としての対応方針をみると、「後発医薬品名が表示されるオーダリングシステムを導入している」病院では、「後発医薬品を積極的に使用する」が 25.4%となり、「後発医薬品をほとんど使用しない」（16.4%）を 9.0 ポイント上回る結果となった。また、オーダリングシステムは導入しているが、後発医薬品名は表示されない病院では、「後発医薬品を積極的に使用する」が 12.2%となり、「後発医薬品をほとんど使用しない」（21.6%）を、9.4 ポイント下回る結果となった（図表 97）。
- 病院における後発医薬品の使用について、外来患者に院外処方する場合の施設としての対応方針は、「個々の医師の判断による」が 54.7%で最も多く、次いで「後発医薬品を積極的に使用している」が 21.5%、「後発医薬品をほとんど使用しない」が 3.9%であった（図表 98）。
- 病院で平成 21 年 7 月 1 か月間に発行した院外処方せんのうち、後発医薬品を銘柄指定した処方せんまたは「後発医薬品への変更不可」欄に署名等をしなかった処方せんの割合は、「90%以上」が 26.2%で最も多く、次いで「10%未満」が 23.5%であった（図表 101）。
- 1 年前と比較した、外来診療における後発医薬品の処方の変化について、診療所・病院の医師に尋ねたところ、診療所では、「多くなった」が 40.7%、「変わらない」が 56.6%であった。病院では、「多くなった」が 51.0%、「変わらない」が 48.0%であった（図表 102）。
- 診療所における院外処方せんのうち、後発医薬品を銘柄指定した処方せんの割合についてみると、「10%未満」（34.0%）が最も多く、次いで「10%以上～30%未満」（20.8%）、「30%以上～50%未満」（11.4%）であった（図表 103）。
- 平成 21 年 4 月以降に「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんの発行経験の有無について、診療所・病院の医師に尋ねたところ、「ある」と回答した医師が、診療所では 36.1%、病院では 37.2%であった（図表 104）。これらの医師において、院外処方せん枚数全体に占める「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんの割合は、診療所では「90%以上」が 42.9%、「10%未満」が 29.9%となり、病院では、「10%未

満」が42.2%、「90%以上」が24.3%となった（図表105）。

- ・ 「後発医薬品への変更不可」欄に署名した理由としては、診療所では「後発医薬品の品質が不安だから」が51.6%と最も多く、次いで「先発医薬品を長く使用し信頼しているから」が37.5%、「薬局でどのような薬剤に調剤されるか心配だから」が37.0%、「後発医薬品の効果や副作用の違いを経験したから」が34.8%であった。病院では「患者からの強い要望があったから」が40.5%と最も多く、次いで「後発医薬品の品質が不安だから」が37.0%、「先発品を長く使用し信頼している」が28.9%、「後発医薬品の効果や副作用の違いを経験したから」が24.3%となった（図表106）。
- ・ 一部の医薬品についてのみ後発医薬品への「変更不可」と記載した処方せんの発行経験の有無について、「ある」と回答した医師は、診療所では20.2%、病院では20.0%であった（図表107）。その内容として最も多いケースは、診療所・病院ともに「先発医薬品から後発医薬品への変更不可とすることが多い」（それぞれ58.3%、72.0%）であった（図表108）。
- ・ 院外処方せん枚数全体に占める、一部の医薬品について「変更不可」と記載した処方せん枚数の割合としては、診療所・病院ともに「10%未満」（それぞれ43.7%、61.3%）が最も多かった。また、診療所では、「90%以上」が29.1%と相対的に高い割合となった（図表109）。
- ・ 一部の医薬品について「変更不可」とする最も多い理由としては、診療所では、「処方銘柄に対応する後発医薬品の効能に疑問があるから」が19.4%と最も多く、次いで「処方銘柄について患者からの強い要望があるから」「処方銘柄を長く使用し信頼しているから」がともに12.6%であった。病院では、「処方銘柄について患者からの強い要望があるから」が22.6%と最も多く、次いで「処方銘柄に対応する後発医薬品の効能に疑問があるから」が20.4%であった（図表110）。
- ・ 外来患者のうち、後発医薬品について関心がある（医師に質問する、使用を希望する）患者の割合は、診療所・病院ともに「10%未満」（それぞれ75.6%、66.0%）とする回答が最も多かった（図表111）。この後発医薬品について関心がある患者数は、1年前と比較して、「変わらない」（診療所61.7%、病院66.2%）という回答が最も多く、次いで「増えた」（同32.6%、29.2%）となった（図表112）。
- ・ 外来診療時における後発医薬品の処方に関する考え方としては、診療所・病院ともに「特にこだわりはない」（それぞれ67.6%、83.0%）が最も多かった。また、「患者からの要望がなくても後発医薬品を積極的に処方する」は、診療所の医師では12.3%、病院の医師では6.2%であった。さらに、「患者からの要望があっても後発医薬品は基本的には処方しない」は診療所の医師では15.7%、病院医師では9.5%であった（図表113）。
- ・ 患者からの要望があっても後発医薬品は基本的には処方しない理由としては、「後発医薬品の品質への疑問」（診療所医師75.9%、病院医師79.5%）、「後発医薬品の効果への疑問」（同67.0%、56.8%）、「後発医薬品の副作用への不安」（同51.8%、54.5%）が多かった（図表115）。

- ・ 後発医薬品の薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るために必要なデータの内容に関する認知状況としては、「だいたい知っている」が 17.0%、「少しは知っている」が 36.8%、「ほとんど知らない」が 41.8%であった（図表 116）。
- ・ 後発医薬品の処方を進めるための環境としては、診療所・病院の医師ともに「医師や薬剤師に対する品質保証が十分であることの周知徹底」（それぞれ 65.1%、77.0%）が最も多く、次いで「後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保」（それぞれ 55.8%、71.0%）、「後発医薬品に対する患者の理解」（それぞれ 31.1%、40.9%）、「後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価」（それぞれ 24.7%、34.4%）であった（図表 117）。そのうち最も重要だと思われるものとしては、「医師や薬剤師に対する品質保証が十分であることの周知徹底」（それぞれ 37.0%、39.6%）が最も多く、次いで「後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保」（それぞれ 15.7%、23.9%）となった（図表 118）。
- ・ 保険薬局で後発医薬品に変更した場合、変更された銘柄等に関する情報提供について、診療所では「ある」が 33.4%となり、病院（25.6%）と比較して相対的に高かった。一方、病院では、「まったくない」が 37.0%となり、診療所（24.6%）と比較して相対的に高かった（図表 119）。
- ・ 保険薬局で後発医薬品に変更した場合の望ましい情報提供のあり方としては、診療所・病院の医師ともに「変更調剤が行われた都度、保険薬局からすぐに情報が提供されればよい」（それぞれ 63.7%、40.6%）が最も多かった（図表 120）。
- ・ 診療所・病院の医師の「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度は、「知っている」（それぞれ 45.6%、33.3%）、「知らない」（それぞれ 51.7%、64.9%）であった（図表 121）。「ジェネリック医薬品希望カード」を患者から提示された経験は、「提示されたことがある」（それぞれ 36.4%、18.1%）、「提示されたことはない」（それぞれ 63.0%、81.3%）であった（図表 122）。「ジェネリック医薬品希望カード」配布開始後（平成 21 年 4 月以降）に後発医薬品を希望する患者の割合は、診療所の医師では「増えた」が 34.2%、「変わらない」が 65.0%であった。病院の医師では「増えた」が 57.1%、「変わらない」が 42.9%であった（図表 124）。
- ・ 患者が後発医薬品を頼みやすくするような施設の工夫について、診療所・病院の医師ともに「特に工夫していない」（それぞれ 81.2%、67.4%）が最も多かった。次いで「院内に後発医薬品に関するポスターや案内板等を掲示している」（それぞれ 7.9%、24.3%）となった（図表 125）。

【患者調査】

- ・ 患者の性別は「男性」が 47.1%、「女性」が 52.4%であった（図表 126）。また、平均年齢は 59.5 歳（中央値 63.0）であった（図表 128）。
- ・ 受診した診療科は「内科」が 69.0%と最も多く、次いで「整形外科」が 23.3%、「眼科」が 19.7%、「耳鼻咽喉科」が 12.8%、「皮膚科」が 11.7%、「循環器科」が 10.4%であっ

た（図表 129）。

- ・ 薬局への来局頻度は、「1 か月に 1 回程度」が 48.7%で最も多く、次いで「2 週間に 1 回程度」が 19.7%であった（図表 130）。
- ・ かかりつけ薬局の有無は、かかりつけ薬局が「ある」が 80.2%、「ない」が 12.7%であった（図表 132）。
- ・ 医療保険の種類は、「国民健康保険」が 40.6%と最も多く、次いで「健康保険組合」が 23.4%、「後期高齢者医療広域連合」が 17.4%、「全国健康保険協会」が 13.4%、「共済組合」が 3.9%であった（図表 134）。
- ・ 後発医薬品の認知状況は、「知っている」が 72.4%、「名前は聞いたことがある」が 20.8%、「知らない」が 6.6%であった（図表 136）。年齢が高くなるにしたがって認知度が低くなる傾向がみられた（図表 137）。
- ・ 後発医薬品を知っている人における後発医薬品の主な説明者は、「主に薬剤師から」が 42.9%で最も多かった。次いで「説明を受けたことがない」が 30.7%、「医師と薬剤師の両方から受けた」が 21.8%、「主に医師から説明を受けた」が 2.9%であった（図表 140）。
- ・ 後発医薬品を知っている人に対して、後発医薬品の処方や調剤を依頼した経験の有無を尋ねたところ、後発医薬品の処方や調剤を「お願いしたことがある」が 24.9%、「お願いしたことはない」が 74.2%であった。男性では「お願いしたことがある」が 28.5%となり、女性（21.4%）と比較すると、7.1 ポイント高かった（図表 142）。
- ・ 後発医薬品を知っている人における後発医薬品の頼みやすさについては、「頼みやすかった」が 28.1%、「頼みにくかった」が 10.6%、「頼む気はなかった」が 49.4%となった（図表 144）。
- ・ 後発医薬品を知っている人における後発医薬品の処方や調剤を頼みやすくするために求める対応としては、「診察時に医師が説明をしてくれたり、使用の意向をたずねてくれる」が 64.3%と最も多く、次いで「処方せん受付時に薬剤師がたずねてくれる」が 54.7%となった（図表 147）。
- ・ 「ジェネリック医薬品希望カード」の認知度については、「知っている」が 20.4%、「知らない」が 79.0%であった（図表 150）。
- ・ 「ジェネリック医薬品希望カード」を知っている人における「ジェネリック医薬品希望カード」の所有状況については、「持っている」が 24.8%、「持っていない」が 74.3%となった。男性では「持っている」が 28.0%となり、女性（21.7%）と比較すると 6.3 ポイント高かった（図表 153）。
- ・ 「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人における「ジェネリック医薬品希望カード」の配布元は、「医療機関」が 33.3%と最も多く、次いで「健康保険組合」が 23.5%となった（図表 156）。
- ・ 「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人における「ジェネリック医薬品希望カード」による医師や薬剤師への依頼のしやすさでは、「質問・お願いがしやすくな

った」が 37.3%、「それほど変わらなかった」が 43.1%、「わからない」が 15.7%となった。男性では、「質問・お願いがしやすくなった」が 42.9%となり、女性（30.4%）よりも 12.5 ポイント高かった（図表 157）。

- ・ 「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人における「ジェネリック医薬品希望カード」の利用の有無については、「利用したことがある」が 37.3%、「利用したことはない」が 60.8%であった。男性では、「利用したことがある」が 42.9%となり、女性（30.4%）よりも 12.5 ポイント高かった（図表 158）。また、「ジェネリック医薬品希望カード」を持っている人の今後の利用意向は、「利用したい」が 62.7%、「利用したくない」が 33.3%であった（図表 159）。「ジェネリック医薬品希望カード」を知らない人の今後の利用意向は、「利用したい」が 54.8%、「利用したくない」が 39.2%であった（図表 160）。
- ・ 後発医薬品の使用経験の有無については、「使用したことがある」が 49.0%、「使用したことはない」が 49.0%であった（図表 162）。
- ・ 後発医薬品を使用した経験がある人に満足度を尋ねた結果、「満足している」が 41.5%、「どちらかという満足している」が 39.9%、「どちらかという不満である」が 9.1%、「不満である」が 5.8%となった（図表 164）。
- ・ 後発医薬品を使用した経験がある人に対し、後発医薬品を使用した際に窓口での薬代の負担感がどうなったか尋ねたところ、「安くなった」が 50.4%、「それほど変わらなかった」が 29.0%、「わからない」が 19.4%となった（図表 166）。
- ・ 後発医薬品に対する考え方についてみると、「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」が 38.6%で最も多く、次いで、「できればジェネリック医薬品を使いたい」が 24.0%、「できれば先発医薬品を使いたい」が 19.4%、「わからない」が 15.4%であった（図表 168）。後発医薬品の使用経験がある患者では「できればジェネリック医薬品を使いたい」が 32.1%となり、「使用経験なし」の患者（16.7%）と比較して 15.4 ポイント高かった（図表 170）。
- ・ 後発医薬品を使用するにあたって必要なこととしては、「効果があること」が 69.7%と最も多く、次いで「窓口で支払う薬代が安くなること」（67.2%）、「副作用の不安が少ないこと」（58.7%）となった（図表 173）。「窓口で支払う薬代が安くなること」と回答した人に対して、1 回に支払う金額がいくら安くなれば後発医薬品を使用したいかを尋ねた結果、「少しでも安ければ使用したい」が 39.1%で最も多く、次いで「500 円くらい」（20.3%）、「1,000 円以上」（18.7%）、「1,000 円くらい」（16.3%）となった（図表 177）。

参 考 資 料

様式 1

厚生労働省保険局医療課委託事業
平成 20 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 21 年度調査)

後発医薬品の使用状況調査 調査票

※ 以下のラベルに、電話番号、ご回答者のお名前をご記入ください。また、薬局名、所在地をご確認の上、記載内容に間違いおよび不備がございましたら、赤書きで修正してください。ご記入頂いた電話番号、お名前は、本調査の照会で使用するものであり、それ以外の目的のために使用することはございません。また、適切に保管・管理致しますので、ご記入の程、よろしくお願い申し上げます。

薬局名	
薬局の所在地	
電話番号	()
ご回答者名	()

<ご回答方法>

- ・ あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。「※○は1つだけ」という質問については、あてはまる番号を1つだけ○で囲んでください。
- ・ () 内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・ () 内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。

1. 貴薬局の状況(平成 21 年 7 月末現在)についてお伺いします。

①組織形態 ※法人の場合は、法人の形態にも○をつけてください	1. 法人 ……▶ (1.株式会社 2.有限会社 3.合資会社 4.合名会社 5.その他) 2. 個人						
②職員数(常勤換算) ※小数点以下第1位まで	薬剤師	(.) 人	その他(事務職員等)	(.) 人			
※常勤換算については、以下の方法で算出してください。また、常勤換算後の職員数は、小数点以下第1位までお答えください。 ■1週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の1週間の勤務時間) ÷ (貴薬局が定めている常勤職員の1週間の勤務時間) ■1か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の1か月の勤務時間) ÷ (貴薬局が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)							
③調剤基本料 ※○は1つだけ	1. 調剤基本料 (40点)		2. 調剤基本料 (18点)				
④基準調剤加算 ※○は1つだけ	1. 基準調剤加算 1 (10点)		2. 基準調剤加算 2 (30点)				
	3. 算定していない						
⑤後発医薬品調剤体制加算 ※○は1つだけ	1. 算定している			2. 算定していない			
⑥後発医薬品調剤率(平成 20 年および平成 21 年の 1 月から 7 月までの各月について) ※小数点以下第1位まで							
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
平成 20 年	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %
平成 21 年	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %	(.) %

2. 貴薬局の処方せん受付状況(平成 21 年 7 月 1 日～31 日の期間)についてお伺いします。

①上記期間中に受け付けた処方せんの発行医療機関数、また処方せん枚数を()内にご記入ください。					
医療機関種別	1) 処方せん発行医療機関数	2) 1)のうち、「変更不可」欄に処方医の署名等が9割以上ある機関数	3) 2)のうち、主として先発医薬品を銘柄指定している機関数	4) 2)のうち、主として後発医薬品を銘柄指定している機関数	5) 処方せん枚数
			() 施設	() 施設	
病院	() 施設	() 施設	() 施設	() 施設	() 枚
一般診療所	() 施設	() 施設	() 施設	() 施設	() 枚
歯科診療所	() 施設	() 施設	() 施設	() 施設	() 枚
合計	() 施設	() 施設	() 施設	() 施設	() 枚

② 上記①の医療機関のうち、上記期間中の処方せん枚数の最も多い1医療機関の処方せん枚数	() 枚
③ 貴薬局の半径 200m 以内に医療機関は何施設程度ありますか。	() 施設程度

3. 貴薬局の取り扱い処方せん枚数についてお伺いします。

(1) 平成 21 年 7 月 21 日(火)~27 日(月)の取り扱い処方せん枚数について、()内に枚数をご記入ください。	
① すべての取り扱い処方せん ※③と④の合計数になります。ご確認ください。	() 枚
② ①のうち、1品目でも後発医薬品を調剤した処方せん	() 枚
③ ①のうち、「後発医薬品(ジェネリック医薬品)への変更がすべて不可」欄に処方医の署名等がない処方せん	() 枚
④ ③のうち、1品目でも先発医薬品を後発医薬品に変更した処方せん (初めての变更に限らず、以前に一度変更し、今回も同様に変更した場合も含む)	() 枚
⑤ ④のうち、後発医薬品情報提供料を算定した処方せん	() 枚
⑥ ④のうち、後発医薬品分割調剤加算を算定した処方せん	() 枚
⑦ ③のうち、今回は、先発医薬品を後発医薬品に変更しなかったが、以前に一度、先発医薬品から後発医薬品に変更し、これを受けて処方医が、当該後発医薬品の銘柄処方に切り替えた処方せん	() 枚
⑧ ③のうち、1品目でも後発医薬品を他の後発医薬品に変更した処方せん	() 枚
⑨ ③のうち、処方せんに記載されたすべての先発医薬品について後発医薬品が薬価収載されていないために、後発医薬品に変更できなかった処方せん	() 枚
⑩ ③のうち、後発医薬品のみが記載された処方せん(上記⑦に該当するものを除く。)	() 枚
⑪ ③のうち、「後発医薬品についての説明」※1(P.5 参照)を行ったにもかかわらず、患者が希望しなかったために、すべて後発医薬品に変更できなかった処方せん(過去に説明した際に、患者が希望しない意思を明確にしており、今回も後発医薬品への変更をしなかった場合を含む)	() 枚
③のうち、以下の理由により、後発医薬品に変更できなかった先発医薬品が1品目でもある処方せん	
⑫ 先発医薬品の含量規格に対応した後発医薬品がなかったため	() 枚
⑬ ⑫のうち、薬価収載されていなかったため	() 枚
⑭ ⑫のうち、在庫として備蓄していなかったため	() 枚
⑮ 先発医薬品の剤形(ただし、OD錠除く)に対応した後発医薬品がなかったため	() 枚
⑯ ⑮のうち、薬価収載されていなかったため	() 枚
⑰ ⑮のうち、在庫として備蓄していなかったため	() 枚
⑱ 先発医薬品の剤形がOD錠であり、それに対応した後発医薬品がなかったため	() 枚
⑲ ⑱のうち、薬価収載されていなかったため	() 枚
⑳ ⑱のうち、在庫として備蓄していなかったため	() 枚
㉑ ①のうち、「後発医薬品(ジェネリック医薬品)への変更がすべて不可」欄に処方医の署名等がある処方せん	() 枚
㉒ ㉑のうち、後発医薬品を銘柄指定している処方せん	() 枚
㉓ ①のうち、処方せん内容の一部について変更不可としている処方せん	() 枚
㉔ ㉓のうち、一部先発医薬品について変更不可としている処方せん	() 枚
㉕ ㉓のうち、一部後発医薬品について変更不可としている処方せん	() 枚
(2) 平成 21 年 7 月 1 か月間に調剤したすべての医薬品の数量(薬価基準の規格単位ベース)のうち、後発医薬品の割合	() %

※③+④=①となります。ご確認ください

※規格単位ベースの数量：例えば錠剤の場合、単純に1か月間に調剤した全錠数を数えて計算することを意味します。

4. 後発医薬品への対応状況についてお伺いします。(平成 21 年 4 月以降)

(1) 後発医薬品の調剤に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は1つだけ

1. 後発医薬品を積極的に患者に説明して、調剤するように取り組んでいる
2. 薬効によっては後発医薬品を患者に説明して、調剤するように取り組んでいる
3. 後発医薬品の説明・調剤にはあまり積極的には取り組んでいない
4. その他 (具体的に)

▶ 4-(1)-1 どのような理由によるものでしょうか。

※あてはまる番号すべてに○

1. 後発医薬品の品質に疑問があるため
2. 後発医薬品の効果に疑問があるため
3. 後発医薬品の副作用に不安があるため
4. 後発医薬品の安定供給体制が不備であるため
5. 後発医薬品の情報提供が不備であるため
6. 後発医薬品に関する患者への普及啓発が不足なため
7. 近隣の医療機関が後発医薬品の使用に消極的なため
8. 後発医薬品の説明に時間がかかるため
9. 後発医薬品の調剤による薬剤料減に不安があるため
10. 後発医薬品の備蓄増に伴う不良在庫の拡大など、在庫管理の負担が大きいため
11. 調剤室での薬の取り揃えの前に後発医薬品を説明する業務手順となっていないため
12. その他 (具体的に)

【1～5 を選ばれた方】
4-(1)-1-1 経験や問題点を具体的にお書きください。

▶ 4-(1)-2 上記の選択肢1～12のうち、最もあてはまる番号を 1つだけ お書きください。

(2) 後発医薬品の品質保証について、どのような方法で行われているのかご存知ですか。 ※○は1つだけ

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 十分に理解している | 2. ある程度理解している |
| 3. あまり理解していない | 4. 全く理解していない |

※1 「後発医薬品についての説明」とは
後発医薬品と先発医薬品とが同等であること（例えば、品質、安定性、生物学的同等性試験結果など）の説明に加え、患者の処方せんにおける**変更前の薬剤料と変更後の薬剤料の差額等**についての説明などを指します。以下の設問についても同じです。

※2 「後発医薬品への変更が可能な処方せん」とは
 「後発医薬品が薬価収載されている先発医薬品」を含む処方せんのうち、「後発医薬品（ジェネリック医薬品）への変更がすべて不可」欄に処方医の署名等がなく、かつ、処方内容の一部に変更不可の指示があるとしても、処方医が変更不可の指示をしていない「後発医薬品が薬価収載されている先発医薬品」が1品目でもあるものを指します。以下の設問についても同じです。

(3) 後発医薬品への変更が可能な処方せん※2を持参した患者のうち、**後発医薬品についての説明※1を行った患者は**、平成21年4月以降、現在までにどの程度いましたか。 ※〇は1つだけ

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 10%未満 | 2. 10%以上～30%未満 | 3. 30%以上～50%未満 |
| 4. 50%以上～70%未満 | 5. 70%以上～90%未満 | 6. 90%以上 |

(4) 上記(3)で、**後発医薬品についての説明をしなかった理由**としては、次のうちのどれですか。
 ※あてはまる番号すべてに〇

1. 待っている患者が多く、説明する時間的余裕がなかったから
2. 患者が急いでおり、説明不要と言われたから
3. 患者が後発医薬品について十分理解していたから
4. 調剤室での薬の取り揃えの前に後発医薬品について説明する業務手順になっていないから
5. システム上、薬剤料の差額がすぐに計算できないので、患者の質問にその場で答えることができないから
6. 後発医薬品の備蓄品目数が少ないから
7. 説明しなければならぬという認識が不足していたから
8. その他(具体的に)

(4)-1 上記(4)の選択肢1～7のうち、最もあてはまる番号を1つだけお書きください。

(5) 後発医薬品への変更が可能な処方せん※2を持参した患者のうち、**後発医薬品について簡潔な説明だけを行った患者**(後発医薬品に関する説明を記載した文書を患者に手渡し、希望の有無等を確認した場合を含む。)は、平成21年4月以降、現在までにどの程度いましたか。 ※〇は1つだけ

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 10%未満 | 2. 10%以上～30%未満 | 3. 30%以上～50%未満 |
| 4. 50%以上～70%未満 | 5. 70%以上～90%未満 | 6. 90%以上 |

(6) 後発医薬品への変更が可能な処方せん※2を持参した患者のうち、**後発医薬品への変更をすすめた患者は**、平成21年4月以降、現在までにどの程度いましたか。 ※〇は1つだけ

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 10%未満 | 2. 10%以上～30%未満 | 3. 30%以上～50%未満 |
| 4. 50%以上～70%未満 | 5. 70%以上～90%未満 | 6. 90%以上 |

(7) 上記(3)の後発医薬品についての説明※1を行った患者のうち、**後発医薬品の使用を希望しなかった患者は**、どの程度いましたか。 ※〇は1つだけ

0. 希望しなかった患者はいなかった(0%)→質問(9)へ
1. 0%超～10%未満
2. 10%以上～30%未満
3. 30%以上～50%未満
4. 50%以上～70%未満
5. 70%以上～90%未満
6. 90%以上

(8) 上記(7)で、**患者が後発医薬品の使用を希望しなかった理由**として、最も多いものは、次のうちのどれですか。
 ※〇は1つだけ

1. 薬剤料等(患者自己負担額)の差額が小さいから
2. 公費負担の患者であるため、経済的インセンティブがないから
3. 過去に後発医薬品を使用したか、体調不良となった経験があるから
4. 後発医薬品に対する不安があるから
5. その他(具体的に)

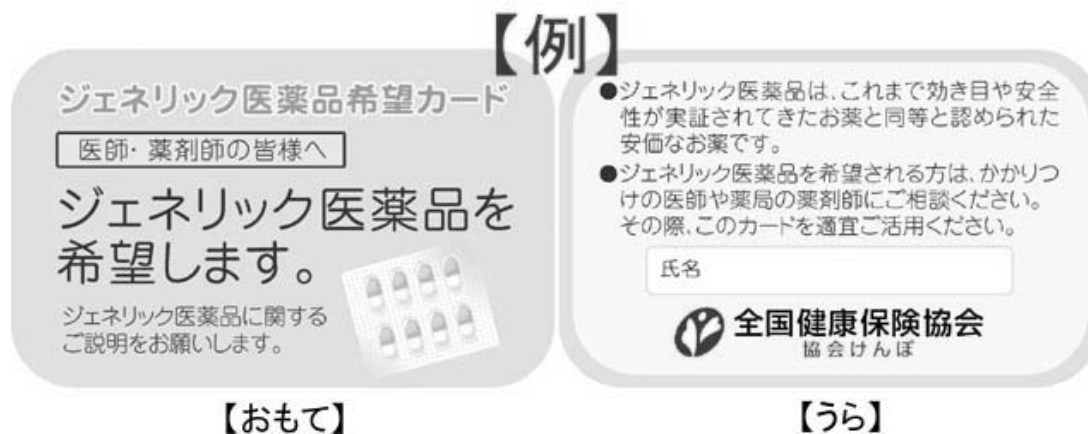
(9) 後発医薬品への変更調剤を行った患者のうち、 <u>2回目以降に後発医薬品の使用を希望しなかった患者は</u> 、平成 21 年 4 月以降、現在までにどの程度いましたか。 ※○は1つだけ			
0. 希望しなかった患者はいなかった(0%) → 質問(11)へ			
1. 0%超～10%未満		2. 10%以上～30%未満	
4. 50%以上～70%未満		6. 90%以上	
3. 30%以上～50%未満		5. 70%以上～90%未満	
(10) 上記(9)で、 <u>患者が2回目以降に後発医薬品の使用を希望しなかった理由</u> として、最も多いものは、次のうちのどれですか。 ※○は1つだけ			
1. 使用した後発医薬品の効果に疑問があったため		2. 使用した後発医薬品により体調不良となったため	
3. 使用した後発医薬品の使用感が合わなかったため		4. 後発医薬品に対する不安が消えなかったため	
5. その他 (具体的に)			
(11) ①後発医薬品への変更が可能な処方せんに基づき、先発医薬品から後発医薬品に変更して調剤する場合、後発医薬品についての説明と、一般的な服薬指導の両方を行うのに、 <u>患者1人当たりどの程度の時間(後発医薬品説明＋一般的服薬指導の合計時間)</u> がかかりますか。説明を行った患者がいなかった場合は「－」をご記入ください。 ※おおよその時間で結構です。具体的に数字をご記入ください			
	【初回の患者の場合】	約 () 分	
	【2回目以降の患者の場合】	約 () 分	
②一般的な服薬指導を行う場合、患者1人当たりどの程度の時間がかかりますか。		約 () 分	
(12) 平成 21 年 4 月以前に後発医薬品への変更調剤を行った患者のうち、医療機関が、薬局で変更した当該後発医薬品の銘柄処方に切り替えた患者数の割合		約 () %	
(13) 後発医薬品への変更が可能な処方せんを持参した患者のうち、当該後発医薬品を直ちに切り替えることができずに後発医薬品に変更できなかった患者は、どの程度いましたか。 ※○は1つだけ			
1. 10%未満		3. 30%以上～50%未満	
4. 50%以上～70%未満		6. 90%以上	
2. 10%以上～30%未満		5. 70%以上～90%未満	
(14) 医薬品の備蓄状況等			
		(ア) 全品目	(イ) うち、後発医薬品
	①平成 20 年 7 月	約 () 品目	約 () 品目
	②平成 21 年 7 月	約 () 品目	約 () 品目
	③上記②のうち、複数銘柄の後発医薬品を備えている先発医薬品の備蓄品目数	約 () 品目 例) (先発医薬品 α 10mg 後発医薬品 A 10mg 後発医薬品 B 10mg 先発医薬品 α 20mg 後発医薬品 A 20mg 後発医薬品 B 20mg) →複数銘柄の後発医薬品を備えている先発医薬品が 2 品目なので、「2 品目」と数えます。	
	④先発医薬品と同じ剤形の後発医薬品が薬価収載されていない、先発医薬品の備蓄品目数	1) 先発医薬品が OD 錠 → () 品目 2) 上記 1) 以外 → () 品目	
	⑤上記質問(13)のようなケースがないようにするためには、合計でどの程度の後発医薬品の品目数の備蓄が必要だと思いますか。	約 () 品目	

(15) 貴薬局で採用している後発医薬品を選択した理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○	
1. 後発医薬品メーカーによる品質に関する情報開示の程度 2. 他の後発医薬品よりも薬価が安価 3. 近隣の保険医療機関・保険薬局への納入実績の程度 4. 迅速かつ安定的に製造販売業者や卸業者から入手できる 5. 患者の使用感がよい（例；味がよい、臭いが気にならない、貼付感がよい） 6. 調剤がしやすい（例；容易に半割ができる、一包化調剤がしやすい） 7. その他（具体的に)
(16) 処方せん受付時に、患者に対して、「後発医薬品についての説明」及び「薬剤服用歴を踏まえた服薬状況・副作用発現状況等の確認」の両方を行っていますか。 ※○は1つだけ	
1. はい 2. いいえ	
↓ (16)-1 説明や確認を行っているのはいつですか。 ※○は1つだけ	
1. 「後発医薬品についての説明」及び「薬剤服用歴を踏まえた服薬状況・副作用発現状況等の確認」のいずれについても、調剤室での薬の取り揃えの後に行っている 2. 「後発医薬品についての説明」は、調剤室での薬の取り揃えの前に行っている 3. 「薬剤服用歴を踏まえた服薬状況・副作用発現状況等の確認」は、調剤室での薬の取り揃えの前に行っている 4. その他（具体的に)
(17) 後発医薬品への変更が可能な処方せんを受け付けたが、変更しなかった場合について、今後、どのような対応が進めば、薬局の立場として後発医薬品への変更を進めてもよいと思いますか。 ※あてはまる番号すべてに○	
1. 医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底 2. 後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保 3. 後発医薬品に対する患者の理解 4. 剤形・規格の違いに関わらずに銘柄変更調剤ができる環境の整備 5. 後発医薬品に関する説明の手間や後発医薬品の調剤による薬剤料の減などを考慮した調剤報酬上の一層の評価 6. 調剤室での薬の取り揃えの前に患者に後発医薬品について説明する等、薬局における調剤手順の見直し 7. 特に対応は必要ない 8. その他（具体的に)
(17)-1 上記の選択肢1～8のうち、最もあてはまる番号を <u>1つだけ</u> お書きください。	

5. 「ジェネリック医薬品希望カード」の提示など、後発医薬品の使用に関する患者からの意思表示の状況等についてお伺いします。

「ジェネリック医薬品希望カード」とは

後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用を希望する旨が記載されており、医師や薬剤師に提示するためのカードのことです。



※ここに示しているのはあくまでも【ジェネリック医薬品希望カードの一例】です。詳細につきましては、健康保険組合などにお問い合わせください。

(1) 「ジェネリック医薬品希望カード」を知っていますか。 ※○は1つだけ	
1. 知っている	2. 知らない
(2) 「ジェネリック医薬品希望カード」を患者から提示されたことがありますか。 ※○は1つだけ	
1. 提示されたことがある	2. 提示されたことはない →質問(4)へ
(3) 「ジェネリック医薬品希望カード」を提示された患者に対して、先発医薬品から後発医薬品に変更調剤を行った割合は、患者ベースでどのくらいですか。	
() 割	
(4) 被保険者に「ジェネリック医薬品希望カード」が配布されるようになった平成21年4月以降、後発医薬品を希望する患者は増えましたか。 ※○は1つだけ	
1. 増えた	2. 変わらない
(5) 貴薬局では、患者が後発医薬品を頼みやすくなるような工夫をされていますか。 ※あてはまる番号すべてに○	
1. 薬局内に後発医薬品に関するポスターや案内板等を掲示している 2. 受付窓口に「ジェネリック医薬品希望カード」を用意している 3. 薬局内に後発医薬品の普及啓発に関するリーフレット等を用意し、患者が入手できるようにしている 4. 後発医薬品に関心がある患者のために、専用の相談窓口を設けたり、説明担当の薬剤師を配置している 5. 薬局内で後発医薬品に関するビデオを流している 6. 処方せん受付時に、患者の意向を容易に確認できるような資材を配布している 7. その他（具体的に) 8. 特に工夫していない	

6. 後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等について、ご意見・ご要望などがありましたらご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

※引き続き、様式2のご記入もよろしくお願いいたします。

② 医師や薬剤師からジェネリック医薬品についての説明を受けたことがありますか。

※○は1つだけ

1. 医師と薬剤師の両方からジェネリック医薬品について説明を受けたことがある
2. 主に医師からジェネリック医薬品について説明を受けたことがある
3. 主に薬剤師からジェネリック医薬品について説明を受けたことがある
4. 医師や薬剤師からジェネリック医薬品について説明を受けたことがない

③ 平成21年4月以降に医師や薬剤師に「ジェネリック医薬品の処方や調剤」をお願いしたことがありますか。 ※○は1つだけ

1. お願いしたことがある
2. お願いしたことはない

④ 医師や薬剤師に「ジェネリック医薬品の処方や調剤」は頼みやすかったですか。 ※○は1つだけ

1. 頼みやすかった
2. 頼みにくかった
3. 頼む気はなかった

⑤ どうすれば、より、「ジェネリック医薬品の処方や調剤」を頼みやすくなると思いますか。

※以下1～9のうち、あてはまる番号すべてに○

医療機関における対応

1. 診察時に、医師がジェネリック医薬品について説明をしてくれたり、使用に関する意向をたずねてくれること
2. 医療機関内に、ジェネリック医薬品を希望する患者は医師に相談してほしい旨のポスター等を掲示したり、使用の意思表示ができるカード等を用意していること
3. 医療機関内に、ジェネリック医薬品に関する専用の相談窓口があったり、説明担当の薬剤師がいること
4. その他（具体的に _____）

薬局における対応

5. 処方せん受付時に、薬剤師がジェネリック医薬品の使用に関する意向をたずねてくれること
6. 薬局内に、ジェネリック医薬品を希望する患者は薬剤師に相談してほしい旨のポスター等を掲示したり、使用の意思表示ができるカード等を用意していること
7. 薬局内に、ジェネリック医薬品に関する専用の相談窓口があったり、説明担当の薬剤師がいること
8. その他（具体的に _____）

その他

9. 頼みたいとは思わない
→具体的に理由をご記入ください。

[_____]

「ジェネリック医薬品希望カード」とは

ジェネリック医薬品の使用を希望することが記載されており、医師や薬剤師に提示するためのカードのことです。

【例】

ジェネリック医薬品希望カード

医師・薬剤師の皆様へ

ジェネリック医薬品を希望します。

ジェネリック医薬品に関するご説明をお願いします。



- ジェネリック医薬品は、これまで効き目や安全性が実証されてきたお薬と同等と認められた安価なお薬です。
- ジェネリック医薬品を希望される方は、かかりつけの医師や薬局の薬剤師にご相談ください。その際、このカードを適宜ご活用ください。

氏名



【おもて】

【うら】

ここに示しているのはあくまでも【ジェネリック医薬品希望カードの一例】です。詳細につきましては、加入している健康保険組合などにお問い合わせください。

【すべての方におうかがいします】

⑥ 「ジェネリック医薬品希望カード」を知っていますか。 ※〇は1つだけ

1. 知っている

2. 知らない→質問へ⑩

⑦ 「ジェネリック医薬品希望カード」をお持ちですか。 ※〇は1つだけ

1. 持っている

2. 持っていない→質問⑩へ

⑦-1 お持ちの「ジェネリック医薬品希望カード」はどこからもらいましたか。 ※〇は1つだけ

1. 国民健康保険（国保）

2. 健康保険組合（健保組合）

3. 全国健康保険協会（協会けんぽ）

4. 共済組合（共済）

5. 後期高齢者医療広域連合（広域連合）

6. 医療機関（病院・診療所）

7. 薬局

8. その他（ ）

9. わからない・忘れた

⑦-2 「ジェネリック医薬品希望カード」をお持ちになってから、ジェネリック医薬品について医師や薬剤師に質問したり、ジェネリック医薬品の使用をお願いしたりしやすくなりましたか。

※〇は1つだけ

1. 質問・お願いがしやすくなった

2.それほど変わらなかった

3. わからない

⑧ 「ジェネリック医薬品希望カード」を利用したことがありますか。 ※〇は1つだけ

1. 利用したことがある 2. 利用したことはない

⑨ 「ジェネリック医薬品希望カード」を今後利用したいと思いませんか。 ※〇は1つだけ

1. 利用したい 2. 利用したくない

→質問⑩へお進みください。

【質問⑥で「2. 知らない」、質問⑦で「2. 持っていない」とお答えいただいた方のみご回答ください。】

⑩ 「ジェネリック医薬品希望カード」が手元があれば、それを利用したいと思いませんか。
※〇は1つだけ

1. 利用したい 2. 利用したくない

【すべての方におうかがいします】

⑪ ジェネリック医薬品を使用したことがありますか。 ※〇は1つだけ

1. ある 2. ない→質問⑫へ

<上記⑪でジェネリック医薬品を使用したことが「1. ある」と回答された方におうかがいします。>

⑪-1 ジェネリック医薬品の効果（効き目）に満足していますか。 ※〇は1つだけ

1. 満足している
2. どちらかという満足している
3. どちらかという不満である
4. 不満である

↳ ⑪-1-1 不満に感じられた点を具体的にお書きください。

⑪-2 窓口での薬代の負担感をお聞かせください。 ※〇は1つだけ

1. 安くなった 2. それほど変わらなかった 3. わからない

【すべての方におうかがいします】

⑫ ジェネリック医薬品の使用に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。 ※〇は1つだけ

1. できればジェネリック医薬品を使いたい
2. できれば先発医薬品を使いたい
3. ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない
4. わからない

⑬ あなたがジェネリック医薬品を使用するにあたって必要なことは何ですか。

※あてはまる番号すべてに○

1. 効果（効き目）があること
2. 使用感がよいこと
3. 副作用の不安が少ないこと
4. 窓口で支払う薬代が安くなること→質問⑬-1へ
5. 医師のすすめがあること
6. 薬剤師のすすめがあること
7. ジェネリック医薬品についての不安を相談できるところがあること
8. ジェネリック医薬品についての正確な情報が容易に入手できること
9. 国民皆保険（医療保険制度）を守るため、少しでも保険料を節約するという意識を持てること
10. その他（具体的に _____)
11. とくにない

⑬-1 1回にあなたが支払う金額がいくらぐらい安くなるのであれば、ジェネリック医薬品を使用したいと思いますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|-----------------------|--------------|
| 1. 少しでも安くなるのであれば使用したい | 2. 300円くらい |
| 3. 500円くらい | 4. 1,000円くらい |
| 5. 1,000円以上 | |

3. ジェネリック医薬品を使用する上でのご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

厚生労働省保険局医療課委託事業
平成 20 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 21 年度調査)
後発医薬品の使用状況調査 調査票

※この「診療所票」は医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設における後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。

※特に断りのない場合は、平成 21 年 7 月末現在の状況についてご記入ください。

ご回答者についてご記入ください。

①性別	1. 男性	2. 女性	②年齢	() 歳
③主たる担当診療科 ※○は1つだけ	1. 内科	2. 外科	3. 整形外科	4. 形成外科
	5. 小児科	6. 産婦人科	7. 呼吸器科	8. 消化器科
	9. 循環器科	10. 精神科	11. 眼科	12. 耳鼻咽喉科
	13. 泌尿器科	14. 皮膚科	15. 放射線科	
	16. その他(具体的に)			

1. 貴施設の状況についてお伺いします。

①医療機関名	()
②所在地	() 都・道・府・県
③開設者	1. 個人 2. 法人 3. その他
④種別 ※○は1つだけ	1. 無床診療所 2. 有床診療所 → 許可病床数 () 床
⑤主たる診療科 ※○は1つだけ	1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 形成外科 5. 小児科 6. 産婦人科 7. 呼吸器科 8. 消化器科 9. 循環器科 10. 精神科 11. 眼科 12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科 14. 皮膚科 15. 放射線科 16. その他(具体的に)
⑥オーダーリングシステム ※○は1つだけ	1. 後発医薬品名が表示されるオーダーリングシステムを導入している 2. オーダーリングシステムを導入しているが、後発医薬品名は表示されない 3. オーダーリングシステムは導入していない
⑦院内処方と院外処方の割合	院内処方 () % + 院外処方 () % = 100% ※処方せん枚数ベース
⑧医師数(常勤のみ)	() 人
⑨薬剤師数(常勤のみ)	() 人 ※ゼロの場合は「0」とご記入ください。
⑩医薬品の備蓄状況	
1) 医薬品備蓄品目数	約 () 品目 ※平成 21 年 7 月末現在
2) 上記 1) のうち後発医薬品の備蓄品目数	約 () 品目 ※平成 21 年 7 月末現在
⑪後発医薬品の供給体制は、1年前と比較して、どう思いますか。 ※○は1つだけ	1. 改善した 2. 変化はない 3. 悪化した

<p>⑫貴施設で使用している後発医薬品リストを近隣の薬局や地域の薬剤師会等に提供していますか。 ※〇は1つだけ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近隣薬局や地域の薬剤師会に提供している 2. 地域の薬剤師会に提供している 3. 近隣の薬局に提供している 4. 提供していない 5. その他（具体的に)
---	---

2. 入院患者に対する後発医薬品の使用状況等（平成21年7月末現在または平成21年7月1か月間の状況）についてお伺いします。ここでは、造影剤などの検査に用いる医薬品を含め、内服薬、注射薬及び外用薬の全てを対象とします。（無床診療所の方は、3. へお進みください。）

<p>①平均在院患者数 ※小数点以下第1位まで</p>	<p>(.) 人 ※平成21年7月1か月間</p>
<p>②入院患者に対する後発医薬品の使用状況は、いかがでしょうか。 ※最も近いものの番号に1つだけ〇</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 後発医薬品があるものは積極的に使用 2. 後発医薬品のあるものの一部を使用 3. 後発医薬品をほとんど使用していない 4. その他（具体的に) <p>→②-1 上記の理由としてあてはまる番号すべてに〇をつけてください。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 処方銘柄について患者からの強い要望 2. 処方銘柄に対応する後発医薬品の副作用が心配 3. 処方銘柄に対応する後発医薬品の効能に疑問 4. 後発医薬品の供給体制に不安 5. 処方銘柄の作用が強く治療域がせまい 6. 患者に適した剤形が他にない 7. 処方銘柄を長く使用し信頼 8. 診療所として使用する医薬品の銘柄を指定している 9. 後発医薬品の使用による薬剤料減への不安 10. その他（具体的に) </div>
<p>③平成21年4月以降、入院患者に後発医薬品を使用して問題が生じたことはありますか。 ※1つだけ選択し、「ある」場合は、③-1の質問についてあてはまる番号すべてに〇をつけてください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ない 2. ある <p>→③-1「ある」場合、その内容はどのようなものでしたか。 次の中からあてはまる番号すべてに〇をつけてください。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後発医薬品の品質上の問題 2. 後発医薬品メーカーの情報提供体制上の問題 3. 後発医薬品の供給体制上の問題 4. その他（具体的に) </div>
<p>④今後、どのような対応が進めば、診療所として、入院患者への投薬・注射及び外来患者への院内投薬における後発医薬品の使用を進めてもよいと思えますか。 ※あてはまる番号すべてに〇</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底 2. 後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保 3. 後発医薬品に対する患者の理解 4. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価 5. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価 6. 院内で後発医薬品の情報を独自に収集し、後発医薬品の選定・採用を行える体制の整備 7. 特に対応は必要ない 8. その他（具体的に)

④-1 上記2. ④の選択肢1～8のうち、最もあてはまる番号を1つだけお書きください。	
---	--

3. 貴施設における院外処方せん発行状況等（平成21年7月1か月間）についてお伺いします。

①貴施設では、平成21年4月以降、院外処方せんを発行していますか。 ※○は1つだけ	1. 発行している 2. 発行していない
---	-------------------------

院外処方せんを発行していない場合は、6ページの「5. 外来診療時における院内投薬の状況や後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします」へお進みください。

②外来診療の状況についてお伺いします。	
1) 1か月間の外来診療実日数（平成21年7月1か月間） ※半日診療は「0.5日」としてください。小数点以下第1位まで	(.) 日
2) 1か月間の外来延べ患者数（平成21年7月1か月間）	() 人
③外来における院外処方せん発行枚数（平成21年7月1か月間）	() 枚

4. 外来診療における処方せん発行時の状況や後発医薬品の処方に関するお考えをお伺いします。＜院外処方せんを発行している施設の方にお伺いします＞

①後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は1つだけ
1. 特にこだわりはない▶ 質問②へ 2. 患者からの要望がなくても後発医薬品を積極的に処方*する▶ 質問②へ 3. 患者からの要望があっても後発医薬品は基本的には処方しない▶ 質問①-1の後、質問②へ *後発医薬品の銘柄処方のほか、「後発医薬品への変更不可」欄に署名等を行わない場合を含みます。

＜上記質問①で「3.」を回答された方にお伺いします＞

▶ ①-1 「後発医薬品は基本的には処方しない」のどのような理由によるものでしょうか。
 ※あてはまる番号すべてに○。また、「5. 後発医薬品の情報提供の不備」を選択された場合、必要な情報を（ ）内に記入してください。

1. 後発医薬品の品質への疑問 3. 後発医薬品の副作用への不安 5. 後発医薬品の情報提供の不備 →①-1-1 どのような情報が必要ですか。 { 例：先発医薬品との同等性に関するデータ、種々の副作用の症例報告 }	2. 後発医薬品の効果への疑問 4. 後発医薬品の安定供給体制の不備 6. 後発医薬品に関する患者への普及啓発不足 7. その他 {具体的に}
---	--

.....▶ 質問②へお進みください

②1年前と比較して、後発医薬品の処方（後発医薬品への変更不可としない処方せんも含まれます）は、変化しましたか。 ※〇は1つだけ		
1. 多くなった	2. 変わらない	3. 少なくなった
③平成21年4月以降、「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんを発行したことはありますか。 ※〇は1つだけ		
1. ある	2. ない→質問④へ	
③-1 院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄に署名した（すべての医薬品について後発医薬品への変更不可とした）処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。 ※〇は1つだけ		
1. 10%未満	2. 10%以上 ~ 30%未満	3. 30%以上 ~ 50%未満
4. 50%以上 ~ 70%未満	5. 70%以上 ~ 90%未満	6. 90%以上
③-2 「後発医薬品への変更不可」欄に署名したのは、どのような理由からですか。 ※あてはまる番号すべてに〇		
1. 患者からの強い要望があったから 2. 後発医薬品の品質が不安だから 3. 後発医薬品メーカーの供給体制が不安だから 4. 後発医薬品の情報提供体制が不安だから 5. 後発医薬品の剤形が患者に適していないから 6. 薬局での後発医薬品の備蓄が不安だから 7. 後発医薬品の効果や副作用の違いを経験したから 8. 作用が強く治療域のせまい薬剤だから 9. 先発医薬品を長く使用し信頼しているから 10. 診療所として使用する医薬品の銘柄を指定しているから 11. 薬局で実際に調剤された後発医薬品名を診療録に記載するのが面倒だから 12. 薬局でどのような薬剤に調剤されるか心配だから 13. 薬剤料が安くないから 14. 特に理由はない（処方方針として） 15. その他（具体的に _____）▶ 質問④へお進みください		
④平成21年4月以降、一部の医薬品についてのみ後発医薬品への「変更不可」と記載した処方せんを発行したことはありますか。 ※〇は1つだけ		
1. ある	2. ない→質問⑤へ	
④-1 一部の医薬品について後発医薬品への「変更不可」とするのは、どのようなケースが最も多いですか。 お考えに最も近いものの番号に1つだけ〇をつけてください。 ※〇は1つだけ		
1. 先発医薬品から後発医薬品への変更不可とすることが多い 2. 後発医薬品について他銘柄の後発医薬品への変更不可とすることが多い 3. 先発医薬品・後発医薬品の区別なく変更不可とすることが多い 4. その他（具体的に _____）		
④-2 院外処方せん枚数全体に占める、一部の医薬品について「変更不可」と記載した処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。 ※〇は1つだけ		
1. 10%未満	2. 10%以上 ~ 30%未満	3. 30%以上 ~ 50%未満
4. 50%以上 ~ 70%未満	5. 70%以上 ~ 90%未満	6. 90%以上

④-3 一部の医薬品について「変更不可」とする理由は何ですか。最も多いもの1つに○をつけてください。※○は1つだけ

1. 処方銘柄について患者からの強い要望があるから
 2. 処方銘柄に対する後発医薬品の副作用が心配であるから
 3. 処方銘柄に対応する後発医薬品の効能に疑問があるから
 4. 後発医薬品の供給体制に不安があるから
 5. 処方銘柄の作用が強く治療域のせまい医薬品であるから
 6. 患者に適した剤形が他にないから
 7. 処方銘柄を長く使用し信頼しているから
 8. 診療所として使用する医薬品の銘柄を指定しているから
 9. その他（具体的に _____）
- ……………▶ 質問⑤へお進みください

⑤平成21年4月以降、後発医薬品について関心がある（質問する、使用を希望する）患者は、外来患者のうち、どの程度いらっしゃいますか。 ※○は1つだけ

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| 1. 10%未満 | 2. 10%以上 ～ 30%未満 | 3. 30%以上 ～ 50%未満 |
| 4. 50%以上 ～ 70%未満 | 5. 70%以上 ～ 90%未満 | 6. 90%以上 |

⑥上記⑤の後発医薬品について関心がある（質問する、使用を希望する）患者数は、1年前と比較して、どうですか。 ※○は1つだけ

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 非常に増えた | 2. 増えた | 3. 変わらない |
| 4. 減った | 5. 非常に減った | |

⑦院外処方せん枚数全体に占める、後発医薬品を銘柄指定した院外処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。（平成21年7月1か月間）

（ _____ ）%程度

⑧保険薬局で後発医薬品に変更した場合に、変更された銘柄等についての情報提供はありますか。 ※○は1つだけ

- | | | |
|-------|-----------|-----------|
| 1. ある | 2. だいたいある | 3. まったくない |
|-------|-----------|-----------|

⑨保険薬局で後発医薬品へ変更した場合に、どのような情報提供が望ましいと思いますか。お考えに最も近いものの番号に1つだけ○をつけてください。 ※○は1つだけ

1. 変更調剤が行われた都度、保険薬局からすぐに情報が提供されればよい
2. 次の診療時に、患者を通じて情報が提供されればよい
3. 一定期間分をまとめて、保険薬局から情報が提供されればよい
4. 新たに調剤を変更した時だけ、保険薬局から情報提供がされればよい
5. 調剤内容についての情報は必要ではない
6. その他（具体的に _____）

……………▶ 7ページの「6. 「ジェネリック医薬品希望カード」の提示など、後発医薬品の使用に関する患者からの意思表示の状況等についてお伺いします」へお進みください。

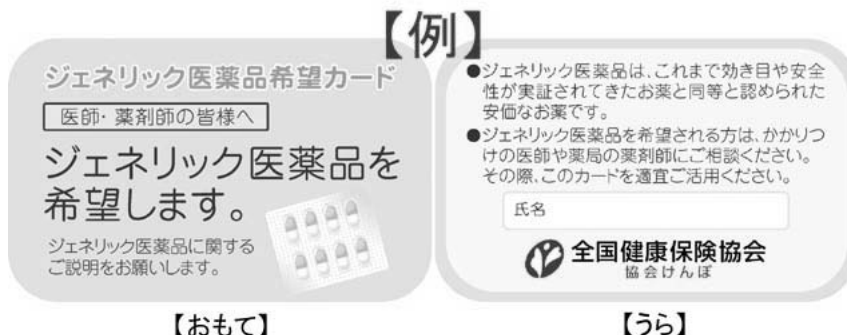
5. 外来診療時における院内投薬の状況や後発医薬品の使用に関するお考えについてお伺いします。＜院外処方せんを発行していない施設の方にお伺いします＞

①後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は1つだけ	
1. 特にこだわりはない ……………▶ 7ページの6. の質問①へ	
2. 患者からの要望がなくても後発医薬品を積極的に処方する ……………▶ 7ページの6. の質問①へ	
3. 患者からの要望があっても後発医薬品は基本的には処方しない ……………▶ 質問①-1へ	
＜上記質問①で「3.」を回答された方にお伺いします＞	
①-1 「後発医薬品は基本的には処方しない」のはどのような理由によるものでしょうか。 ※あてはまる番号すべてに○。また、「5. 後発医薬品の情報提供の不備」を選択された場合、必要な情報を（ ）内に記入してください。	
1. 後発医薬品の品質への疑問	2. 後発医薬品の効果への疑問
3. 後発医薬品の副作用への不安	4. 後発医薬品の安定供給体制の不備
5. 後発医薬品の情報提供の不備 →①-1-1 どのような情報が必要ですか。 〔 例：先発医薬品との同等性に関するデータ、種々の副作用の症例報告 〕	
6. 後発医薬品に関する患者への普及啓発不足	
7. 後発医薬品の使用による薬剤料減への不安	
8. その他〔具体的に	
	……………▶ 6. の質問①へ

6. 「ジェネリック医薬品希望カード」の提示など、後発医薬品の使用に関する患者からの意思表示の状況等についてお伺いします。〈全施設の方にお伺いします〉

「ジェネリック医薬品希望カード」とは

後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用を希望する旨が記載されており、医師や薬剤師に提示するためのカードのことで



※ここに示しているのはあくまでも【ジェネリック医薬品希望カードの一例】です。詳細につきましては、健康保険組合などにお問い合わせください。

①「ジェネリック医薬品希望カード」を知っていますか。 ※〇は1つだけ	
1. 知っている	2. 知らない→質問⑤へ
②「ジェネリック医薬品希望カード」を患者から提示されたことがありますか。 ※〇は1つだけ	
1. 提示されたことがある	2. 提示されたことはない→質問⑤へ
③「ジェネリック医薬品希望カード」を提示された患者に対して後発医薬品の処方又は「後発医薬品への変更不可」欄に署名等のない処方せんを発行した割合をご記入ください。	
() 割	
④被保険者に「ジェネリック医薬品希望カード」が配布されるようになった平成21年4月以降、後発医薬品を希望する患者は増えましたか。 ※〇は1つだけ	
1. 増えた	2. 変わらない
⑤貴施設では、患者が後発医薬品を頼みやすくなるような工夫をされていますか。 ※あてはまる番号すべてに〇	
1. 院内に後発医薬品に関するポスターや案内板等を掲示している 2. 受付窓口に「ジェネリック医薬品希望カード」を用意している 3. 院内に後発医薬品の普及啓発に関するリーフレット等を用意し、患者が入手できるようにしている 4. 後発医薬品に関心がある患者のために、専用の相談窓口を設けたり、説明担当の薬剤師を配置している 5. 院内で後発医薬品に関するビデオを流している 6. 診察時に、患者の意向を容易に確認できるような資材を配布している 7. その他（具体的に) 8. 特に工夫していない	

7. 後発医薬品の使用についてお伺いします。〈全施設の方にお伺いします〉

①後発医薬品について、薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るためには、どのようなデータ（例えば、人での血中濃度を測定する臨床試験データなど）が必要か、ご存知ですか。 ※〇は1つだけ	
1. だいたい知っている	2. 少しは知っている
3. ほとんど知らない	
②今後、どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めても良いと思いますか。 ※あてはまる番号すべてに〇	
1. 医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	
2. 後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保	
3. 後発医薬品に対する患者の理解	
4. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価	
5. 院内で後発医薬品の情報を独自に収集し、後発医薬品の選定・採用を行える体制の整備	
6. 特に対応は必要ない	
7. その他（具体的に _____）	
②-1 上記7. ②の選択肢1～7のうち、最もあてはまるものの番号を1つだけお書きください。	

8. 後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等について、ご意見・ご要望などがありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

<p>③平成 21 年 4 月以降、入院患者に後発医薬品を使用して問題が生じたことはありませんか。</p> <p>※1 つだけ選択し、「ある」場合は、③-1 の質問についてあてはまる番号すべてに○をつけてください。</p>	<p>1. ない</p> <p>2. ある</p> <p>→ ③-1 「ある」場合、その内容はどのようなものでしたか。次の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>1. 後発医薬品の品質上の問題</p> <p>2. 後発医薬品メーカーの情報提供体制上の問題</p> <p>3. 後発医薬品の供給体制上の問題</p> <p>4. その他（具体的に _____ ）</p> </div>
<p>④今後、どのような対応が進めば、病院として、入院患者への投薬・注射及び外来患者への院内投薬における後発医薬品の使用を進めてもよいと思いますか。</p> <p>※あてはまる番号すべてに○</p>	<p>1. 医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底</p> <p>2. 後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保</p> <p>3. 後発医薬品に対する患者の理解</p> <p>4. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価</p> <p>5. 後発医薬品の使用割合についての診療報酬上の評価</p> <p>6. 院内で後発医薬品の情報を独自に収集し、後発医薬品の選定・採用を行える体制の整備</p> <p>7. 特に対応は必要ない</p> <p>8. その他（具体的に _____ ）</p>
<p>④-1 上記④の選択肢 1～8のうち、最もあてはまる番号を1つだけお書きください。</p>	

4. 後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等について、ご意見・ご要望などがありましたらご記入ください。

「病院票」の質問はこれで終わりです。ご協力いただきまして、ありがとうございました。

厚生労働省保険局医療課委託事業
平成 20 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成 21 年度調査)
後発医薬品の使用状況調査 調査票

※この「医師票」は、貴施設において、院外処方せんを発行している外来診療を担当する医師の方に、後発医薬品の使用状況やお考えについてお伺いするものです。

※ご回答の際は、あてはまる番号を○(マル)で囲んでください。また、()内には具体的な数値、用語等をご記入ください。()内に数値を記入する設問で、該当なしは「0(ゼロ)」を、わからない場合は「-」をご記入ください。

※ご回答頂いた調査票は、専用の返信用封筒(切手不要)にて、直接事務局までご返送いただけますよう、お願い申し上げます。

※特に断りのない場合は、平成 21 年 7 月末現在の状況についてご記入ください。

1. あなたご自身についてお伺いします。

①性別	1. 男性 2. 女性	②年齢	() 歳
③主たる担当診療科 ※○は1つだけ	1. 内科 2. 外科 3. 整形外科 4. 形成外科 5. 小児科 6. 産婦人科 7. 呼吸器科 8. 消化器科 9. 循環器科 10. 精神科 11. 眼科 12. 耳鼻咽喉科 13. 泌尿器科 14. 皮膚科 15. 放射線科 16. その他(具体的に)		
④(ご自身の) 1日当たり平均外来診察患者数	() 人程度	※平成 21 年 7 月 1 か月間	

2. 外来診療における院外処方せん発行時の状況や後発医薬品の処方に関するお考えについてお伺いします。

①後発医薬品の処方に関するお考えとして、最も近いものはどれですか。 ※○は1つだけ				
1. 特にこだわりはない ……………▶ 質問②へ				
2. 患者からの要望がなくても後発医薬品を積極的に処方*する ……▶ 質問②へ				
3. 患者からの要望があっても後発医薬品は基本的には処方しない ……………▶ 質問①-1 の後、質問②へ *後発医薬品の銘柄処方のほか、「後発医薬品への変更不可」欄に署名等を行わない場合を含みます。				
<上記質問①で「3.」と回答された方にお伺いします>				
▶ ①-1 「後発医薬品は基本的には処方しない」のはどのような理由によるものでしょうか。 ※あてはまる番号すべてに○。また、「5. 後発医薬品の情報提供の不備」を選択された場合、必要な情報を()内に記入してください。				
1. 後発医薬品の品質への疑問	2. 後発医薬品の効果への疑問			
3. 後発医薬品の副作用への不安	4. 後発医薬品の安定供給体制の不備			
5. 後発医薬品の情報提供の不備 →①-1-1 どのような情報が必要ですか。				
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td style="padding: 0 10px;">例：先発医薬品との同等性に関するデータ、種々の副作用の症例報告</td> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> </tr> </table>		{	例：先発医薬品との同等性に関するデータ、種々の副作用の症例報告	}
{	例：先発医薬品との同等性に関するデータ、種々の副作用の症例報告	}		
6. 後発医薬品に関する患者への普及啓発不足				
7. その他 { 具体的に }				
……………▶ 質問②へお進みください				

②1 年前と比較して、後発医薬品の処方（後発医薬品への変更不可としない処方せんも含みます）は、変化しましたか。 ※○は1つだけ		
1. 多くなった	2. 変わらない	3. 少なくなった
③平成 21 年 4 月以降、「後発医薬品への変更不可」欄に署名した処方せんを発行したことはありますか。 ※○は1つだけ		
1. ある	2. ない → 質問④へ	
▶ ③-1 院外処方せん枚数全体に占める、「変更不可」欄に署名した（すべての医薬品について後発医薬品への変更不可とした）処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。 ※○は1つだけ		
1. 10%未満	2. 10%以上 ～ 30%未満	3. 30%以上 ～ 50%未満
4. 50%以上 ～ 70%未満	5. 70%以上 ～ 90%未満	6. 90%以上
③-2 「後発医薬品への変更不可」欄に署名したのは、どのような理由からですか。 ※あてはまる番号すべてに○		
1. 患者からの強い要望があったから 2. 後発医薬品の品質が不安だから 3. 後発医薬品メーカーの供給体制が不安だから 4. 後発医薬品の情報提供体制が不安だから 5. 後発医薬品の剤形が患者に適していないから 6. 薬局での後発医薬品の備蓄が不安だから 7. 後発医薬品の効果や副作用の違いを経験したから 8. 作用が強く治療域のせまい薬剤だから 9. 先発医薬品を長く使用し信頼しているから 10. 病院として使用する医薬品の銘柄を指定されているから 11. 薬局で実際に調剤された後発医薬品名を診療録に記載するのが面倒だから 12. 薬局でどのような薬剤に調剤されるか心配だから 13. 薬剤料が安くないから 14. 特に理由はない（処方方針として） 15. その他（具体的に _____）		
……………▶ 質問④へお進みください		
④平成 21 年 4 月以降、一部の医薬品についてのみ後発医薬品への「変更不可」と記載した処方せんを発行したことはありますか。 ※○は1つだけ		
1. ある	2. ない → 質問⑤へ	
▶ ④-1 一部の医薬品について後発医薬品への「変更不可」とするのは、どのようなケースが最も多いですか。お考えに最も近いものの番号に○をつけてください。 ※○は1つだけ		
1. 先発医薬品から後発医薬品への変更不可とすることが多い 2. 後発医薬品について他銘柄の後発医薬品への変更不可とすることが多い 3. 先発医薬品・後発医薬品の区別なく変更不可とすることが多い 4. その他（具体的に _____）		
④-2 院外処方せん枚数全体に占める、一部の医薬品について「変更不可」と記載した処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。 ※○は1つだけ		
1. 10%未満	2. 10%以上 ～ 30%未満	3. 30%以上 ～ 50%未満
4. 50%以上 ～ 70%未満	5. 70%以上 ～ 90%未満	6. 90%以上

④-3 一部の医薬品について「変更不可」とする理由は何ですか。最も多いもの1つに○をつけてください。
※○は1つだけ

1. 処方銘柄について患者からの強い要望があるから
2. 処方銘柄に対応する後発医薬品の副作用が心配であるから
3. 処方銘柄に対応する後発医薬品の効能に疑問があるから
4. 後発医薬品の供給体制に不安があるから
5. 処方銘柄の作用が強く治療域のせまい医薬品であるから
6. 患者に適した剤形が他にないから
7. 処方銘柄を長く使用し信頼しているから
8. 病院として使用する医薬品の銘柄を指定されているから
9. その他（具体的に _____）

……………▶ 質問⑤へお進みください

⑤平成21年4月以降、後発医薬品について関心がある（質問する、使用を希望する）患者は、外来患者のうち、どの程度いらっしゃいますか。 ※○は1つだけ

1. 10%未満	2. 10%以上 ～ 30%未満	3. 30%以上 ～ 50%未満
4. 50%以上 ～ 70%未満	5. 70%以上 ～ 90%未満	6. 90%以上

⑥上記⑤の後発医薬品について関心がある（質問する、使用を希望する）患者数は、1年前と比較して、どうですか。
※○は1つだけ

1. 非常に増えた	2. 増えた	3. 変わらない
4. 減った	5. 非常に減った	

⑦院外処方せん枚数全体に占める、後発医薬品を銘柄指定した院外処方せん枚数の割合は、どの程度ありますか。
（平成21年7月1か月間）

（ _____ ）%程度

⑧保険薬局で後発医薬品に変更した場合に、変更された銘柄等についての情報提供はありますか。 ※○は1つだけ

1. ある	2. だいたいある	3. まったくない
-------	-----------	-----------

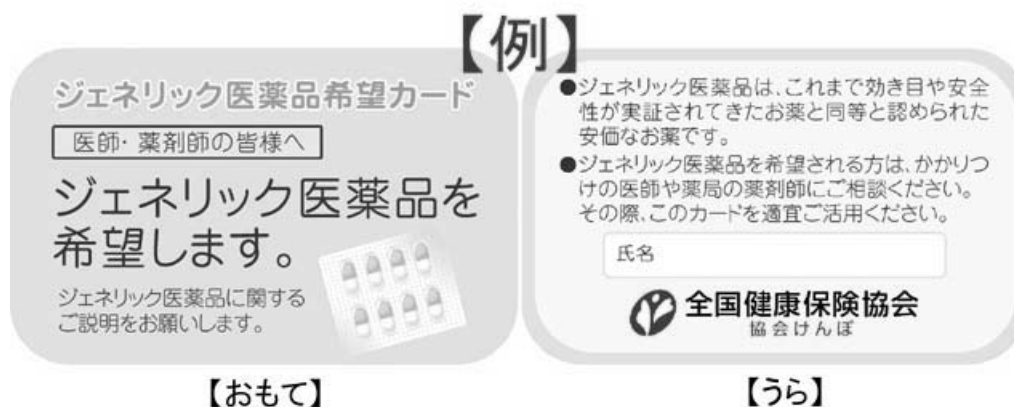
⑨保険薬局で後発医薬品へ変更した場合に、どのような情報提供が望ましいと思いますか。お考えに最も近いものの番号に1つだけ○をつけてください。 ※○は1つだけ

1. 変更調剤が行われた都度、保険薬局からすぐに情報が提供されればよい
2. 次の診療時に、患者を通じて情報が提供されればよい
3. 一定期間分をまとめて、保険薬局から情報が提供されればよい
4. 新たに調剤を変更した時だけ、保険薬局から情報提供がされればよい
5. 調剤内容についての情報は必要ではない
6. その他（具体的に _____）

3. 「ジェネリック医薬品希望カード」の提示など、後発医薬品の使用に関する患者からの意思表示の状況等についてお伺いします。

「ジェネリック医薬品希望カード」とは

後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用を希望する旨が記載されており、医師や薬剤師に提示するためのカードのことです。



※ここに示しているのはあくまでも【ジェネリック医薬品希望カードの一例】です。詳細につきましては、健康保険組合などにお問い合わせください。

①「ジェネリック医薬品希望カード」を知っていますか。 ※○は1つだけ	
1. 知っている	2. 知らない →5 ページの 4. へ
②「ジェネリック医薬品希望カード」を患者から提示されたことがありますか。 ※○は1つだけ	
1. 提示されたことがある	2. 提示されたことはない →5 ページの 4. へ
③「ジェネリック医薬品希望カード」を提示された患者に対して後発医薬品の処方又は「後発医薬品への変更不可」欄に署名等のない処方せんを発行した割合をご記入ください。	
() 割	
④被保険者に「ジェネリック医薬品希望カード」が配布されるようになった平成 21 年 4 月以降、後発医薬品を希望する患者は増えましたか。 ※○は1つだけ	
1. 増えた	2. 変わらない

4. 後発医薬品の使用についてお伺いします。

①後発医薬品について、薬事法に基づく厚生労働大臣の承認を得るためには、どのようなデータ（例えば、人での血中濃度を測定する臨床試験データなど）が必要か、ご存知ですか。 ※○は1つだけ	
1. だいたい知っている	2. 少しは知っている
3. ほとんど知らない	
②今後、どのような対応がなされれば、医師の立場として後発医薬品の処方を進めても良いと思いますか。 ※あてはまる番号すべてに○	
1. 医師や薬剤師に対する後発医薬品の品質保証が十分であることの周知徹底	
2. 後発医薬品メーカーによる情報提供や安定供給体制の確保	
3. 後発医薬品に対する患者の理解	
4. 後発医薬品を処方する際の診療報酬上の評価	
5. 院内で後発医薬品の情報を独自に収集し、後発医薬品の選定・採用を行える体制の整備	
6. 特に対応は必要ない	
7. その他（具体的に _____ ）	
②-1 上記4. ②の選択肢1～7のうち、最もあてはまるものの番号を1つだけお書きください。	

5. 後発医薬品の使用にあたっての問題点・課題等について、ご意見・ご要望などがありましたらご記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。